



厚生労働省 平成26年度 障害者総合福祉推進事業

意思疎通支援講師養成  
カリキュラム等策定事業

報告書

# あいさつ

「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業」検討委員会  
委員長 小 中 栄 一

このたび、「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業（厚生労働省 2014（平成 26）年度障害者総合福祉推進事業）」報告書が完成しましたので、ここにお届けいたします。

2013（平成 25）年 4 月より実施された障害者総合支援法では、意思疎通支援（旧：コミュニケーション支援）事業が必須事業と位置づけられました。各地では、2013（平成 25）年 3 月 27 日に厚生労働省から通達された「意思疎通支援事業モデル要綱」に基づいて事業の実施、改善に取り組まれていることと思います。養成については、手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員の養成を行うための講師が不足しており、2013（平成 25）年度において、意思疎通支援実態調査事業（厚生労働省平成 25 年度障害者総合福祉推進事業）を行い、講師養成について検討いたしました。

「手話言語法（仮称）」の制定を求める意見書議会採択の広がり、手話言語条例制定の自治体が増えることにより、手話を学ぶ人口が更に増え、講師の担い手の不足が懸念されています。

今回、手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラムの実態調査と、専門学校・大学等高等教育機関での手話教育・手話通訳者教育の実態調査を行いました。その調査結果に基づき、都道府県の講師養成事業のあり方を整理し、全国の都道府県が講師養成を円滑に実施できるよう、手話講師養成と手話通訳講師養成のモデルカリキュラム及びモデル要綱を策定しました。

また、高等教育機関での手話教育・手話通訳者教育の展開、教員・講師を担う人材育成、すなわち高等教育機関での教育者養成の検討も進めていく必要があることなどを提言としてまとめています。

人間は生きていく上で「コミュニケーション」が必要不可欠です。ぜひ全ての都道府県において、地域の聴覚障害者団体と関係団体とともに、この報告書を活用して意思疎通支援事業の実施と充実に取り組んで頂けますよう心から願っております。

最後になりますが、この事業にご協力を賜りました厚生労働省をはじめとする関係者に厚くお礼を申し上げて、報告書発刊のごあいさつといたします。

# 厚生労働省補助「平成 26 年度障害者総合福祉推進事業」 「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業」報告書

## ●あいさつ

## ●事業について ..... 2

## ●調査結果・分析 ..... 7

### 【第 1 部】

#### 手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査..... 8

##### 第 1 章 調査まとめ・提言 ..... 8

###### I 手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査結果のまとめ .....10

###### II 手話講師及び手話通訳講師養成カリキュラム等に関する提言 .....18

##### 第 2 章 都道府県 モデル要綱 .....21

###### ・手話奉仕員及び手話通訳者養成担当講師養成事業実施要綱（案） .....21

##### 第 3 章 都道府県 モデルカリキュラム .....22

###### ・手話奉仕員及び手話通訳者養成担当講師養成カリキュラム .....22

###### ・手話奉仕員及び手話通訳者養成担当講師養成カリキュラム（別紙 I） .....24

### 【第 2 部】

#### 専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査.....26

##### ・第 1 章 調査まとめ・提言 .....26

###### I 専門学校・短期大学・大学等における手話教育・手話通訳者教育実態調査結果のまとめ .....28

###### II 手話教育・手話通訳者教育を行う高等教育機関の教員・講師等実態調査結果のまとめ .....37

###### III 高等教育機関での手話教育・手話通訳者教育のカリキュラムと教員についての提言 .....49

### 【資料編】

#### ●調査票.....54

##### ①手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査

###### （1）調査票 .....54

##### ②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査

###### （1）A 票：高等教育機関調査票 .....60

###### （2）B 票：教員・講師等個票 .....69

#### ●調査結果.....74

##### ①手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査

###### （1）調査結果 .....74

##### ②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査

###### （1）高等教育機関調査結果 .....89

###### （2）高等教育教員・講師等調査結果 ..... 102

# 事業について

## ○事業目的

2013（平成 25）年 4 月 1 日より、障害者総合支援法が施行され、全国都道府県・市町村で「意思疎通支援事業」にかかる養成・派遣が必須事業と位置付けられ、全日本ろうあ連盟は、2012（平成 24）年度に「手話通訳者等の派遣に係る要綱検討事業」、2013（平成 25）年度に「意思疎通支援実態調査事業」を実施した。

これまでの調査まとめ及び提言に基づき、今年度は「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業」として、「①手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査」と、「②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査」の 2 つの実態調査を行い、調査結果の分析を基に、それぞれ提言をまとめた。

## ○事業実施内容

上記事業を実施するにあたり、以下の委員会を設け、会議を行った。

## （1）検討委員会（計 10 名／計 3 回…9 月・1 月・3 月）

…調査方法・内容の検討、調査結果・分析の評価、提言の評価

※オブザーバーとして、厚生労働省・文部科学省・国立障害者リハビリテーションセンターが出席

## （2）調査事業担当者打合せ（計 13 名／計 6 回…8 月・9 月・12 月・1 月・2 月・3 月）

…調査・結果まとめ・分析、提言案の策定

## ○委員名簿（※印は調査事業担当者も兼ねる）

| ●委 員               | 所 属                                      |
|--------------------|------------------------------------------|
| 小中 栄一（委員長）         | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 副理事長                      |
| 中橋 道紀 <sup>※</sup> | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事<br>情報・コミュニケーション委員会 委員長 |
| 林 智樹 <sup>※</sup>  | 学校法人金城学院 金城学院大学 教授                       |
| 渡辺 正夫 <sup>※</sup> | 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 副会長                    |
| 岩本 重雄 <sup>※</sup> | 社会福祉法人全国手話研修センター<br>人材養成課長兼手話検定試験事務局事務局長 |
| 本多 綾乃              | 神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設長                      |
| 吉野 博之              | さいたま市役所 保健福祉局 福祉部<br>障害福祉課 課長            |
| 石原 保志              | 国立大学法人筑波技術大学 副学長                         |
| 丹羽 紀明              | 社会福祉法人聴力障害者情報文化センター<br>常務理事              |
| 高島 良宏              | 学校法人大東学園 世田谷福祉専門学校 専任講師                  |

| ●オブザーバー                                | 所 属                                             |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------|
| < 調査事業責任者 >                            |                                                 |
| 久松 三二                                  | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 事務局長                             |
| < 調査事業担当者 >                            |                                                 |
| ①手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査チーム      |                                                 |
| 中橋 道紀                                  | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事<br>情報・コミュニケーション委員会 委員長        |
| 岩本 重雄                                  | 社会福祉法人全国手話研修センター<br>人材養成課長兼手話検定試験事務局事務局長        |
| 渋谷 雄幸                                  | 一般財団法人全日本ろうあ連盟<br>情報・コミュニケーション委員会 委員            |
| 鈴木 唯美                                  | 一般社団法人日本手話通訳士協会 副会長                             |
| 宮澤 典子                                  | 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 理事                            |
| 飛山 将紀                                  | 社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会<br>東京手話通訳等派遣センター 職員         |
| ②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査チーム |                                                 |
| 林 智樹                                   | 学校法人金城学院 金城学院大学 教授                              |
| 渡辺 正夫                                  | 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 副会長                           |
| 嶋本 恭規                                  | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事<br>情報・コミュニケーション委員会 副委員長       |
| 高橋 益代                                  | 一般財団法人全日本ろうあ連盟<br>情報・コミュニケーション委員会 委員            |
| 井谷 紀美                                  | 社会福祉法人全国手話研修センター 企画課長                           |
| 高岡 正                                   | 社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会<br>東京手話通訳等派遣センター 事務所長       |
| < 関係者 >                                |                                                 |
| 君島 淳二                                  | 国立障害者リハビリテーションセンター<br>管理部長                      |
| 木村 晴美                                  | 国立障害者リハビリテーションセンター学院<br>手話通訳学科 教官               |
| 鈴木 敏弘                                  | 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部<br>企画課 自立支援振興室 情報支援専門官     |
| 田本公一郎                                  | 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部<br>企画課 自立支援振興室 情報・意思疎通支援係長 |
| 庄司 祐介                                  | 文部科学省 高等教育局学生・留学生課<br>厚生係長（併任）就職指導係長            |
| 大西 孝志                                  | 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課<br>特別支援教育調査官（聴覚障害・言語障害教育）   |

## ○会議等の開催

### 1. 検討委員会の開催

#### ① 第1回

期 日：2014年9月2日（火） 13：30～16：30

場 所：東京・測量年金会館 2階 大会議室

出席者：

検討委員：小中栄一・中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・岩本重雄・本多綾乃・吉野博之・  
丹羽紀明・高島良宏

調査事業担当者：久松三二・渋谷雄幸・鈴木唯美・宮澤典子・飛山将紀・嶋本恭規・  
高橋益代・井谷紀美・高岡正

オブザーバー：木村晴美・鈴木敏弘・田本公一郎

議 題：委員長選出（小中副理事長）、事業説明、調査内容と方法について

#### ② 第2回

期 日：2015年1月20日（火） 13：30～16：30

場 所：東京・測量年金会館 2階 大会議室

出席者：

検討委員：小中栄一・中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・岩本重雄・本多綾乃・石原保志・  
丹羽紀明・高島良宏

調査事業担当者：久松三二・渋谷雄幸・鈴木唯美・宮澤典子・飛山将紀・嶋本恭規・  
高橋益代・井谷紀美・高岡正

オブザーバー：君島淳二・木村晴美・鈴木敏弘

議 題：調査まとめ、内容、分析について

#### ③ 第3回

期 日：2015年3月5日（木） 13：30～16：30

場 所：東京・測量年金会館 2階 大会議室

出席者：

検討委員：小中栄一・中橋道紀・林智樹・岩本重雄・本多綾乃・石原保志・丹羽紀明・  
高島良宏

調査事業担当者：久松三二・渋谷雄幸・宮澤典子・飛山将紀・嶋本恭規・高橋益代・  
井谷紀美・高岡正

オブザーバー：鈴木敏弘・田本公一郎・庄司祐介・大西孝志

議 題：提言・報告書について

### 2. 調査事業担当者打合せの開催

#### ① 第1回

日 時：2014年8月2日（土） 13：30～16：30

場 所：東京・全日本ろうあ連盟本部事務所会議室



出席者：中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・嶋本恭規

議 題：調査内容・方法等の進め方について

② 第2回

日 時：2014年9月2日（火） 10：30～12：30

場 所：東京・測量年金会館 2階 大会議室

出席者：久松三二・中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・岩本重雄・渋谷雄幸・鈴木唯美・宮澤典子・  
飛山将紀・嶋本恭規・高橋益代・井谷紀美・高岡正

議 題：各チームの調査内容・方法等の確認

③ 第3回

期 日：2014年12月23日（祝・火） 13：00～17：00

場 所：東京・かつしかシンフォニーヒルズ 別館4階ライラック

議 題：調査まとめ、内容、分析について

出席者：中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・岩本重雄・渋谷雄幸・鈴木唯美・宮澤典子・飛山将紀・  
高橋益代・井谷紀美・高岡正

議 題：調査まとめ、内容、分析について

④ 第4回

期 日：2015年1月20日（火） 16：30～18：30

場 所：東京・測量年金会館 2階 大会議室

議 題：調査まとめ、内容、分析について

出席者：久松三二・中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・岩本重雄・渋谷雄幸・鈴木唯美・宮澤典子・  
飛山将紀・嶋本恭規・高橋益代・井谷紀美・高岡正

議 題：調査まとめ、内容、分析について

⑤ 第5回

期 日：2015年2月18日（木） 9：30～16：00

場 所：東京・全日本ろうあ連盟本部事務所会議室

出席者：久松三二・中橋道紀・林智樹・渡辺正夫・嶋本恭規・岩本重雄

議 題：提言・報告書について

⑥ 第6回

期 日：2015年3月5日（木） 16：30～18：30

場 所：東京・測量年金会館 2階 大会議室

出席者：久松三二・中橋道紀・林智樹・岩本重雄・渋谷雄幸・宮澤典子・飛山将紀・嶋本恭規・  
高橋益代・井谷紀美・高岡正

議 題：提言・報告書について



○アンケート調査、ヒアリング訪問の実施（９～１１月）

①手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査【訪問】

「意思疎通支援・講師養成実態調査結果」から、手話奉仕員養成講師養成事業、手話通訳者養成講師養成事業を実施している、加盟団体、聴覚障害者情報提供施設／計 10 ヶ所を抽出。

その調査結果に基づき、都道府県の講師養成事業のあり方について提言をまとめ、モデルカリキュラムおよびモデル要綱を策定した。

- ・都道府県の講師養成事業のあり方
- ・都道府県の講師養成モデルカリキュラム策定
- ・都道府県の講師養成モデル要綱策定

②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査【郵送】

「高等教育機関への手話講師派遣に関する調査結果」から、大学 16 ヶ所、短大 15 カ所、専門学校 15 ヶ所／計 46 カ所を抽出。

当初、専門学校・大学等高等教育機関における手話及び手話通訳者養成の講師養成について、実態と課題を明らかにし、展望することが目的であった。しかし、現状として、手話及び手話通訳者養成の講師養成（教員養成）を行っている高等教育機関は 1 校しかなかったことから、専門学校、短期大学、大学を対象に、以下の点を明らかにすることを本調査の目標として設定し直し、提言をまとめた。

- ・手話教育・手話通訳者教育を行っている、専門学校、短期大学、大学、大学院のカリキュラムの実状を調査し、実態の把握とともに、適切なカリキュラムのあり方について検討した。
- ・高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育を担当する講師の実態を調査し、実態を把握するとともに、講師として必要な知識、技術、資格について検討した。
- ・手話通訳者を養成する高等教育機関の抱える課題（カリキュラム、養成実績、講師の確保など）を把握し、問題を整理した。

# 調査結果・分析

## 第1部

### 手話奉仕員及び手話通訳者養成の 講師養成カリキュラム実態調査

# 第1部

## 手話奉仕員及び手話通訳者養成の 講師養成カリキュラム実態調査

### 第1章

#### 調査まとめ・提言

#### はじめに

##### 1 調査の目的

2013（平成 25）年 4 月より実施された障害者総合支援法では、意思疎通支援（旧：コミュニケーション支援）事業において意思疎通支援を行う者の養成が、地域生活支援事業の必須事業と位置づけられたが、現状では手話奉仕員、手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員の養成を行うための講師が不足している。

昨年、厚生労働省 2013（平成 25）年度障害者総合福祉推進事業「意思疎通支援実態調査事業」において、「意思疎通支援・講師養成実態調査」を行い、講師養成のあり方を検討した。

そもそも事業を担う講師を養成する仕組みがないため、講師養成を担当する者（主任講師）を養成し、確保するところから始める必要があり、国が主任講師を養成し、その主任講師が都道府県で講師養成を行う制度を整備すること、また、講師養成のためのカリキュラムやテキスト、教材の開発、整備が必要であることが、前年度の調査で明らかになった。

これを受けて、本委員会では、都道府県・市町村で必要な数の意思疎通支援者を確保するための講師の養成、確保のあり方を検討するために、今回、「手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査」を実施した。

その調査結果に基づき、都道府県の講師養成事業の提言をまとめ、モデルカリキュラム及びモデル要綱を策定することを目的とした。

- 都道府県の講師養成事業のあり方
- 都道府県の講師養成モデルカリキュラム策定
- 都道府県の講師養成モデル要綱策定

##### 2 調査の方法

手話講師養成・手話通訳講師養成を行う全国規模の団体、都道府県聴覚障害者団体、都道府県情報提供施設、自治体等の情報を収集し、その中から 10 団体を抽出した。抽出した 10 団体に対して、調査票を郵送し、回収した。後日、事業担当者が当該団体へ訪問、回収した調査票を基に団体の担当者

に対してヒアリングを実施し、講師養成カリキュラム及び開催要綱など必要な資料を提供していただいた。

表1 調査対象団体

| 施設及び団体名                           |
|-----------------------------------|
| 社会福祉法人全国手話研修センター                  |
| 社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会 東京手話通訳等派遣センター |
| 一般社団法人新潟県聴覚障害者協会                  |
| 札幌市                               |
| 青森県聴覚障害者情報センター                    |
| 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 千葉聴覚障害者センター      |
| 一般社団法人広島県ろうあ連盟                    |
| 社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会                |
| 公益社団法人静岡県聴覚障害者協会                  |
| とちぎ視聴覚障害者情報センター                   |

調査は、①基本情報、②講師養成事業の現況、③講師養成講座修了後の講師活動について行った。

### 3 調査期間・日程

調査期間は2014（平成26）年9月から11月中旬とし、調査票の発送と回収、ヒアリングを行った。

8月に調査票を作成し、確認後、対象団体に発送した。ヒアリングの1週間前には調査票を回収し、事業担当者で分担して10団体へ訪問、ヒアリングを行った。その後データ入力を行い、11月から1月の間に、集計と分析作業を行った。

### 4 調査票の回収及びヒアリング状況

10団体より全て、調査票を回収し、ヒアリングに応じていただいた。

## I 手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査結果のまとめ

### 1) 手話講師養成及び手話通訳講師養成の実施状況

10団体のうち、手話講師養成を行っているところは全団体、手話通訳講師養成を行っているところは8団体であった。

表2 講師養成事業の実施

|        | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計  |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 手話講師   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| 手話通訳講師 | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ | 8  |

### 2) 事業開始理由

1998（平成10）年の「手話奉仕員及び手話通訳者養成カリキュラム」通達に基づき、カリキュラムに沿って、どこの会場においても誰もが一定の水準で指導できる講師の技術と知識が求められているということが一番大きな理由である。都道府県において講師養成事業実施を促進するためには、厚生労働省からカリキュラムの通達が重要であることが示されている。

表3 事業開始理由 \*文末数字は同主旨記述数

|                                |
|--------------------------------|
| 全日本ろうあ連盟、厚生労働省からの委託事業として開始     |
| 自主事業として開始                      |
| 手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラム通達を受けて開始    |
| 情報提供施設の開設により開始                 |
| 講師の資質・技能向上のため (2)              |
| 講師担当者を明確にするため                  |
| 新テキストに対応できる講師の養成が必要となった        |
| 手話奉仕員養成事業が市町村必須事業となり、講師を確保するため |

### 3) 講師養成カリキュラム及び実施要綱

講師養成カリキュラム及び実施要綱の策定にあたって、7団体は全国手話研修センター発行の手話奉仕員及び手話通訳者養成講座指導書または同センターによる担当講師連続講座を参考としている。また、講師養成カリキュラム及び実施要綱を独自に策定することは難しいとの意見があった。

表4 講師養成カリキュラム・実施要綱の有無

|        |          | 有り 合計 |
|--------|----------|-------|
| 手話講師   | カリキュラム有り | 7     |
|        | 実施要綱有り   | 7     |
| 手話通訳講師 | カリキュラム有り | 5     |
|        | 実施要綱有り   | 5     |

## 4) 事業費

講師養成の事業費について、全国手話研修センターを除く6団体は都道府県より公費助成を受けて実施している。

公費助成金の最大は507万円、最小は20万円、平均は171万円であった。

事業費の予算はばらつきがみられる。助成金を受けた場合、その金額によって講習会の回数を決定している。事業費の最大は507万円、最小は11万円、平均は138万円であった。

表5 助成金等収入の状況

|           |   |              |
|-----------|---|--------------|
| 国の助成あり    | 1 | * 全国手話研修センター |
| 都道府県の助成あり | 6 |              |
| 受講者の参加費   | 2 |              |
| その他       | 2 |              |

表6 講師養成にかかる事業費及び助成金 (円)

|         |     | 平均        | 最大        | 最小      |
|---------|-----|-----------|-----------|---------|
| 事業費全体   | * 1 | 1,380,501 | 5,074,180 | 112,000 |
| 都道府県助成金 | * 2 | 1,710,302 | 5,074,180 | 199,570 |

\* 1 (全国手話研修センター(国助成)・F県(養成事業全体費用に含まれるため)・H県(情報提供施設全体予算の中で実施するため)をのぞく)

\* 2 (全国手話研修センター(国助成)・F県(養成事業全体費用に含まれるため)をのぞく)

講師養成講座の担当講師への1時間あたりの謝礼は、最大30,000円、最少3,000円であった。謝礼金額の平均額は10,000円程であった。

表7 講師謝礼／1時間あたり

|                |   |
|----------------|---|
| 30,000円        | 1 |
| 18,000円        | 1 |
| 10,000円        | 1 |
| 5,000円～10,000円 | 3 |
| 5,000円以下       | 3 |

行政は講師養成の必要性を感じているものの、事業の予算化ができていないのが実情である。多くの行政が国の予算化を要望している。

公費助成がないところでは、単年度のみであるが手話通訳者養成講座の予算を活用して講師養成講座を開催したり、実施主体が負担したり、受講者から受講料等を徴収したりする等の工夫により、講師養成事業を実施している。

## 5) 講座回数・定員・時間等

手話講師養成のための講座回数について、最大は40回、最小は1回であった。1回当たりの受講時間は最大で10時間ほど、最小は2時間であった。

手話通訳講師養成のための講座回数は、最大は20回、最小は1回であった。

講座回数が少ないところほど、1回あたりの講座時間が長時間となっている。地理的条件、予算によって講座の形態が決まる状況が見られる。

講座の定員は、30名と設定しているところが多い。講座回数の少ない講習会で、かつ講義中心の場合は、特に定員を設定していないところがある。

受講資料は、無料とするところが半数となっている。

表8 手話講師養成講座の実施形式

|         | 平均       | 最大      | 最小     |
|---------|----------|---------|--------|
| 講座回数    | 12回      | 40回     | 1回     |
| 定員      | 47人      | 125人    | 20人    |
| 延べ日数    | 13日      | 40日     | 20人日   |
| 延べ時間    | 33時間     | 80時間    | 9時間    |
| 時間 / コマ | 一コマ 128分 | 140分    | 120分   |
| コマ数 / 回 | 1回 4コマ   | 4コマ     | 3コマ    |
| 受講料     | 13,000円  | 24,000円 | 3,000円 |

\* 6団体は無料と回答

表9 手話通訳講師養成講座の実施形式

|         | 平均       | 最大         | 最小   |
|---------|----------|------------|------|
| 講座回数    | 7回       | 20回        | 1回   |
| 定員      | 24人      | 30人        | 14人  |
| 延べ日数    | 9日       | 21日        | 1日   |
| 延べ時間    | 31時間     | 75.5時間     | 5時間  |
| コマ数     | 1コマ 140分 | 150分       | 120分 |
| コマ数 / 回 | 1回 3コマ   | 4コマ        | 1コマ  |
| 受講料     | 24,000円  | * 1団体のみの回答 |      |

\* 4団体は無料と回答

講座の開講時間帯は、全日で行うところが多いが、午後、夜間、午後から翌日午後という実施形態もみられる。

表10 講座開講時間帯

| 講習時間帯   | 手話講師養成講座 | 手話通訳講師養成講座 |
|---------|----------|------------|
| 全日      | 3        | 3          |
| 午前      | 0        | 0          |
| 午後      | 1        | 0          |
| 夜間      | 0        | 1          |
| 午後～翌日午後 | 1        | 2          |

## 6) 受講条件

手話講師養成講座の受講条件は、手話奉仕員養成を指導している者、若しくは指導予定の者として、いるが、聴覚障害者の場合は、ろうあ運動の歴史、福祉制度の知識を有する者で、所属協会会長の推薦する者と明確な条件を提示している団体がある。健聴者の場合は、手話通訳士・手話通訳者という条件を出している。



手話通訳講師養成講座の受講条件は、手話通訳者養成指導に携わっている、または予定者、手話奉仕員養成講座講師があげられている。健聴者の場合は、手話通訳士あるいは手話通訳者としている。

表 11 手話講師養成講座の受講条件 \*文末数字は同主旨記述数

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 市町村で講習会等指導しているまたは予定者 | (4) |
| 手話を修得している者           |     |
| 聴覚障害者協会会員            |     |
| 手話通訳士                |     |
| 統一試験合格者              |     |
| 登録手話通訳者              |     |
| 地域聴覚障害者協会推薦がある者      |     |
| 役員活動3年以上のもの          |     |
| 情報提供施設長の推薦がある者       |     |

\*多数は、上記条件を複数組み合わせ提示している。

表 12 手話通訳講師養成講座の受講条件 \*文末数字は同主旨記述数

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 手話通訳者養成指導に携わっているまたは予定者 | (3) |
| 手話普及の講師または助手           |     |
| 手話通訳士または統一試験合格者        | (2) |
| 手話奉仕員養成講師担当者           | (2) |

## 7) 修了条件

全講座出席を求めるところと、75～80%出席で修了を認めるところの2通りに大別できる。但し、欠席の講座は補講を受けるか、レポートを提出することを修了条件に加えているところもある。講座回数が1～3回と少ないところは特に修了条件を定めていない。

表 13 手話講師養成講座の修了条件

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 4分の3以上の出席。欠席分はレポート提出   |     |
| 80%以上の出席。欠席分は補講とレポート提出 |     |
| 各回ごとに受講証明授与            |     |
| 全講座出席                  | (2) |
| 特になし                   | (3) |

表 14 手話通訳講師養成講座の修了条件 \*文末数字は同主旨記述数

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 全講座出席                   | (2) |
| 各課程毎に全て出席した者に受講証明書を授与する |     |
| 特になし                    | (2) |

## 8) 講座カリキュラム

手話講師養成講座の講座時間数の最大は63.4時間、最小は16時間で、平均は35.9時間となっている。

る。実技指導は平均 25 時間と、実技指導に重点が置かれている。

手話通訳講師養成講座の講座時間数の最大は 75.5 時間、最小は 10 時間で、平均は 41.6 時間となっている。実技指導は平均 35.8 時間と、実技指導に重点が置かれている。

B 県の場合は、テキストによる指導方法だけでなく、講師の倫理、第 2 言語の習得プロセス理論や、受講者の心理などを学ぶ科目を導入している。これらの科目は、講師の資質を高めるための内容となっている。

表 15 手話講師養成カリキュラム時間数 (時間)

|      | 平均   | 最大   | 最小 |
|------|------|------|----|
| 講義   | 10.9 | 14.1 | 1  |
| 実技   | 25   | 49.3 | 0  |
| 講座合計 | 35.9 | 63.4 | 16 |

表 16 手話通訳講師養成カリキュラム時間数 (時間)

|      | 平均   | 最大    | 最小  |
|------|------|-------|-----|
| 講義   | 10.9 | 14.32 | 4.5 |
| 実技   | 35.8 | 57.5  | 0   |
| 講座合計 | 41.6 | 75.5  | 10  |

## 9) 講座で使用するテキスト

独自のテキストを使用する B 県を除くほとんどの団体は、全国手話研修センターの手話奉仕員養成テキスト及び指導書、手話通訳者養成テキスト及び指導書を使用している。

表 17 手話講師養成講座での使用テキスト

|             | 合計 |
|-------------|----|
| 手話奉仕員養成・指導書 | 8  |
| 独自のテキスト     | 1  |
| 無回答         | 1  |

表 18 手話通訳講師養成講座での使用テキスト

|             | 合計 |
|-------------|----|
| 手話通訳 I・指導書  | 7  |
| 手話通訳 II・指導書 | 4  |
| 無回答         | 0  |

## 10) 模擬講座で受講者をつとめるモニター受講者

模擬講座を実施しているのは 6 団体である。モニター受講者の募集方法は、団体のホームページで募集したり、手話奉仕員養成講習会の受講中である者に呼びかけたりしている。

## 11) 現在抱えている課題

講師の高齢化と後継者の確保が困難であること、特に聴覚障害講師が不足していること、講師研修事業の運営のための財源が確保されていないこと、受講者の知識・技術にばらつきがある、講師の資質の維持向上等の多くの課題が示された。

表 19 手話講師養成課題 \*文末数字は同主旨記述数

|                  |     |
|------------------|-----|
| 講師の人材不足          | (5) |
| 財政不足             | (3) |
| 講師の高齢化           | (2) |
| 受講者の知識や技術のばらつき   | (3) |
| 研修会の日程調整が大変      | (2) |
| 講師の地域偏在          | (2) |
| 研修を受けないままに指導している |     |
| 講師の知識不足          |     |
| 地理的条件で参加者が少ない    |     |

表 20 手話通訳講師養成課題

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 講師の高齢化               | (3) |
| 財政不足                 | (2) |
| 聴覚障害講師の不足            | (2) |
| 講師の地域偏在              | (2) |
| 受講者の知識や技術のばらつき       |     |
| 地理的条件により参加者が少ない      |     |
| 全国手話研修センターの研修に参加できない |     |
| モニター生を集めるのに苦労する      |     |

## 12) 講師養成事業についての要望・意見

講師間連携に関することなどのカリキュラムの充実、理論学習面の強化、情報交換・情報共有の必要性、講師の資質確保のためのシステムづくり、講師養成事業の国の予算化、などが意見として出された。

表 21 手話講師養成事業への要望・意見 \*文末数字は同主旨記述数

|                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|
| 模擬講座の実施 (2)                                                            |
| 都道府県の代表者(及び講師職員の配置)の講師の育成(モラルなど含む)                                     |
| 全講座の実施(長期的なカリキュラム)                                                     |
| 意思疎通支援に係る教材作成                                                          |
| 実務体制(講師と実務の兼務等)                                                        |
| 指導書の充実化 等                                                              |
| 指導ができる講師養成カリキュラムが必要。(厚生労働省のテキスト)                                       |
| カリキュラム(講義理解・指導ノウハウ・指導演習・受講生の気持ちを推測する力・手話の分析力・理論を説明する力を養うなど)            |
| 聴覚障害者団体及び関係団体とで聴覚障害者・健聴者ともに学習の場(地区ブロック)が必要。(講師養成)                      |
| 指導方法・健聴講師との連携・助手の役割等々もカリキュラムに加えて欲しい。                                   |
| 区市で講習会の回数・テキストがまちまちの状況、情報交換及び共有化が大切                                    |
| 日本手話教授法(ナチュラルアプローチ教授法) →聴覚障害講師が自信を持って教えられるようにしたい。<br>解説版や指導者DVDを参考。    |
| 指導案作成の演習                                                               |
| 講師のレベルに合わせた研修があるとよい。(初心者向け、経験3年以上向け等)                                  |
| 地域で研修会を開催するための講師斡旋をする団体があるとよい。                                         |
| 東日本・西日本各地へ派遣できる講師を紹介してほしい。                                             |
| 実技に加えて手話奉仕員養成及び手話通訳者養成の講義に関する知識も講座に盛り込むことで、理論面の強化を図ることが望ましい。           |
| 手話通訳者養成と同様に、講師養成においても「心構え、モラル、理念」等を講義科目に盛り込み、講師活動においての講師のモチベーションを高めたい。 |
| 指導案の作り方、書き方                                                            |
| 聴覚障害講師、健聴講師の役割分担の在り方                                                   |
| 市町から参加しやすい日数・時間                                                        |
| カリキュラム内講師条件に、「講師養成講座修了者」を明記。(現状では聴覚障害者であればだれでも可能と受け取れる内容)              |

表 22 手話通訳講師養成事業への要望・意見

|                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 県内で受講対象となる人がまだ少ないため、ブロックごとに講師養成事業を開催してはどうか。                                          |
| 指導案の作り方、書き方                                                                          |
| 聴覚障害講師、健聴講師の役割分担の在り方                                                                 |
| 実習(←模擬講座)                                                                            |
| 全国手話研修センターによる講師リーダー研修だけでは、十分ではない。(時間数が少ない)                                           |
| 改訂テキストの構成やねらいについて、解釈しにくい面がいくつかあり、困惑している。<br>※現在の研修センターの研修では不十分。日本語教育者の養成並みの時間、内容が必要。 |
| 講師養成のための学校があればよい。                                                                    |
| 幅広い方々が講師を担えるように、講座運営以外に、文法や要約についての基礎部分を取り入れてほしい。                                     |

### 13) 講師登録後の活動・研修について

登録制度有りと回答したのは6団体である。登録方法は講座修了が条件となっている。ただし、講座を受講すれば全員が一律に指導技術を習得できるというわけではないため、さらに登録試験を実施する団体もあった。

登録更新も行われているが、更新方法は、書類提出のみで更新とするところ、面接を行うところ、

講師への意向確認のみというところ等、様々であった。

表 23 講師登録制・更新制度の有無

|        | 登録制有り | 登録更新制度有り |
|--------|-------|----------|
| 手話講師   | 6     | 4        |
| 手話通訳講師 | 6     | 5        |

登録制度有りと回答した団体が全て講師団を結成している。講師団の会議の内容は、講座日程及び指導担当分担の確認、養成講座実施状況の情報共有、養成講座の反省などである。

表 24 講師団の有無と年間会議数

|        | 講師団有り | 講師団会議の回数 |
|--------|-------|----------|
| 手話講師   | 5     | 平均3回     |
| 手話通訳講師 | 6     | 平均4回     |

登録後の講師研修の実施は手話講師研修が4団体、手話通訳講師研修は5団体であった。

講師養成講座に参加する形で研修としているところもあるが、専門的知識の講義、教材の使い方、教授法、模擬指導、情報交換を行っている。

表 25 修了後の講師研修の有無と研修回数

|        | 研修有り | 研修回数 |
|--------|------|------|
| 手話講師   | 4    | 平均5回 |
| 手話通訳講師 | 5    | 平均1回 |

#### 14) 講師派遣コーディネートの実施及び課題について

登録された講師を派遣コーディネートしているところは、3団体であった。他の団体では、斡旋のみ行う、講座実施自治体が直接講師を確保しているという状況であった。

講師派遣コーディネートの課題としては、講師不足、講師対象の研修会が開けない、講師からの相談対応があげられた。

## II 手話講師及び手話通訳講師養成カリキュラム等に関する提言

以上の調査のまとめから、都道府県で講師養成事業を行うための講師養成カリキュラム及び実施要綱について提言を行う。

### 1) 科目名と時間数

#### <手話講師養成カリキュラム> 50 時間

|    | 時間数 |     | 教科名       |
|----|-----|-----|-----------|
| 講義 | 20h | 4h  | 企画運営法     |
|    |     | 6h  | 教授法       |
|    |     | 2h  | 障害学       |
|    |     | 2h  | 障害福祉論     |
|    |     | 2h  | 聴覚障害運動論   |
|    |     | 4h  | 手話通訳論     |
| 実技 | 30h | 4h  | テキストのポイント |
|    |     | 10h | モデル講座・討議  |
|    |     | 12h | 模擬講座・討議   |
|    |     | 4h  | グループワーク   |

#### <手話通訳講師養成カリキュラム> 50 時間

|    | 時間数 |     | 教科名       |
|----|-----|-----|-----------|
| 講義 | 20h | 4h  | 企画運営法     |
|    |     | 8h  | 教授法       |
|    |     | 4h  | 手話通訳論     |
|    |     | 2h  | 専門職理論     |
|    |     | 2h  | 社会福祉援助技術論 |
| 実技 | 30h | 6h  | テキストのポイント |
|    |     | 10h | モデル講座・討議  |
|    |     | 8h  | 模擬講座・討議   |
|    |     | 6h  | グループワーク   |

講師は、手話が音声日本語と違う文法を持つ言語であることを十分に理解する必要がある。健聴者とうろう者の生活、文化の違いをどう教えるか、聴覚障害者の心理や暮らしの実状や社会的障壁についての理解や対応などを教える力があるかが重要である。手話を学ぶ、または手話通訳を学ぶ受講者が将来、どのような人に育ってほしいのか、どのような活動をして欲しいのかなどのビジョンを持って指導する必要がある。講師というのは手話の技術を教えるだけではないということを改めて強調したい。

### 2) 使用テキスト

手話奉仕員及び手話通訳者養成テキスト・指導書をベースとして、提言する養成講師養成カリキュ



ラムに合わせた、新たな養成テキストの作成、教材開発が必要である。

### 3) 定員

聴覚障害受講者と健聴受講者のペアで受講してもらうことを必要な条件とし、主任講師が受講者全員に目が行き届き、きめ細かい指導を行うことができること、模擬講座を組みやすいこと、グループ討議においては、6人×5組もしくは5人×6組というグループ分けが話し合いやすく、時間内に意見が集約しやすいことから、30名とすることが望ましい。

市町村数が多い都道府県においては、30名以上の講師確保が求められる。その場合は30名単位で数クラスに分けることも考慮する必要がある。

### 4) 受講条件

聴覚障害者福祉及び手話指導ならびに手話通訳指導に理解と熱意があり、地域の養成講座に協力する意志のある者、とする。手話通訳士試験の受験資格が20才以上であることから、20才以上と設定した。聴覚障害者及び手話通訳制度の歴史及び福祉制度の知識を有することが必要であることから、聴覚障害者団体及び手話通訳者団体長の推薦を受けた者が望ましい。

### 5) 修了条件

全講座出席が望ましい。やむをえず欠席した場合は、2年間で該当科目の補講及びレポート提出などで補うこととする。

### 6) 講師の認定及び登録

質の高い意思疎通支援者を養成するためには、講師選考委員会を設けるか、または講師登録試験を行い、講師の認定・登録制度を設けることが必要である。しかし、講師登録試験を行うことによって必要な講師数を確保できない懸念もあり、登録試験の在り方については、検討課題としたい。

当面の間は、講師養成講座の修了者が講師登録をし、講師団会議及び研修で講師資質の向上を図ることで対応するものとする。

### 7) 財源確保

講師謝礼は1時間あたり1人10,000円以上が望ましい。この謝礼を基準にして財源を確保する。外部から講師を招くときの手話通訳等の情報保障費についても考慮すること。

### 8) 国の予算化を目指して、講師養成事業の法的位置づけの明確化

講師養成事業を全都道府県で実施するための予算化については、講師養成に係る法的位置づけを明確にする必要がある。そのためには障害者総合支援法等で講師養成を位置付ける必要がある。

### 9) 講座後の講師活動について

講師の資質を維持するためには講師団を結成し運営することが欠かせない。障害者を取り巻く法制度は常に変わるので、講習会主催団体は、講師登録・更新研修会・その他の研修会など実施し、講師はそれに定期的に参加することが望ましい。



## 10) 講師派遣コーディネーター

現在、手話言語法及び手話言語条例制定への機運が高まり、県や市町において手話言語条例を制定しているところが増えてきている。手話を学ぶ学校、企業、国民が増えるので、講師派遣コーディネーターが欠かせない。聴覚障害者情報提供施設等が行うことが望ましい。

## 11) 国の事業としての主任講師養成事業（次年度事業）

都道府県における講師養成事業は全国どの地域においても一定のレベルを保った講師を養成する必要がある。そのためには、国の事業として講師養成事業を担当する主任講師養成が重要である。

現在、手話奉仕員及び手話通訳者担当講師リーダー養成研修会を国の事業として実施している。この事業を主任講師養成事業につなげ、拡充していくことが課題である。併せて都道府県は、この講師リーダー養成研修会への派遣費を確保することが必要である。

障害者総合支援法では手話奉仕員養成事業が市町村必須事業となっている。2014（平成26）年4月現在、1,718区市町村あるが、聴覚障害講師と健聴講師のペアで一つの区市町村講習会を担当する場合、手話奉仕員養成だけで最低でも3,500名程度の講師を確保する必要がある。

また、手話言語法制定を求める意見書議会採択の広がり、手話言語条例制定の自治体が増えることにより、手話を学ぶ人口が更に増え、講師の担い手不足が懸念されている。しかし、昨今の講師は、仕事、団体活動、通訳活動をしながらボランティアでしている人が多い。一つの講習会に専任する講師は少なく、4人以上の複数講師のローテーション方式で担当している地域が圧倒的に多い状況である。

その課題を解消するためには国が主任講師を養成し、その主任講師が都道府県で講師養成を行う制度の整備が喫緊の課題である。主任講師養成事業の実施に取り組む一方で、高等教育機関での手話教育・手話通訳者教育の展開、教員・講師を担う人材育成、すなわち高等教育機関での教育者養成の検討も進めていく必要がある。

併せて、講師登録試験の在り方についても検討する必要がある。

## 第2章

## 都道府県モデル要綱

### (〇〇) 県 手話奉仕員及び手話通訳者養成担当講師養成事業実施要綱（案）

#### (目的)

第1条 この要綱は、手話奉仕員及び手話通訳者を養成する講習会（以下「講習会」という。）の安定的な実施を図るため、講師の役割を担う者を養成することを目的とする。

#### (事業の委託)

第2条 この事業は、知事が適当と認めた法人等（以下「受託者」という。）に委託して実施するものとする。

#### (事業の運営)

第3条 第2条に規定するこの事業の受託者は、事業の実施にあたって、関係団体による運営委員会を設置し、運営にあたるものとする。

#### (研修内容)

第4条 受託者は、別表に定める研修内容に基づき事業を実施するものとする。

#### (受講対象者)

第5条 この事業の受講者は、聴覚障害者福祉に理解と熱意を有し、県内に居住する20歳以上の者で受託者が適当と認めた者とする。

#### (手話奉仕員及び手話通訳者養成担当講師活動の促進)

第6条 この事業の受託者は、修了者に対し、県が実施する手話通訳者養成事業、各区市町村が実施する手話奉仕員養成事業の講師活動への積極的な参加を促すものとする。

#### (その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

#### 附 則

この要綱は、平成〇年〇月〇日から施行する。

## 第3章

## 都道府県モデルカリキュラム

## 手話奉仕員及び手話通訳者養成担当講師養成カリキュラム

|          |                         |       |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------|-------------------------|-------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カリキュラム構成 | <手話奉仕員養成><br>入門編<br>基礎編 | 50 時間 | 対象者         | 手話の指導経験がない者等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|          |                         |       | 養成目標        | 聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等と手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術に関する指導技術を習得する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|          |                         |       | 講義<br>20 時間 | ○企画運営法Ⅰ…奉仕員養成講座企画にあたって、テキストの概要と活用方法等<br>○教授法Ⅰ…教授方法、講師の心構え、講師のマナー等<br>○教授法Ⅱ…奉仕員養成に沿った指導案作成とポイント等<br>○障害学…障害について、聴覚障害の基礎知識等<br>○障害福祉論…身体障害者福祉概論、聴覚障害者福祉概論等<br>○運動論…聴覚障害者運動、手話の基礎知識、聴覚障害者の生活等<br>○手話通訳論Ⅰ…手話通訳について、聞こえない人と共に歩むこと等<br>○社会福祉論…ボランティア活動等                                                                                                                                                                                   |
|          |                         |       | 実技<br>30 時間 | <b>（入門編）必要な手話語彙の習得及び手話表現技術を使った会話の指導技術を習得</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介（名前・家族・数詞・趣味・仕事・住所・指文字等）</li> <li>手話で話してみよう（時の表現、疑問詞をつかって会話、生活場面での簡単な会話等）</li> <li>グループワーク</li> </ul> <b>（基礎編）習得した手話語彙や基本文法を基に相手に伝達する能力のレベルアップに関する指導技術を習得</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>手話の基本文法（表情、具体的表現、主語の明確化、空間活用、同時性、代理的表現、繰り返し表現、意味に合った表現）をつかって話しあってみましょう</li> <li>グループワーク</li> </ul> ※それぞれ指導技術習得の為にモデル講座を参考に、模擬講座を実践的に行う |
|          |                         |       | カリキュラム      | 〔別表1〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|          |                                      |        |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------|--------------------------------------|--------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カリキュラム構成 | <手話通訳者養成><br>手話通訳Ⅰ<br>手話通訳Ⅱ<br>手話通訳Ⅲ | 50 時間  | 対象者         | 手話奉仕員担当講師養成課程を修了した者等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|          |                                      |        | 養成目標        | 身体障害者福祉の概要や手話通訳の役割・責務等と、手話通訳に必要な手話語彙、手話表現技術及び基本技術に関する指導技術を習得する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|          |                                      |        | 講義<br>20 時間 | ○企画運営法Ⅱ…通訳者養成講座企画にあたって、テキストの概要と活用方法等<br>○教授法Ⅲ…通訳養成教授法、講師の心構え、講師のマナー等<br>○教授法Ⅳ…通訳養成に沿った指導案作成とポイント等<br>○手話通訳論Ⅱ…手話通訳の理念と仕事、通訳技術、健康管理等<br>○社会福祉論…対人援助技術論（要約、事例検討、ロールプレイ等）<br>○専門職論等…ことばのしくみ、手話通訳者登録制度の概要、聴覚障害児の言語発達とろう教育等                                                                                                                                                                                                                           |
|          |                                      |        | 実技<br>30 時間 | <b>（通訳Ⅰ）手話通訳に必要な基本技術（表現能力、メッセージ蓄積能力、要約能力、手話語彙の習得、向上）に関する指導技術を習得</b><br>・手話の基本文法のレベルアップ<br>・手話通訳にチャレンジ<br>・聞き取り及び読み取り通訳<br>・場面通訳、電話通訳等<br>・読む・聞く・見る「要約」学習のポイント<br>・グループワーク<br><b>（通訳Ⅱ）手話通訳に必要な基本技術（逐次通訳、同時通訳のレベルアップ）に関する指導技術を習得</b><br>・読む・聞く・見る「要約」学習のポイント<br>・読み取り及び聞き取り通訳のレベルアップ<br>・場面通訳のレベルアップ<br>・事例検討<br>・ロールプレイ<br>・グループワーク<br><b>（通訳Ⅲ）手話通訳の実際の体験に必要な通訳場面設定（模擬通訳、ロールプレイ）に関する指導技術を習得</b><br>・通訳実習等<br>※それぞれ指導技術習得の為にモデル講座を参考に、模擬講座を実践的に行う |
|          | 合計                                   | 100 時間 | カリキュラム      | 〔別表1〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

(別表1)手話奉仕員・手話通訳者養成担当講師養成カリキュラム(講習会のカリキュラムの組み方の参考事例)

|       |     |                  | 手話奉仕員担当講師養成                                                        |          |                   | 手話通訳者担当講師養成                                                     |          |               |
|-------|-----|------------------|--------------------------------------------------------------------|----------|-------------------|-----------------------------------------------------------------|----------|---------------|
| 対 象 者 |     |                  | 手話の指導経験がない者等                                                       |          |                   | 手話奉仕員担当講師養成課程を修了した者等                                            |          |               |
| 養成目標  |     |                  | 聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等と、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術に関する指導技術を習得する。 |          |                   | 身体障害者福祉の概要や手話通訳の役割・責務等と、手話通訳に必要な手話語彙、手話表現技術及び基本技術に関する指導技術を習得する。 |          |               |
| 養成時間  |     |                  | 50時間                                                               |          |                   | 50時間                                                            |          |               |
| 回     | 時 間 |                  | 科 目                                                                |          | 学 習 内 容           | 科 目                                                             |          | 学 習 内 容       |
| 第1回   | 4H  | 1講義<br>120分×2    | 講義                                                                 | 【企画運営法】  | ①養成講座企画にあたって      | 講義                                                              | 【企画運営法】  | ①養成講座企画にあたって  |
|       |     |                  |                                                                    |          | ②テキストの概要と活用方法     |                                                                 |          | ②テキストの概要と活用方法 |
|       | 6H  | 1実技・討議<br>120分×3 | 実技                                                                 | 入門編      | テキストのポイント         | 実技                                                              | 手話通訳Ⅰ    | テキストのポイント     |
|       |     |                  |                                                                    | 入門編      | モデル講座             |                                                                 | 手話通訳Ⅰ    | モデル講座         |
|       |     |                  |                                                                    | 入門編      | 模擬講座              |                                                                 | 手話通訳Ⅰ    | 模擬講座          |
| 第2回   | 4H  | 1講義<br>120分×2    | 講義                                                                 | 【教授法Ⅰ】   | ①教授法              | 講義                                                              | 【教授法Ⅰ】   | ①教授法          |
|       |     |                  |                                                                    |          | ②講師の心構え           |                                                                 |          | ②講師の心構え       |
|       | 6H  | 1実技・討議<br>120分×3 | 実技                                                                 | 入門編      | モデル講座             | 実技                                                              | 手話通訳Ⅰ    | モデル講座         |
|       |     |                  |                                                                    | 入門編      | 模擬講座              |                                                                 | 手話通訳Ⅰ    | 模擬講座          |
|       |     |                  |                                                                    | 入門編      | グループワーク           |                                                                 | 手話通訳Ⅰ    | グループワーク       |
| 第3回   | 4H  | 1講義<br>120分×2    | 講義                                                                 | 【教授法Ⅱ】   | ①指導案作成ポイント        | 講義                                                              | 【教授法Ⅱ】   | ①指導案作成ポイント    |
|       |     |                  |                                                                    | 【障害学】    | ②障害学              |                                                                 | 【手話通訳論Ⅱ】 | ②通訳技術         |
|       | 6H  | 1実技・討議<br>120分×3 | 実技                                                                 | 基礎編      | テキストのポイント         | 実技                                                              | 手話通訳Ⅱ    | テキストのポイント     |
|       |     |                  |                                                                    | 基礎編      | モデル講座             |                                                                 | 手話通訳Ⅱ    | モデル講座         |
|       |     |                  |                                                                    | 基礎編      | 模擬講座              |                                                                 | 手話通訳Ⅱ    | 模擬講座          |
| 第4回   | 4H  | 1講義<br>120分×2    | 講義                                                                 | 【障害福祉論】  | ①身体障害者及び聴覚障害者福祉概論 | 講義                                                              | 【専門職理論】  | ①専門職理論        |
|       |     |                  |                                                                    | 【運動論】    | ②聴覚障害者運動論         |                                                                 | 【社会福祉論】  | ②対人援助技術論      |
|       | 6H  | 1実技・討議<br>120分×3 | 実技                                                                 | 基礎編      | モデル講座             | 実技                                                              | 手話通訳Ⅱ    | モデル講座         |
|       |     |                  |                                                                    | 基礎編      | 模擬講座              |                                                                 | 手話通訳Ⅱ    | 模擬講座          |
|       |     |                  |                                                                    | 基礎編      | 模擬講座              |                                                                 | 手話通訳Ⅱ    | グループワーク       |
| 第5回   | 4H  | 1講義<br>120分×2    | 講義                                                                 | 【手話通訳論Ⅰ】 | ①手話通訳について         | 講義                                                              | 【教授法Ⅲ】   | ①実習指導法        |
|       |     |                  |                                                                    |          | ②聞こえない人とともに歩むこと   |                                                                 | 【手話通訳論Ⅱ】 | ②通訳者の健康管理     |
|       | 6H  | 1実技・討議<br>120分×3 | 実技                                                                 | 基礎編      | モデル講座             | 実技                                                              | 手話通訳Ⅲ    | テキストのポイント     |
|       |     |                  |                                                                    | 基礎編      | 模擬講座              |                                                                 | 手話通訳Ⅲ    | モデル講座         |
|       |     |                  |                                                                    | 基礎編      | グループワーク           |                                                                 | 手話通訳Ⅲ    | グループワーク       |

# 調査結果・分析

## 第2部

専門学校・大学等高等教育機関における  
手話教育・手話通訳者教育実態調査

## 第2部

# 専門学校・大学等高等教育機関における 手話教育・手話通訳者教育実態調査

### 第1章

#### 調査まとめ・提言

### はじめに

#### 1 調査の目的

本調査は、専門学校・大学等高等教育機関における手話及び手話通訳者養成の講師養成について、実態と課題を明らかにし、展望することである。

しかし、現状として、手話及び手話通訳者養成の講師養成（教員養成）を行っている高等教育機関は、2014（平成26）年4月に設置された、筑波技術大学大学院（技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻手話教育コース）のみで、発足1年目という状況である。

このような状況であるので、「講師養成の実態」の調査目的を果たすことは困難である。したがって、筑波技術大学大学院を含めて、専門学校、短期大学、大学を対象に、以下の点を明らかにすることを本調査の目標として設定し直すこととした。

- ①手話教育カリキュラム及び手話通訳者教育カリキュラムの実態
- ②手話教育・手話通訳者教育を担当する講師の実態
- ③各高等教育機関の抱える手話教育・手話通訳者教育課題

そして、上記①～③から、以下の諸点を検討することとした。

1. 手話教育・手話通訳者教育を行っている、高校、専門学校、短期大学、大学、大学院のカリキュラムの実状を調査し、実態の把握とともに、適切なカリキュラムのあり方について検討する。
2. 高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育を担当する講師の実態を調査し、実態を把握するとともに、講師として必要な知識、技術、資格について検討する。
3. 手話通訳者を養成する高等教育機関の抱える課題（カリキュラム、養成実績、講師の確保など）を把握し、問題を整理する。

#### 2 調査の方法

調査対象校の抽出のために、手話教育・手話通訳者教育を行う専門学校、短期大学、大学をあらかじめ把握し、そこから各15校ずつ学校を抽出した。合計45校に対して、質問紙を郵送し、回収することとした。別に筑波技術大学大学院に対して、同じ質問紙を郵送し、回収した。



調査内容は、1. 高等教育機関調査と、2. その高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育にあたる教員・講師に対する個別調査の2種類とした。

1. 高等教育機関調査（調査票は別頁参照）
2. 教員・講師等調査（調査票は別頁参照）

### 3 調査期間・日程

調査期間は2014（平成26）年9月から10月中旬とし、調査票の発送と回収を行った。

調査日程としては、8月に調査票を作成し、確認の後対象校に発送。10月中旬に調査票を回収し、その後データ入力を行い、11月から1月の間に、集計と分析作業を行った。

### 4 調査票の回収状況

1. 高等教育機関調査では、全46校のうち、34校から回答があり、回収率は73.9%であった。それぞれの種別の回収率は、専門学校60.0%、短期大学66.7%、大学・大学院100.0%であった。

表1 高等教育機関調査の対象数と回答数

| 全数 |      | 対象 | 回収 | 回収率    |
|----|------|----|----|--------|
|    | 合計   | 46 | 34 | 73.90% |
| 内訳 | 専門学校 | 15 | 9  | 60.00% |
|    | 短大   | 15 | 10 | 66.70% |
|    | 大学   | 16 | 16 | 100.0% |

\* 大学は大学院1含む

2. 教員・講師等調査：高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育にあたる講師・教員調査では、回答者数は全体で44人、内訳は専門学校11人、短期大学10人、大学・大学院23人であった。

表2 高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育にあたる教員・講師等調査の回答者数

|        | 専門学校 | 短期大学 | 大学・大学院 | 合計 |
|--------|------|------|--------|----|
| 回答者数全体 | 11   | 10   | 23     | 44 |

## I 専門学校・短期大学・大学における手話教育・手話通訳者教育実態調査結果のまとめ

### 1) 調査対象とした手話教育を行う高等教育機関数

#### 【専門学校】

今回の調査では、手話を講義又は実技科目として教える専門学校を9校抽出した。回答は6校からあった。

#### 【短期大学】

今回の調査では、手話を講義又は実技科目として教える短期大学を15校抽出した。回答は10校からあった。

#### 【大学】

今回の調査では、手話を講義又は実技科目として教える大学を15校抽出した。回答は15校からあった。

### 2) 調査対象とした手話通訳者教育を行う高等教育機関数

今回の調査では、手話通訳者教育を行う専門学校3校に対して調査票を送り、3校から回答があった。短期大学については手話通訳者教育を行う学校が無かったので、回答は0となった。大学については、手話通訳者教育を行う大学1校、大学院1校から回答があった。

### 3) 手話教育・手話通訳者教育を行う高等教育機関の学科名称と傾向

#### 【専門学校】

- 専門学校の種別では、介護福祉士養成の専門学校が多く、その他医療系・サービス系の学校で手話教育が行われている。

介護福祉士養成では、当初「形態別コミュニケーション技術（聴覚）」として、手話教育の講義が位置づけられていた。その後、国のカリキュラム改正（2008（平成20）年）により、手話の授業が廃止されたり、半減（30時間→15時間）している状況が見られた。他方、その他の専門学校では、30時間～50時間の講義が行われている。

表3 専門学校の学科名称で分類（複数学科で開講との回答含む）（数値は学科数）

|            |   |
|------------|---|
| 手話通訳       | 3 |
| 介護         | 2 |
| 社会福祉       | 1 |
| 医療         | 1 |
| その他・サービス関係 | 4 |

\* その他：エアライン、観光総合、ホテル、公務員

今回の調査では、調査対象校数が少ないので、傾向は把握できないが、調査対象となる専門校等教育機関抽出作業に先立って、全日本ろうあ連盟は、加盟団体（47都道府県）への調査を2014（平成26）年7月に行った。その結果、各団体の会員等を派遣し、手話教育を行っている教育機関は以下の

とおりだった。この事前調査によると、168校の高等教育機関で、手話教育が行われていることが分かった。この他に、手話教育を行っているが加盟団体が関わらない学校も多数存在していると考えられる。

表4 全日本ろうあ連盟加盟団体が関わっている高等教育機関数

|      |     |
|------|-----|
| 専門学校 | 97校 |
| 短大   | 21校 |
| 大学   | 44校 |
| 警察学校 | 4校  |
| 消防学校 | 2校  |

表4の内、参考までに、97校の専門学校の名称を分類すると（但し、学校の名称だけで判別できない学校は学科名称を調べた：その場合は1校で複数学科あり）、以下のようなものであった。

表5 全日本ろうあ連盟加盟団体が関わっている専門学校の種別（数値は学校数）

|            |    |
|------------|----|
| 医療を名称に含む   | 59 |
| 福祉を名称に含む   | 32 |
| 看護を名称に含む   | 11 |
| 保育を名称に含む   | 8  |
| ビジネスを名称に含む | 7  |
| 観光を名称に含む   | 7  |
| 介護を名称に含む   | 6  |

\*その他、ヘアメイク、ホテル、ブライダル、アナウンス、デザイン、パティシエ など

表5を見ると、手話教育を行っている専門学校では、医療系の専門学校が福祉系の専門学校の2倍となっている。また、ビジネスや、観光・ホテルといったサービス関係の職業人教育の場で、手話教育が広まっていることがわかった。

全国に、高等専門学校は、2811校ある（文部科学省2013（平成25）年度学校基本調査）。今後、医療系やビジネス系、その他サービス系の専門学校での手話教育の需要、広まりが予測される。

#### 【短期大学・大学】

○ 短期大学、大学での手話教育においても、医療系が福祉系の学科より多い傾向が見られた。（表6参照）

今回調査されなかった短期大学や大学においても、医療系学科及び他の諸学科での手話教育の需要、広まりが予測される。

数は少ないが、警察学校や消防学校での手話教育も見られる。警察学校や消防学校は、それぞれ都道府県に1カ所以上あるが、今後、全校での実施も考えられる。

そうである場合、後述する課題で取り上げている、手話教育を行う教員・講師の確保、各学部教育や学科教育に沿ったテキスト・教材開発などが課題となる。

表6 短大・大学の学部・学科名称（数値は学校数：重複回答あり）

|           | 短大 | 大学 |
|-----------|----|----|
| 医療関係      | 4  | 12 |
| 社会福祉関係    | 3  | 9  |
| 介護関係      | 2  | 2  |
| 生活関係      | 2  | 0  |
| 教育関係      | 1  | 0  |
| 産業        | 0  | 3  |
| サービス      | 0  | 3  |
| 健康        | 0  | 2  |
| 総合教育・普通教育 | 0  | 2  |

大学：その他 教育、心理、情報

#### 4) 手話教育・手話通訳者教育の契機

##### 【手話教育の契機】

- 専門学校では、手話教育を開始した理由は、介護福祉士養成校では、介護福祉士養成カリキュラムの一つとして手話教育を位置づける学校、聴覚障害者の理解と対応のために行う学校、中には学生の要望で手話の科目を開講している学校もあった。
- 短期大学では、手話教育を行う契機として、介護福祉士養成カリキュラムの位置づけ、カリキュラム充実といった契機があげられた。
- 大学では、カリキュラム充実のためという回答が多く、教養科目として設置しているという回答があった。（表7参照）

表7 手話教育導入のきっかけ

\*文末数字は同内容の記述数

|      |                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士養成カリキュラムの中に位置づけられているため (3)</li> <li>・学生からの要望で開講</li> <li>・支援対象者の中にもろう者の存在も意識できるように</li> </ul>                                                                                      |
| 短大   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士養成カリキュラムの中に位置づけられているため (3)</li> <li>・専門職に必要なスキルとして (2)</li> <li>・カリキュラム充実のため (2)</li> <li>・その他 (2)</li> </ul>                                                                      |
| 大学   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム充実のため (8)</li> <li>・全国障害者スポーツ大会を契機に開始</li> <li>・文学部で手話（半期）開始。その後、福祉士養成の学科が設置され、2学科で教育開始。</li> <li>・社会福祉士としての教養として点字とともに手話を導入。</li> <li>・手話を言語の1つとして考えており、教養教育科目に位置付けた。</li> </ul> |

高等教育機関で手話を学ぶ契機や意義としては、①専門学校、短大でみられるように、対人サービスを行う専門職として「必要な知識技術」を学ぶという捉え方と、②大学でみられるように、「教養科目」（の充実）として学ぶという傾向が見られる。このような位置づけは、高等教育機関としての役割としては、正当なものと言えるし、今後日本の社会において、差別解消や情報・コミュニケーション保障を進める上で重要な位置づけであると言える。

## 【手話通訳者教育の契機】

手話通訳者教育の契機は、それぞれの学校で違うが、2014（平成26）年度4月から開設された大学院の「手話通訳者のスキルアップと指導力アップに寄与する」教育については、注目されるべきである。

表8 手話通訳者教育導入のきっかけ

|        |                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校   | ・社会福祉の基礎知識を身に付けた手話通訳者養成を目指すため。<br>・手話通訳士制度スタートに伴うモデル養成校として設置。<br>・手話通訳学科を開設したことから。 |
| 短大     | （回答なし）                                                                             |
| 大学・大学院 | ・大学院技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻の開設に伴い、現役手話通訳者のスキルアップと指導力アップに寄与する授業が必要と考えられたため。（大学院）        |

高等教育機関で学ぶ聴覚障害者が増えてきている。その場合の情報・コミュニケーション保障は、今日重大な課題となっている。大学・大学院で手話通訳の知識・技術を学んだ「手話通訳者」が求められており、今後、手話通訳者教育を行う大学・大学院の増加が求められている。また、大学・大学院で養成された手話通訳者は、卒業後、福祉領域だけにとどまらず、医療、司法、労働、初等・中等教育といった場面での手話通訳を担うことが期待される。

## 5) 手話教育・手話通訳者教育の内容と成果

## 【手話教育の目標・内容と成果】

- 専門学校の手話教育の目標は、聴覚障害のある人への理解・対人援助の力を高める、コミュニケーション能力を高めるというものであった。

手話教育時間については、介護福祉士養成学科は15時間、他は30時間、60時間との回答があった。

手話教育の成果としては、コミュニケーション力が付いた、聴覚障害者の理解、職場での手話使用、聴覚障害者施設への就職、手話検定試験合格、などがあげられている。

- 短期大学での手話教育の目標は、福祉の理解を深める、聴覚障害者の理解、コミュニケーション力を付ける、仕事の技術があげられた。また、介護福祉士養成の学科の場合は、介護福祉士養成カリキュラムに位置づけられているため開講していると回答があった。他に専門職に必要な知識、カリキュラム充実のため、という回答があった

手話教育時間数は、介護福祉士養成学科は15時間、他は30時間で実施するところが一番多く、90時間、100時間の実施が各1校ずつあった。

手話教育の関連科目としては、社会福祉概論、障害者福祉論、児童福祉論、コミュニケーション技術、生活支援技術等があげられた。

手話教育の成果としては、職場で手話によるコミュニケーションがとれる、コミュニケーション力の向上、聴覚障害者の理解、全国手話検定合格、があげられている。

- 大学での手話教育の目標としては、手話力の向上、コミュニケーション力の向上、聴覚障害者の理解、言語教育、社会福祉士の教養として、あげられている。

手話教育時間は、最小30時間、最大120時間となっている。全体としては、60時間で実施す



るところが多い。

手話教育の関連科目としては、パソコン要約筆記、ろう文化研究、デフコミュニティと社会参加、聴覚障害教育研究等があげられた。

手話教育の成果としては、職場で手話によるコミュニケーションがとれる、コミュニケーション力の向上、聴覚障害者の理解、全国手話検定合格、<sup>\*</sup>1があげられているが、教育されたことが、職場や地域社会で十分活かされる環境作りが課題である。

#### 【手話通訳者教育の目標・内容と成果】

- 専門学校の手話通訳者教育の目標は、手話通訳士の育成、手話通訳者の養成、手話通訳ができる福祉従事者を指すため、<sup>\*</sup>2があげられた。

手話通訳者教育時間は、手話・手話通訳技術に関する科目を抽出すると、A校は420時間、B校は1170時間（専攻科除く）、C校1390時間となっている。

手話通訳者教育の関連科目としては、日本語、聴覚障害者の教育、社会福祉演習、国語、社会福祉概論、身体障害者福祉論、聴覚障害者福祉論、手話言語学、聴覚障害者の社会、通訳理論、手話通訳論、聴覚障害者の教育、聴覚障害者のリハビリテーション、聴覚障害者の福祉、聴覚障害者のケースワーク等があげられている。

手話通訳者教育の成果としては、手話通訳士試験合格、手話検定試験合格、福祉現場での手話の普及があげられている。

- 大学では、手話通訳者教育の目標は、手話通訳者の養成、手話通訳者試験合格、手話検定（1～2級）合格、とあった。

手話通訳者教育時間は、120時間であった。

手話通訳者教育の関連科目としては、日本語学、手話学、障害者福祉論があげられた。

手話通訳者教育の成果としては、全国手話検定の合格、手話通訳者試験の合格、手話を使う職場への就職、<sup>\*</sup>3があげられた。

- 大学院では、手話通訳者教育の目標は、手話通訳者教育者を育てる、とあった。

手話通訳者教育時間は、手話通訳特論・手話通訳演習が各30時間設けられている。

手話通訳者教育の関連科目としては、聴覚障害学特論、ろう者学教育コンテンツ特論、日本語学があげられた。

手話通訳者教育の成果については、開設1年目の途中なので回答はできない、とされた。

前述の「手話教育が職場・地域で活かされる」と同様、「手話通訳教育が職場・地域で活かされる」という状況が期待される。しかし、現状としては、手話通訳知識・技術を有する手話通訳者の職域・職場は、ごく限られた範囲でしかない。それは、大多数の手話通訳業務が都道府県・地域生活支援事業の意思疎通支援事業として自治体に登録される「登録手話通訳者」という形で担われているからである。また、手話通訳者を雇用する自治体は30%程度<sup>\*</sup>4であり、雇用された者の身分は8割が非正規職員という実態がある。高等教育機関で手話通訳を学ぶ若者が、卒業後、安定した身分・賃金で雇用される職場、社会環境が求められている。

\*1 厚生労働省主管課長会議 障害保健福祉関係会議資料（2014（平成26）年3月7日）

\*2 全国手話通訳問題研究会「専門的な手話通訳者の雇用状況に関する調査研究事業報告書」（2011（平成23）年3月31日）

## 6) 手話教育・手話通訳者教育で使用するテキスト・教材

## 【手話教育で使用するテキスト・教材】

- 専門学校の手話教育で使用するテキストは、厚生労働省の手話奉仕員養成カリキュラムに準拠するものではなく、それぞれの学校の選択した手話テキストが使われている。(15時間～30時間の限られた時間では、厚生労働省の手話奉仕員養成カリキュラム準拠テキストは使えないという実態がある。)「手話で学ぼう、手話で話そう」は、80時間の養成内容であるため使えない、という自由記述も見られた。
- 短期大学の手話教育で使用するテキストは、厚生労働省の手話奉仕員養成カリキュラムに準拠するテキストを使用している学校もあるが、多数は、他のテキストを使用している。
- 大学の手話教育で使用するテキストは、厚生労働省の手話奉仕員養成カリキュラムに準拠するテキストを使用している学校もあるが、多数は、他のテキストを使用している。

表9 手話教育で使用するテキスト・教材 \*テキスト名末の数字は採用校数

|      |                                                                                         |                                                                          |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | ・人間の理解（新・介護福祉養成講座）<br>・聴覚・言語障害者とコミュニケーション<br>・独自テキスト（4）                                 | ・新・手話教室入門<br>・DVDで学ぶ手話の本（各級）                                             |
| 短大   | ・新・手話教室入門（3）<br>・手話を学ぼう、手話で話そう（2）<br>・手話基礎ビデオ<br>・たっちゃんと学ぼう<br>・ろう者との対話のために             | ・おぼえようみんなの手話（2）<br>・手話教室 基礎課程<br>・医療の手話シリーズ<br>・ようこそ手話の世界へ<br>・独自テキスト（2） |
| 大学   | ・手話で学ぼう手話で話そう（2）<br>・医療の手話シリーズ①手話で必見！・医療のすべて（外来編）<br>・聞こえない人とのコミュニケーション<br>・全国手話検定試験各年版 | ・新・手話教室入門（4）<br>・初級手話講座手話でつなごう心と心<br>・独自テキスト（7）                          |

\*厚生労働省の手話奉仕員養成カリキュラムに準拠したテキスト「手話を学ぼう、手話で話そう」は、2014（平成26）年1月に（社福）全国手話研修センターから発行された。

## 【手話通訳者教育で使用するテキスト・教材】

手話通訳者教育で使用するテキストについては、表10のように手話通訳Ⅰ・Ⅱを使用する学校は、専門学校1校、大学1校で、他は独自テキストまたは他のテキストを使用している。大学院では、論文が中心であるとの回答があった。

表10 手話通訳者教育で使用するテキスト・教材

|      |                     |                      |
|------|---------------------|----------------------|
| 専門学校 | 手話通訳Ⅰ・Ⅱ（1校）         | 手話通訳Ⅰ・Ⅱの使用はないと回答（2校） |
| 大学   | 手話通訳者養成実践課程、手話通訳Ⅰ・Ⅱ |                      |
| 大学院  | 論文が中心               |                      |

\*手話通訳Ⅰ・Ⅱとは、手話通訳者養成カリキュラムに準拠したテキスト「手話通訳 ホップ ステップ ジャンプ」で、2014（平成26）年1月に（社福）全国手話研修センターから発行された。



## 7) 手話教育・手話通訳者教育にあたる教員・講師の状況

手話教育・手話通訳者教育の講義を担当する教員・講師の実数は、表11・表12のようになっている。手話教育の場合も、非常勤講師が多数を占め、かつ健聴者講師が多数となっている。

手話通訳者教育では、専門学校・大学では、専任は少なく、非常勤講師であり聴覚障害のある講師が多数を占める。大学院では、専任教員が多いが、健聴者の教員が多数となっている。

表11 手話教育を担当する教員・講師

|      |        | 専任教員数 | 専任教員のうち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | 非常勤講師のうち、聴覚障害教員 |                |
|------|--------|-------|----------------|--------|-----------------|----------------|
| 専門学校 | 回答校6校  | 1     | 0              | 5      | 2               | 非常勤講師が多数       |
| 短大   | 回答校8校  | 3     | 0              | 14     | 1               | 非常勤・健聴者講師が多数   |
| 大学   | 回答校11校 | 10    | 3              | 36     | 16              | 非常勤・健聴者講師がやや多い |

表12 手話通訳者教育を担当する教員・講師

|      |       | 専任教員数 | 専任教員のうち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | 非常勤講師のうち、聴覚障害教員 |             |
|------|-------|-------|----------------|--------|-----------------|-------------|
| 専門学校 | 回答校3校 | 8     | 3              | 42     | 30              | 非常勤・聴障講師が多数 |
| 大学   | 回答校2校 | 1     | 0              | 6      | 4               | 聴障講師がやや多い   |
| 大学院  | 回答校1校 | 10    | 3              | 1      | 0               | 健聴者講師が多数    |

## 8) 手話教育・手話通訳者教育を担当する教員・講師の資格

手話教育・手話通訳者教育を担当する教員・講師の資格については、表13のようになっている。

専門学校では、資格（手話通訳士）、教育歴と団体推薦により教員・講師として採用されている。

短期大学では、資格（手話通訳士）と団体推薦により教員・講師として採用されている。

大学・大学院では、学位も研究実績、教育歴により教員・講師として採用されている。

高等教育機関では、学校教育にもとづいて文部科学省令で教員資格が定められている。今後、高等教育機関での手話教育・手話通訳者教育が拡大していく場合、教員資格を満たす教員・講師の確保が課題となり、教員・講師養成があわせて課題となっている。

表 13 手話教育・手話通訳者教育を担当する教員・講師の資格

|      | 教育歴・経験  | 研究実績   | 手話通訳士   | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 |                 |
|------|---------|--------|---------|--------|---------|-----------------|
| 専門学校 | 3       | 1      | 5       | 2      | 2       | *資格、教育歴、団体推薦が中心 |
| 短大   | 博士学位    | 修士学位   | 学士学位    | 教育歴・経験 | 研究実績    | *資格・団体推薦が多い     |
|      | 1       | 1      | 2       | 3      | 1       |                 |
|      | 社会福祉士   | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | 手話通訳士  |         |                 |
| 大学   | 1       | 4      | 2       | 4      |         | *教育歴、研究実績、学位が中心 |
|      | 博士学位    | 修士学位   | 学士学位    | 教育歴・経験 | 研究実績    |                 |
|      | 3       | 3      | 1       | 9      | 6       |                 |
|      | 精神保健福祉士 | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | 手話通訳士  | その他     |                 |
| 大学院  | 0       | 2      | 0       | 3      | 1       | *教育歴、研究実績、学位が考慮 |
|      | 博士学位    | 修士学位   | 学士学位    | 教育歴・経験 | 研究実績    |                 |
|      | 1       | 1      | 1       | 1      | 1       |                 |
|      | 精神保健福祉士 | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | その他    | 手話通訳士   |                 |
|      | 0       | 0      | 0       | 0      | 0       |                 |

## 9) 手話教育・手話通訳者教育の課題

- 専門学校の手話教育では、「開講時間数が少ないが増やせない」、「継続学習の確保」があげられている。介護福祉士養成専門学校では、手話教育の時間が縮小あるいは廃止される傾向にある。高齢者福祉施設等で従事することを考えると、聴覚障害のある利用者に対して、最低限必要とされる手話技術の習得が求められる。そのためには、60 時間の手話教育時間の確保が必要とされる。しかし、他方で国の定める介護福祉士養成カリキュラムが手話教育を制約している側面がある。その他の専門学校（医療・サービス等）でも、手話教育が行われていることから、今後これらの学校での手話教育拡大の可能性はある。

専門学校の手話通訳者教育では、「手話通訳者教育を受けてきたことを認め、仲間として迎える姿勢が各地域にほしい。」とある。（\*地域によっては、専門学校での学びを理解せず、地域養成への参加を生徒・卒業生に求めるところがある。手話通訳者統一試験の受験が認められない地域、手話通訳士・手話通訳者の資格を取っても、登録できない地域がある。）手話通訳者教育を行う専門学校は、現在は3校であるが、1校は学科の廃止を予定している。一方で、手話検定、手話通訳者試験、手話通訳士試験を目指し、合格者を輩出すると共に、聴覚障害者福祉、社会福祉を学ぶことを通じた成果が示されている。今回の調査では、学生、卒業生を「仲間として迎える姿勢が各地域にほしい。」という課題のみが記されていた。卒業生が働きやすい、社会環境（職場、待遇等）の整備が求められている。

- 短期大学の手話教育の課題としては、介護福祉士養成課程の単位数増加により「手話の時間がとれなくなった」、「各教員担当の講師の手話にやばらつきがある」、とあった。介護福祉士養成短大は、介護福祉士養成専門学校と同様の課題がある。専門学校同様、カリキュラムに制約があるが、介護福祉の専門職養成の一環として、60 時間の養成時間の確保が求められる。他の学科（医療・教育・生活関係等）では、専門職に必要な知識、カリキュラム充実という教育目標が

掲げられている。そのためには、60 時間以上の手話教育が求められる。

- **大学の手話教育課題**としては、「担当する講師が限られている」、「大人数のクラスだと指導が困難」、「継続学習」、「受講者の減少」、「学んだ手話を活かす職場がない」、などが課題としてあげられている。手話教育を行う大学は、社会福祉系の大学が多いが、他の専門領域（医療系、心理系、教育系、生活系、健康系、産業系等）と幅広い領域で行われるようになっている。いずれも、一般教養あるいは、専門職として必要な知識として、手話教育が位置づけられている。この場合は、60 時間以上の手話教育の確保が求められる。

**大学の手話通訳者教育課題**としては、大学で行われている手話教育内容は、「手話通訳者養成カリキュラム」の範囲・内容にとどまっており、さらに関連開講科目の充実が必要とされている。大学院は、2014（平成 26）年度に開設されたところであるが、今後の手話教育、手話通訳者教育に従事する指導者としての人材育成が期待される。

## II 手話教育・手話通訳者教育を行う高等教育機関の教員・講師等調査結果のまとめ

手話教育・手話通訳者教育を行う高等教育機関の教員・講師等調査では、Iの高等教育機関調査で対象となった専門学校、短期大学、大学、大学院に所属して、手話教育・手話通訳者教育を担当している教員・講師を調査対象にし、個別の調査票を渡し、回答を得ることとした。ここでは、教員・講師の教育の状況、方法、課題、要望を調査した。

### 1) 調査対象者の状況

高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育にあたる講師・教員調査を行った結果、回答者数は、44人であった。

その属性の特徴としては、女性が60%、健聴者講師が60%、50歳代・60歳代が中心、20年以上の手話使用が60%、手話通訳士有資格者が45.5%、手話教育担当が54.5%、手話通訳者教育担当が27.3%、非常勤講師が77.3%であった。

表14 回答者の属性（数値は人数）

|                  | 専門学校 | 短期大学 | 大学・大学院 | 合計 |                  |
|------------------|------|------|--------|----|------------------|
| 回答者数全体           | 11   | 10   | 23     | 44 |                  |
| 性別 男性            | 4    | 0    | 9      | 13 | 女性が60%           |
| 女性               | 7    | 8    | 10     | 25 |                  |
| 回答無し             | 0    | 2    | 4      | 6  |                  |
| 聴覚障害 有り          | 3    | 2    | 10     | 15 | 健聴者講師が60%        |
| 無し               | 7    | 8    | 11     | 26 |                  |
| 回答無し             | 0    | 0    | 2      | 2  |                  |
| 年齢               |      |      |        |    | 50歳代・60歳代が中心     |
| 20歳代             | 0    | 0    | 0      | 0  |                  |
| 30歳代             | 2    | 1    | 5      | 8  |                  |
| 40歳代             | 2    | 0    | 2      | 4  |                  |
| 50歳代             | 3    | 2    | 9      | 14 |                  |
| 60歳代             | 4    | 7    | 4      | 15 |                  |
| 70歳代             | 0    | 0    | 0      | 0  |                  |
| 回答無し             | 0    | 0    | 3      | 3  |                  |
| 手話学習・使用開始年齢 幼少期～ | 2    | 0    | 2      | 4  | 成人以降の手話学習者が50.0% |
| 10歳代             | 2    | 1    | 8      | 11 |                  |
| 成人以降             | 6    | 8    | 6      | 20 |                  |
| 回答無し             | 1    | 1    | 7      | 9  |                  |
| 手話使用年            |      | *9年  | 13年    |    | 20年以上の手話使用が60.0% |
| 20年              | 3    | 1    | 3      | 1  |                  |
| 20年～40年          | 6    | 6    | 8      | 20 |                  |
| 40年以上            | 1    | 2    | 4      | 7  |                  |
| 回答なし             | 1    | 1    | 9      | 11 |                  |

|                 |                    |                |            |    |                                 |
|-----------------|--------------------|----------------|------------|----|---------------------------------|
| 最終学歴            |                    |                |            |    | 高卒及び大卒者が多い                      |
| 高卒              | 5                  | 1              | 6          | 12 |                                 |
| 専門卒             | 1                  | 2              | 1          | 4  |                                 |
| 短大卒             | 2                  | 2              | 0          | 4  |                                 |
| 大卒              | 2                  | 4              | 7          | 13 |                                 |
| 大学院修了(学位)       | 0                  | 0              | 5<br>(博士2) | 5  |                                 |
| 回答              | 0                  | 0              | 4          | 4  | 大学・大学院では、大卒者、修士・博士の学位が求められる     |
| 所有資格            |                    |                |            |    |                                 |
| 教員免許            | 0                  | 3              | 3          | 6  |                                 |
| 手話通訳士           | 7                  | 5              | 8          | 20 |                                 |
| 手話通訳者           | 5                  | 8              | 2          | 15 |                                 |
| 社会福祉士           | 1                  | 0              | 2          | 3  |                                 |
| 精神保健福祉士         | 0                  | 0              | 0          | 0  |                                 |
| 介護福祉士           | 0                  | 0              | 0          | 0  |                                 |
| その他             | 保育士、幼稚園教諭2級、ヘルパー2級 | ホームヘルパー、社会福祉主事 | 保育士、労務管理士  |    | 手話通訳士有資格者が45.5%                 |
| 担当科目            |                    |                |            |    |                                 |
| 手話教育            | 8                  | 1              | 15         | 24 |                                 |
| 手話通訳者教育         | 2                  | 9              | 1          | 12 |                                 |
| 両方              | 1                  | 0              | 2          |    |                                 |
| 雇用身分 専任         | 1                  | 0              | 6          | 7  | 手話教育が54.5%、手話通訳教育が27.3%、両方が6.8% |
| 非常勤             | 8                  | 10             | 16         | 34 |                                 |
| 回答無し            | 2                  | 0              | 1          | 3  |                                 |
| 他の学校での手話教育担当 有り | 3                  | 8              | 9          | 20 | 非常勤が77.3%                       |
| 無し              | 10                 | 1              | 4          | 15 |                                 |
| 回答無し            | 1                  | 1              | 11         | 13 |                                 |
| 通訳者資格取得後の年数     |                    |                |            |    | 41.7%が他の学校でも授業を担当               |
| 10年未満           | 0                  | 2              | 0          | 2  |                                 |
| 10～20年          | 5                  | 2              | 3          | 10 |                                 |
| 20～30年          | 1                  | 2              | 4          | 7  |                                 |
| 30年以上           | 2                  | 2              | 1          | 5  |                                 |
| 通訳士資格取得後の年数     |                    |                |            |    | 資格取得10年以上が多数                    |
| 10年未満           | 2                  | 3              | 1          | 6  |                                 |
| 10～20年          | 3                  | 2              | 5          | 10 |                                 |
| 20～30年          | 2                  | 1              | 3          | 6  |                                 |

## 2) 担当する科目名

回答者が担当する科目名称は、以下のようになっている。多数は「手話」を含む科目名称となっているが、他に「コミュニケーション」、「基礎」、「手話通訳」を含む科目名が示されている。

表 15 担当する科目名称（数値は人数）

| 科目名称の分類           | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | 合計 |
|-------------------|------|----|--------|----|
| 「コミュニケーション」を含む科目名 | 4    | 1  | 3      | 8  |
| 「手話」を含む科目名        | 6    | 12 | 29     | 47 |
| 「手話基礎」を含む科目名      | 3    | 1  | 1      | 5  |
| 「手話実技」を含む科目名      | 2    | 1  | 0      | 3  |
| 「手話通訳」を含む科目名      | 5    | 1  | 2      | 8  |
| その他               | 1    | 3  | 6      | 10 |

### ○ 専門学校の科目名称

基本コミュニケーション、形態別コミュニケーション技術（聴覚）、手話Ⅰ、表現法（手話）、手話基礎会話Ⅰ、手話実技Ⅰ、手話通訳実技Ⅰ、手話通訳論、手話通訳基礎演習、事例検討など

### ○ 短期大学の科目名称

コミュニケーション技術、手話、手話教育、手話入門、手話基礎、手話（技術）、手話通訳、医療の手話、基礎講座、手話言語の実際 など

### ○ 大学の科目名称

手話とコミュニケーション、手話コミュニケーション技術、手話、ヒューマンケア手話、手話入門、基礎手話、手話通訳特論、手話通訳演習、手話学、医療手話、人間の知性と感性の認識Ⅰ（手話から言語学へ） など

### ○ 大学院の科目名称

手話言語学特論、手話言語学演習、手話教育特論、手話通訳特論、手話通訳演習、聴覚障害児言語指導論、手話言語学演習

## 3) 手話教育・手話通訳者教育の科目の開講期

- 専門学校・短期大学は、1年生、2年生に、ほぼ均等に担当科目が配置されている。
- 大学では、1年生・2年生を中心に担当科目が配置されている。また、全学年で開設されている大学も9校ある。
- 大学院では、1年生後期、2年生後期に配置されている。



表 16 手話教育・手話通訳者教育の科目開講期 (数値は人数)

| 開講学年・学期   | 専門学校 | 短大 | 大学 | 大学院 |
|-----------|------|----|----|-----|
| 1 年前期     | 3    | 2  | 6  |     |
| 1 年後期     | 3    | 1  | 4  | 1   |
| 1 年生      | 2    | 4  | 1  |     |
| 2 年前期     | 5    | 0  | 2  |     |
| 2 年後期     | 3    | 3  | 7  | 1   |
| 2 年生      | 3    | 3  | 1  |     |
| 1～2 年前期   | 0    | 0  | 2  |     |
| 1～2 年後期   | 0    | 0  | 7  |     |
| 3 年生以降で開設 | —    | —  | 0  |     |
| 1 年～3 年   | —    | —  | 1  |     |
| 全学年で開設    | —    | —  | 9  |     |
| 不明        | 1    | 2  | 0  |     |

## 4) 担当科目の時間数

各講師が担当する科目の時間数は、表 16、表 17 のようになっている。

手話が科目名にある授業では、専門学校では、15 時間以下が多い。次いで 60 時間（4 コマ開講）となっている。短期大学では、15 時間、30 時間とするところが多い。大学では、1 科目 30 時間が標準となっている。

手話通訳を科目名に含む授業は、1 科目 30 時間とするところが多い。

表 17 手話を科目名に含む授業時間 (数値は人数)

|             | 専門学校 | 短大 | 大学 |
|-------------|------|----|----|
| 10 時間～15 時間 | 7    | 5  | 0  |
| 16 時間～30 時間 | 3    | 4  | 32 |
| 31 時間～45 時間 | 1    | 1  | 0  |
| 46 時間～60 時間 | 5    | 3  | 2  |
| 61 時間以上     | 0    | 1  | 0  |

表 18 手話通訳を科目名に含む授業時間 (専門学校のみ)

|          |        |
|----------|--------|
| 手話通訳基礎演習 | 22 時間半 |
| 手話通訳論    | 30 時間  |
| 手話通訳論    | 9 時間   |
| 手話通訳実技Ⅰ  | 30 時間  |
| 手話通訳実技Ⅱ  | 30 時間  |

\* 大学で手話通訳者教育を担当する講師からは、「手話通訳論」が 30 時間×2 コマ開設・担当しているとの回答があった。

## 5) 授業の担当教員・講師の数

表 19 でみるように、一人で事業を担当する教員・講師が多数であるが、他方、複数で担当していると回答があったのは、専門学校 36.8%、短大 25.0%、大学 31.8%となっており、3 割程度の学校で、手話の授業は、複数教員・講師が担当していることが示された。

複数教員・講師で授業を担当する理由としては、「ろう者・健聴者一組を基本とする」、「聴覚障害者との意思疎通手段を身につけるため」という回答があった。

表 19 複数教員・講師での授業担当 (数値は人数)

|       | 専門学校  | 短大    | 大学・大学院 |
|-------|-------|-------|--------|
| 単数で担当 | 12    | 12    | 30     |
| 複数で担当 | 7     | 4     | 14     |
| 複数の割合 | 36.8% | 25.0% | 31.8%  |

表 20 複数で授業を担当する理由 (人)

|                       | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | 合計 |
|-----------------------|------|----|--------|----|
| ろう者・健聴者一組を基本としているため   | 2    | 1  | 4      | 7  |
| 聴覚障害者との意思疎通手段を身につけるため | 1    | 0  | 2      | 3  |
| 交流会時は複数講師としている        | 0    | 1  | 1      | 2  |
| 教育効果を考慮               | 0    | 0  | 2      | 2  |
| 少人数教育を行うため            | 0    | 0  | 1      | 1  |
| 県内団体の方針による            | 0    | 0  | 1      | 1  |
| その他                   | 0    | 1  | 0      | 1  |

## 6) 手話科目・手話通訳科目のークラスの受講者数

- 専門学校では、「手話」等を科目名とする科目は、ークラス 10 人～20 人の受講生数が若干多いが、10 人未満、20 人～30 人、30 人～40 人、40 人以上は、同数程度となっている。「手話通訳」等を科目名とする科目は、各科目 5 人となっている。
- 短期大学では、20 人～30 人という受講者数がやや多いが、他は同数となっている。
- 大学では、「手話」等を科目名とする科目では、20 人～30 人の受講者数が一番多く、次いで 40 人～60 人、20～30 人となっている。100 人を越える科目が 3 科目あった。  
「手話通訳」を含む科目は、2 人の回答があった、それぞれ 15 人だった。大学院は、各科目 1 人であった。

表 21 手話科目・手話通訳科目のークラスの受講者数 (人)

|           | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 |
|-----------|------|----|--------|
| 10 人未満    | 2    | 2  | 3      |
| 10～20 人未満 | 5    | 3  | 13     |
| 20～30 人未満 | 2    | 7  | 4      |
| 30～40 人未満 | 2    | 3  | 1      |
| 40 人以上    | 3    | 1  | 8      |

## 7) 手話教育・手話通訳者教育での使用教材

全国手話研修センター（以下研修センター）作成のテキスト（手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラム準拠）を使用（両方使用を含む）している教員・講師は、専門学校では少ない。短期大学・大学では、過半数で使われている。

表 22 手話教育・手話通訳者教育で使用する教材

|            | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 |
|------------|------|----|--------|
| 研修センター作成教材 | 1    | 4  | 5      |
| 独自作成教材     | 5    | 2  | 7      |
| 両方         | 2    | 3  | 4      |

研修センター発行のテキストを使用する理由としては、

- 専門学校の教員・講師からは、「今後の学習につながる」との回答があった。
- 短期大学の教員・講師からは、「ろうあ運動理解のため」、「初心者に適切」、「授業時間が確保できるため」という回答があった。
- 大学の教員・講師からは、「厚生労働省カリキュラムに対応」、「受講生に適切」、「受講後地域での講習会移行がスムーズ」という回答があった。

独自教材を使用する理由としては、

- 専門学校の教員・講師からは、「指導回数が限られているので、テキストを参考に独自に資料を作成して指導しているため」との回答があった。
- 短期大学の教員・講師からは、「短大より『奉仕員養成』テキストは授業科目にそぐわないと言われた」との回答があった。
- 大学の教員・講師からは、「学生の様々なニーズに対応するため」、「受講者が聴覚障害学生であるため」との回答があった。

研修センターのテキスト、独自教材の両方を使用するという回答では、「検定試験に対応するため」、「地域の手話を学習する」、「専門領域の手話を学習する」という回答があった。

## 【使用テキスト名】

|                |                        |
|----------------|------------------------|
| ・わたしたちの手話辞典    | ・DVDだからよくわかる基本の手話      |
| ・手話を学ぼう、手話で話そう | ・手話奉仕員テキスト             |
| ・全国手話検定試験テキスト  | ・聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版 |
| ・新・初級手話教室      | ・たっちゃんと学ぼう             |
| ・入門「手話教室」      | ・ろう者との対話のために           |
| ・おぼえようみんなの手話   | ・医療の手話シリーズ①            |
|                | ・みんなの手話                |

## 8) 手話教育・手話通訳者教育の工夫

手話教育の工夫としては、

- 専門学校では、「ろう者との交流」、「体験談・エピソードを話す」といった工夫が回答された。

- 短期大学では、「手話の歌」、「ろう者との交流」、「テレビ番組のDVDを見る」、「ゲームを取り入れる」などの工夫が回答された。
- 大学では、「課題レポート」、「絵・文字カード」、「ろう者との会話」、「ビデオ・DVDの使用」、「ろう文化にふれる」、「いろいろな場所に連れて行く」、などが回答された。

#### 【手話教育の工夫】

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| ・聴覚障害者理解のためのエピソードを話す | ・ゲストに招いた聴覚障害者との交流 |
| ・聴覚障害者の話を聞く          | ・聴覚障害者とディスカッションする |
| ・独自資料の作成             | ・全国手話検定試験対策       |
| ・ろうあ運動について話す         | ・映像資料の活用          |
| ・ゲストに招いた聴覚障害者との交流    | ・手話で歌う時間をとる       |
| ・伝言ゲームなどを取り入れる       | ・実技だけでなく知識の学習をする  |
| ・ろう者が主となって指導する       | ・独自教材の作成          |
| ・音声情報についてのレポートを書かせる  | ・絵カード・文字カードの使用    |
| ・グループ学習              | ・受講生に発言を求める       |
| ・いろいろな場所に学生を連れて行く    |                   |

手話通訳者教育の工夫としては、

- 専門学校では、「過去の試験問題の使用」、「通訳現場の話をする」、「ろう運動の話をする」があげられた。
- 大学では、「手話通訳を分析的に見る視点を育てる」、「手話通訳試験の過去問題の使用があげられている」。

#### 【手話通訳者教育の工夫】

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| ・ろうあ運動について話す    | ・過去の試験問題を使用する      |
| ・通訳現場の話をする      | ・手話通訳のエピソードをはなす    |
| ・手話通訳者の態度について話す | ・手話通訳を分析的に見る視点を育てる |

### 9) 手話教育・手話通訳者教育の課題

手話教育の課題としては、

- 専門学校では、「受講者が多くて注意ができない」、「初歩の段階で終わってしまう」、「聴覚障害者についての興味を持ってもらうことが難しい」、「手話を日本語に換えることが難しい」、「現場で活用できる手話表現の学習も必要」、「各科に適したテキストづくり」、があげられている。
- 短大では、「時間との関係で幅広い会話までできない」、「学生のモチベーションを高める」、「担当時間（コマ数）があまりに短い」、「授業時間数が少ない」、「学生が実際にろう者と接する機会がない」、があげられた。また、「後任が見つかるか、（後任の）人材不足」をあげる回答があった。
- 大学では、「わかりやすく見せられるDVD教材」、「最新データを得るのに苦勞」、「学部にあったテキスト」、「講義の回数を増やす」、「学生が多すぎる」、「回数が少ない」、「ろう者成人コミュニティとのつながり」があげられた。

### 【手話教育の課題】

- |                               |                  |         |
|-------------------------------|------------------|---------|
| ・態度不良の学生に注意することが難しい           | ・授業時間が短い         |         |
| ・興味をどう引き出すか                   | ・教材づくり           | ・受講生が多い |
| ・後期の授業なので手話検定試験（毎年10月）が受けられない |                  |         |
| ・ゲスト講師の回数を増やしたい               | ・学生がろう者と接する機会がない |         |
| ・講師の確保                        | ・適切なテキスト         |         |
| ・適切な映像教材                      | ・最新データの活用        |         |
| ・講師への情報保障                     | ・看護学生に対応するテキスト   |         |
| ・ろう者講師とペアで担当したい               | ・ろう講師が主となって指導する  |         |
| ・固定机・イスでグループ学習がしにくい           | ・事後学習（復習）が十分でない  |         |

手話通訳者教育の課題としては、

- 専門学校では、ろう運動を話すこと、現場で求められる価値、知識、技術を指導すること、居住地でのサークル活動への参加・ろうあ協会との関わり作り、があげられた。
- 大学では、学術手話通訳レベル対応カリキュラムの開発、通訳研究に関わる文献はほとんどが英語、受講希望者が少ないことがあげられた。

### 【手話通訳者教育の課題】

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ・学生が多様な場面についてイメージが持ちにくい |                  |
| ・少人数教育で、他者からの刺激が少ない     |                  |
| ・ろう運動についての理解が深まらない      | ・居住地での手話サークルへの参加 |
| ・居住地でのろう団体との関係作り        |                  |
- 
- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| ・学術手話通訳レベル対応カリキュラムの開発 |              |
| ・日本語の通訳研究の文献が少ない      | ・受講希望者が少ないこと |

## 10) 手話教育・手話通訳者教育に携わった経験年数

手話教育・手話通訳者教育に携わった経験年数を表23～表25、平均経験年数を図1にまとめた。

手話教育、手話通訳者教育それぞれ、高等教育機関での経験数より地域での養成（厚生労働省の養成カリキュラムに基づく）が、1.5倍～2倍ほど長くなっている。高等教育機関調査で、教員・講師資格を見たが「教育歴」や「団体の推薦」が、教員資格要件として重視されていることから、地域養成で実績がある人物が、講師となっている状況が見られる。

表 23 手話教育・手話通訳者教育に携わった経験年数 専門学校

|        | ①手話教育<br>地域での養成 | ①手話教育<br>高等教育機関での教育 | ②手話通訳者教育<br>地域での養成 | ②手話通訳者教育<br>高等教育機関での教育 |
|--------|-----------------|---------------------|--------------------|------------------------|
| 5年以下   | 2               | 4                   | 1                  | 1                      |
| 6-10年  | 1               | 1                   | 1                  | 3                      |
| 11-15年 | 3               | 0                   | 1                  | 0                      |
| 16-20年 | 0               | 0                   | 0                  | 0                      |
| 21年以上  | 3               | 1                   | 2                  | 0                      |
| 平均年数   | 15.5年           | 7.9年                | 16.2年              | 9.25年                  |
|        | 最高 30 年         | 最高 30 年             | 最高 30 年            | 最高 10 年                |

表 24 手話教育・手話通訳者教育に携わった経験年数 短期大学

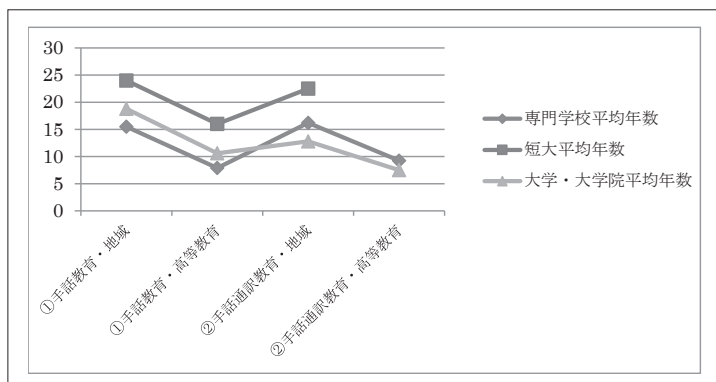
|        | ①手話教育<br>地域での養成 | ①手話教育<br>高等教育機関での教育 | ②手話通訳者教育<br>地域での養成 | ②手話通訳者教育<br>高等教育機関での教育 |
|--------|-----------------|---------------------|--------------------|------------------------|
| 5年以下   | 0               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 6-10年  | 2               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 11-15年 | 1               | 2                   | 1                  | 0                      |
| 16-20年 | 2               | 3                   | 0                  | 0                      |
| 21年以上  | 4               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 平均年数   | 24年             | 16年                 | 22.5年              | 回答なし                   |
|        | 最高 38 年         | 最高 20 年             | 最高 38 年            |                        |

表 25 手話教育・手話通訳者教育に携わった経験年数 大学・大学院

|        | ①手話教育<br>地域での養成 | ①手話教育<br>高等教育機関での教育 | ②手話通訳者教育<br>地域での養成 | ②手話通訳者教育<br>高等教育機関での教育 |
|--------|-----------------|---------------------|--------------------|------------------------|
| 5年以下   | 1               | 3                   | 2                  | 2                      |
| 6-10年  | 3               | 9                   | 0                  | 0                      |
| 11-15年 | 3               | 3                   | 1                  | 1                      |
| 16-20年 | 3               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 21年以上  | 4               | 2                   | 1                  | 0                      |
| 平均年数   | 18.8年           | 10.6年               | 12.8年              | 7.5年                   |
|        | 最高 40 年         | 最高 30 年             | 最高 25 年            | 最高 14 年                |



図1 手話教育・手話通訳者教育に携わった経験年数：平均年数



\*短期大学では、手話通訳者教育が行われていないので数値がない。

### 11) 手話教育・手話通訳者教育についての意見

調査項目の最後に、手話教育・手話通訳者教育についての意見として、①必要な教育科目（関連科目）、②カリキュラム策定にあたって大切な視点、③手話教育・手話通訳者教育に対する要望・意見を自由に記述してもらった。

#### ①必要な科目

関連科目として、必要な科目は、以下のように多数あげられた。手話や手話通訳を理解するためには、実技だけではなく、学術的な諸知識とその学習の必要性が提起されている。

##### 1) 専門学校

|      |            |             |          |
|------|------------|-------------|----------|
| 手話学  | コミュニケーション論 | 聴覚障害学       | 聴覚障害者福祉論 |
| ろう教育 | ろうあ運動      | コミュニケーション技術 |          |

##### 2) 短大

|            |        |          |       |
|------------|--------|----------|-------|
| 手話学        | 聴覚障害学  | 聴覚障害者福祉論 | ろうあ運動 |
| コミュニケーション論 | 対人援助技術 | 障害者福祉    | 手話通訳論 |

##### 3) 大学

|       |          |            |               |
|-------|----------|------------|---------------|
| 聴覚障害学 | 聴覚障害者福祉論 | 聴覚障害運動     | ろう文化          |
| 言語教授法 | 日本語演習    | 手話言語学特論／演習 | 手話教育特論        |
| 教育論   | 指導論      | 教育心理学      | ろう教育 意思疎通支援事業 |
| 手話学   | 手話通訳論    | 通訳理論       | 手話人文学         |

#### ②カリキュラム策定にあたって大切な視点

カリキュラム策定にあたっての視点としての意見を、表26にまとめた。出された意見は様々であるが、大きく区分すると、1. 聴覚障害や聴覚障害者運動、手話・手話通訳への理解に結びつく科目・授業、2. 社会を変える、聴覚障害者を支える、手話を普及する、共に歩むといった学習者の姿勢や倫理観を育てる科目・授業、3. 学術的な素養の涵養、4. 将来の手話・手話教育指導者として必要な知識、

となっている。

表 26 カリキュラム策定にあたって大切な視点

|                            | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | 合計 |
|----------------------------|------|----|--------|----|
| 聴覚障害者理解                    | 2    | 2  | 2      | 6  |
| 聴覚障害者とのコミュニケーションが手話<br>できる | 1    | 1  | 1      | 3  |
| 社会を変えていく人材養成               | 1    | 1  |        | 2  |
| 運動から学ぶ・理解する                | 1    | 1  |        | 2  |
| モデルカリキュラムの作成               |      |    | 2      | 2  |
| 手話を普及しようとする気持ち             | 1    |    |        | 1  |
| 伝え合う大切さ                    | 1    |    |        | 1  |
| 楽しい授業                      |      | 1  |        | 1  |
| 教える側も学ぶ側にも余裕を持たせられる        |      | 1  |        | 1  |
| 講師不足についての対策                |      | 1  |        | 1  |
| 手話通訳の理解                    |      | 1  |        | 1  |
| コミュニケーション環境の理解             |      | 1  |        | 1  |
| 聴覚障害者を支える人材育成              |      | 1  |        | 1  |
| 講義の教え方、演習、実習のポイント          |      | 1  |        | 1  |
| 一貫した手話通訳者教育                |      |    | 1      | 1  |
| 地域に即した手話テキスト               |      |    | 1      | 1  |
| 学習後の学習維持機会の確保              |      |    | 1      | 1  |
| 「共に歩む」という姿勢                |      |    | 1      | 1  |
| 学術的な知見の涵養                  |      |    | 1      | 1  |
| 障害を文化と見る視点                 |      |    | 1      | 1  |
| 手話の理解                      |      |    | 1      | 1  |
| コミュニケーションの理解               |      |    | 1      | 1  |

### ③手話教育・手話通訳者教育に対する要望・意見

手話教育・手話通訳者教育に対する要望・意見を表 27 にまとめた。多様な意見がだされたが、合計数の多いものから、「講師人材の育成・確保」、「教育時間数の標準化と確保」、「手話教育科目の通年・必修化」、「一貫した手話通訳者養成カリキュラムの実施」、があげられているが、その他の意見は、これらの意見に関連するものとなっている。

表 27 手話教育・手話通訳者教育に関する要望・意見

|                                | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | 合計 |
|--------------------------------|------|----|--------|----|
| 手話教育ができる講師人材の育成・確保             | 1    | 1  | 1      | 3  |
| 手話教育の時間数の標準化と確保                |      | 1  | 1      | 2  |
| 手話教育は通年科目・必修とする                |      | 1  | 1      | 2  |
| 手話通訳士を目指せる一貫した手話通訳者養成カリキュラムの実施 |      |    | 2      | 2  |
| 手話教育担当講師の研修機会                  | 1    |    |        | 1  |
| 教育力を有する講師の確保                   | 1    |    |        | 1  |
| テキスト・教材の活用                     | 1    |    |        | 1  |
| 「ことばの仕組み【手話】」を深めた講義科目の開設       |      | 1  |        | 1  |
| ろう者と健聴者が一緒に担当することが大切           |      | 1  |        | 1  |
| 講師養成講座の都道府県開催                  |      | 1  |        | 1  |
| 講師の教育技能の向上                     |      |    | 1      | 1  |
| 大学講義にあったテキストの開発                |      |    | 1      | 1  |
| 高等教育機関（大学、大学院）での専門職養成          |      |    | 1      | 1  |
| 専門職として働く場の確保・拡充                |      |    | 1      | 1  |
| その他                            |      |    | 3      | 3  |

### Ⅲ 高等教育機関での手話教育・手話通訳者教育のカリキュラムと教員についての提言

今回実施した、専門学校・短期大学・大学等の高等教育機関調査、高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育に従事する教員・講師調査から、以下の提言をしたい。

#### 1. 手話教育及び手話通訳者教育科目の開設と開設時間数

厚生労働省の「手話奉仕員養成カリキュラム」に基づけば、80 時間の手話教育が求められている。高等教育機関では、半期科目の時間数が 30 時間となっているので、「2 コマ・60 時間」以上の「手話」教育が求められる。

関連科目としては、「手話学」、「コミュニケーション論」、「聴覚障害学」、「聴覚障害者福祉論」、「ろう教育」、「対人援助技術」などの開設が望まれる。

同じく、厚生労働省の「手話通訳者養成カリキュラム」に基づけば、90 時間の手話通訳教育が求められる。「3 コマ・90 時間以上」の「手話通訳者教育」が求められる。

関連科目としては、「手話通訳論」、「手話通訳演習」、「手話通訳実習」、「手話通訳特講」、「聴覚障害者福祉論」、「聴覚障害学」、「アメリカ手話」、「手話学」、「通訳理論」、「手話教授法」などの開設が望まれる。

表 28 手話教育—専門学校・短大・大学共通

|      |              |      |        |        |
|------|--------------|------|--------|--------|
| 開設時間 | 30 時間×2 コマ以上 |      |        |        |
| 科目名  | 手話 1         | 手話 2 | (手話 3) | (手話 4) |

表 29 手話通訳者教育

1) 手話通訳者教育—専門学校・短大・大学共通 専門学校・短大・大学共通

1. 手話通訳実技関係

|      |              |        |        |          |
|------|--------------|--------|--------|----------|
| 開設時間 | 30 時間×3 コマ以上 |        |        |          |
| 科目名  | 手話通訳 1       | 手話通訳 2 | 手話通訳 3 | (手話通訳 4) |

大学院における手話通訳者教育については、手話や手話通訳についての素養、知識、技術、経験があることをふまえた上で、手話研究、手話通訳研究、聴覚障害者研究等を行うことが望まれる。

#### 2. 手話教育・手話通訳者教育の教員の養成と確保

今回の 2 つの調査では、手話教育・手話通訳者教育にあたる教員・講師の確保が課題となっていることが示された。すなわち、教員・講師の確保が困難な状況にあるということである。その要因は、以下の点があげられる。

1. 手話教育を行う高等教育機関の拡大に伴う教員・講師の確保の困難
2. 現在担当する教員・講師の高齢化の一方で後継者の確保の困難
3. 学位・研究業績・教育歴を有する教員・講師の確保の困難
4. 専任教員が少なく、多数は非常勤講師で手話教育・手話通訳者教育が担われていること。

今回の調査では、人材確保について、以下のような課題がだされた。

「担当できる有資格者が少ないため、確保が難しい。」

「ろう者で大学講師の要件を満たし、手話教育のトレーニングを受けた方が確保できない。」

「地域と関わり、ろう運動を社会の枠組みに照らして語れる人材の確保」

これまで、手話教育や手話通訳者教育における教員・講師の系統だった養成は行われてこなかった。それは、手話奉仕員養成講座や手話通訳者養成講座が「地域養成」（市町村及び県単位）という形態で行われてきたこと、各講座を担う講師は、各地域で活躍する団体の役員を中心とする構成員で担われてきたためである。一方、大学、大学院等での教員・講師養成は行われてこなかった。

そのような状況のなかで、2016（平成26）年4月に、筑波技術大学大学院が開設され、技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻では、手話ができることが入学要件とされ、「高度で専門的な知識や技術を持つ支援者、教育・研究者として、社会に積極的に参加し、共生社会の実現とその発展に貢献」する人材育成が、掲げられた。

高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育を担う教員・講師は、学校教育法や文部科学省令に基づき、①大学院等で専門領域の学問を修めた者が求められる。しかし、全国各地に、筑波技術大学大学院のような大学院の開設は望まれることではあるが、すぐの実現は見込めないであろう。

そうであるならば、当面、高等教育機関で手話教育・手話通訳者教育にあたる者は、②大学・短大等で手話や手話通訳に関する学問を修め、必要な研修を修了した者、③手話通訳士有資格者で、必要な研修を修了した者、とする提言をしたい。

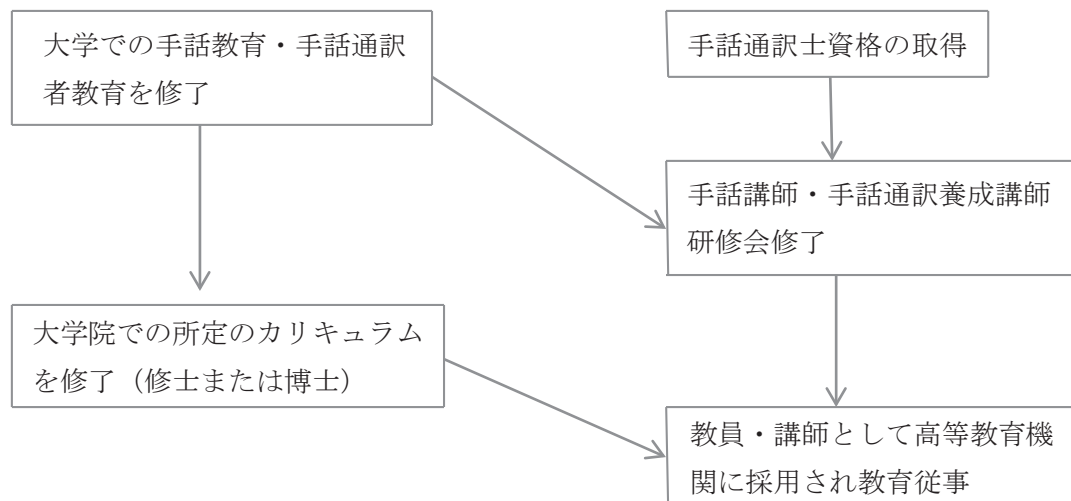
＊ここで言う必要な研修とは、「手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査」で提起している講師養成カリキュラムに基づく講師養成研修を想定している。

ただし、手話教育や手話通訳者教育の教員養成を目的とする大学等についても、今日現在、設置されていないので、②の人材についても直ちに得られるような状況にはない。将来的には、①②③による人材確保を目標としつつ、④必要な研修を修了した者（聴覚障害者の場合は、地域養成の経験を条件とし、健聴者の場合は手話通訳士資格取得を条件とする）を加えておきたい。

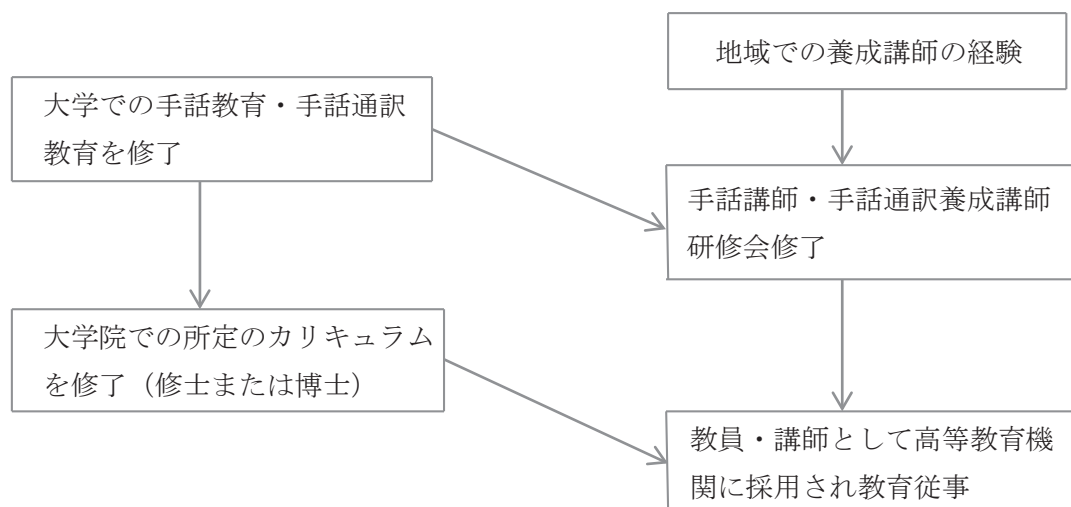
教員の身分としては、専門学校、短大、大学、大学院において、専任教員が教育にあたるのが望ましい。開講科目数や時間等を考慮して、上記有資格者による非常勤講師があたることも可能とする。

## 高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育を担う教員・講師の資格

### 【健聴者が教員・講師となる場合】



### 【聴覚障害者が教員・講師となる場合】



### 3. 各学部教育や学科教育に沿ったテキスト・教材開発

今回、2つの調査から、従来の福祉分野の学部学科から、医療、心理、サービス等、主に対人サービスに関わる専門職者養成課程での手話教育が実施されているという状況が把握できた。また、全学的な教養教育科目、外国語科目として導入している大学も見られた。

今回の調査で意見が出されたが、前者（対人サービス分野）の場合、それぞれの専門職種に応じた、手話の学習、そのための教材が求められている。従って、今後の課題として、専門職種に対応した手話テキスト、教材の開発の必要性があげられる。



#### 4. 高等教育機関における手話教育の導入と人材の確保について

今日、大学等では、手話教育を従来の「社会福祉・障害者福祉に関する専門科目」としてだけではなく、教養教育科目、あるいは外国語科目と同等の科目として位置づけているところが増えつつある。また、今回の調査を通じて、専門学校では、対人サービスを行う専門職として必要なコミュニケーション技術として位置づけ、手話教育が導入・実施されている実態が示された。

今後、手話や手話通訳の社会的評価の高まりや、聴覚障害者の情報・コミュニケーションに関するアクセス権の高まりが進むことで、あらゆる場所や機会に手話が広まっていくとき、このような高等教育機関での「手話科目の履修」、「手話通訳科目の履修」及びこれによる資格取得（全国手話検定1級、手話通訳者資格、手話通訳士資格等）が、将来の就職や仕事に結びつくような仕組みが必要不可欠となる。また、そうなるために、高等教育機関での手話教育、手話通訳者教育の一層の拡大が求められる。

手話教育や手話通訳教育を受けた学生の進路として、以下例示する。

例 ・小学校、中学校、高等学校等で手話を教える教員

- ・学校におけるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等
- ・大学・大学院で手話研究・手話通訳研究を行う研究者および教育者
- ・小学校・中学校・高等学校・大学・大学院等において、在籍する聴覚障害生徒・学生に対して手話通訳を担当する職員
- ・企業での第二号職場適応援助者や障害者職業生活相談員など
- ・公共職業安定所（ハローワーク）での職業指導官、就職促進指導官、雇用指導官、障害者専門支援員など
- ・行政機関及び民間機関が実施する相談事業所の相談員
- ・高齢者・障害者・児童等が利用する福祉施設や、更生保護施設等の職員
- ・各領域の行政機関及び民間機関の職員（司法・医療機関・警察・消防等）
- ・公共施設、公共交通機関等の職員                      等

補足するが、上記の職域・職種の中には、手話が使える、手話通訳ができる、という以前に、その領域についての専門知識や技術、そして資格を必要とするものが含まれている。

このことは、言い換えれば、専門的な業務を行う者は、高等教育機関において、手話教育を受ける機会が与えられ、それを将来の職場・仕事で活かすことができる状況が求められている。

例えば、聴覚障害者を診察・治療する医師や看護師が、手話通訳者を介さなくても、直接手話で意思疎通できる状況が望まれる。また、聴覚障害者に対して相談を行う社会福祉士が、手話で相談ができることも重要である。また、聴覚障害児教育に従事する教員が、手話で教育する能力を有することも重要である。

以上から、高等教育機関での専門職教育において、必要な知識・技術として手話教育及び手話通訳者教育を受けることが求められる。

# 調查結果・分析

資 料 編

調査担当者（       ／       ）ヒアリング日時 2014 年    月    日    時～    時

問 1 施設及び団体の名称等

|                         |     |                                    |      |  |
|-------------------------|-----|------------------------------------|------|--|
| 施設及び団体名                 |     |                                    |      |  |
| 所在地                     |     |                                    |      |  |
| 調査票回答者<br>氏名・所属・<br>連絡先 | 氏名  |                                    | 所属部署 |  |
|                         | 連絡先 | FAX 電話 (       )       -<br>e-mail |      |  |

※記入時の注意点 手話指導者（講師）養成は「手話奉仕員養成講座」を担当する講師、  
手話通訳者（講師）養成は「手話通訳者養成講座」を担当する講師と示す

|               | 実施 | 実施なし | 他団体が事業実施 |
|---------------|----|------|----------|
| 手話指導者（講師）養成   |    |      |          |
| 手話通訳指導者（講師）養成 |    |      |          |

( )

|      |    |   |   |   |
|------|----|---|---|---|
| 開始年  | 西曆 | 年 | 月 | 日 |
| 開始理由 |    |   |   |   |

|        |             |               |
|--------|-------------|---------------|
|        | 手話指導者（講師）養成 | 手話通訳指導者（講師）養成 |
| カリキュラム |             |               |
| 実施要綱   |             |               |

※カリキュラム及び実施要綱の写しを添付ください。

## 問5 講師養成カリキュラム及び実施要綱策定の際、どんな資料を参考に策定しましたか？

- ( ) 平成17年度(2005年度)  
 聴覚障害者のコミュニケーション支援の現状把握及び再構築検討事業
- ( ) 手話奉仕員及び手話通訳者養成講座指導書
- ( ) 全国手話研修センターによる担当講師連続講座
- ( ) その他( )

## 問6 事業費の内訳をお書きください。

## 6-1 収入の部

| 項 目       | 金額(総額) | 摘 要          |
|-----------|--------|--------------|
| 国の委託費     | 円      |              |
| 都道府県の委託費  | 円      |              |
| 実施団体より助成金 | 円      |              |
| 受講者の参加費   | 円      | 受講者1人当たり( )円 |
| その他( )    | 円      |              |
| 合 計       | 円      |              |

※国及び都道府県の委託費のうち、全国統一試験、全国手話検定試験に関する委託費とセットになっていれば摘要欄に書き入れてください。

## 6-2 支出の部

| 項 目     | 金額(総額) | 摘 要           |
|---------|--------|---------------|
| 会 場 費   | 円      |               |
| 講 師 謝 礼 | 円      | 講師1人当たり( )円/回 |
| 交 通 費   | 円      |               |
| 教 材 費   | 円      |               |
| その他( )  | 円      |               |
| 合 計     | 円      |               |

問 7 2013 年度の講師養成事業の開催内容をお書きください。

| コ ー ス | 手話指導者（講師）養成                               | 手話通訳指導者（講師）養成                             |
|-------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 講座回数  | 回                                         | 回                                         |
| 定 員   | 人                                         | 人                                         |
| 受講条件  |                                           |                                           |
| 開催期間  | 月 ～ 月<br>受講日数（のべ ）日<br>受講時間（のべ ）時間        | 月 ～ 月<br>受講日数（のべ ）日<br>受講時間（のべ ）時間        |
| 開催時間  | 時 分～ 時 分<br>1 コマ（ ）分で実施<br>1 回の開催で（ ）コマ実施 | 時 分～ 時 分<br>1 コマ（ ）分で実施<br>1 回の開催で（ ）コマ実施 |
| 受講料   | 無 料 ・ 有 料 ( ) 円                           | 無 料 ・ 有 料 ( ) 円                           |
| 修了条件  |                                           |                                           |

※開催要綱の写しを添付ください。

問 8 講師養成講座のプログラム・テキストについて

8-1 講義及び実技科目の内訳と時間をお書きください。

|    | 手話指導者（講師）養成 |        | 手話通訳指導者（講師）養成 |        |
|----|-------------|--------|---------------|--------|
|    | 科目名         | 時間／コマ数 | 科目名           | 時間／コマ数 |
| 講義 |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
| 実技 |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |
|    |             |        |               |        |

備考：（例：必修科目と選択科目があれば科目名を記入）

## 8-2 テキストを使用していますか？

☐ 使用している

※テキスト名と発行元を記入ください。

|                   | テキスト名 | 発行元 |
|-------------------|-------|-----|
| 手話指導者<br>（講師）養成   |       |     |
|                   |       |     |
|                   |       |     |
| 手話通訳指導者<br>（講師）養成 |       |     |
|                   |       |     |
|                   |       |     |

☐ 使用していない

※当日配布資料がありましたらご提供願います

## 問 9 過去 5 年間の講師養成事業の実績をお書きください。

|         | 手話指導者（講師）養成<br>申込人数 / 修了人数 | 手話通訳指導者（講師）養成<br>申込人数 / 修了人数 |
|---------|----------------------------|------------------------------|
| 2010 年度 | ( ) 人 / ( ) 人              | ( ) 人 / ( ) 人                |
| 2011 年度 | ( ) 人 / ( ) 人              | ( ) 人 / ( ) 人                |
| 2012 年度 | ( ) 人 / ( ) 人              | ( ) 人 / ( ) 人                |
| 2013 年度 | ( ) 人 / ( ) 人              | ( ) 人 / ( ) 人                |
| 2014 年度 | ( ) 人 / ( ) 人              | ( ) 人 / ( ) 人                |

## 問 10 2013 年度講師養成（講義、実技共）を担当する講師内訳と人数をお書きください。

☐ 全国手話研修センター ☐ 人  
☐ 講師養成連続講座等修了者（県外） ☐ 人  
☐ 講師養成連続講座等修了者（県内） ☐ 人  
☐ 外部招聘講師（大学教授等専門家） ☐ 人  
☐ その他（ ） ☐ 人



問 11 2013 年度の講師養成講座で実技指導を行うためのモニター受講者手配について、次の問いに回答をお書きください。

|                     | 手話指導者（講師）養成 | 手話通訳指導者（講師）養成 |
|---------------------|-------------|---------------|
| モニター受講者の資格<br>または条件 |             |               |
| 募集方法                |             |               |

問 12 講師養成事業に関し、現在抱えている課題があればお書きください。

|                |
|----------------|
| ○手話指導者（講師）養成   |
| ○手話通訳指導者（講師）養成 |

問 13 講師養成事業に関し、今後どのようなカリキュラム（科目）及び実施体制が望まれるか、ご意見を聞かせてください。

|                |
|----------------|
| ○手話指導者（講師）養成   |
| ○手話通訳指導者（講師）養成 |

## 【講師養成講座修了後の講師活動について】

問 14 講師登録について、お書きください。

|                    | 手話指導者（講師）養成 | 手話通訳指導者（講師）養成 |
|--------------------|-------------|---------------|
| 講師登録の有無            | 有 ・ 無       | 有 ・ 無         |
| 講師認定方法または登録要件      |             |               |
| 講師登録更新の有無及び更新方法・要件 | 有 ・ 無       | 有 ・ 無         |
|                    |             |               |

※講師選考に係る基準表等資料がありましたらご提供願います

問 15 講師団について、お書きください。

|          | 手話指導者（講師）養成 | 手話通訳指導者（講師）養成 |
|----------|-------------|---------------|
| 講師団の有無   | 有 ・ 無       | 有 ・ 無         |
| 講師団会議の回数 | 回／年         | 回／年           |
| 講師団会議の内容 |             |               |

問 16 修了後の講師研修について、お書きください。

|         | 手話指導者（講師）養成 | 手話通訳指導者（講師）養成 |
|---------|-------------|---------------|
| 講師研修の有無 | 有 ・ 無       | 有 ・ 無         |
| 研修回数    | 回／年         | 回／年           |
| 研修内容    |             |               |

問 17 講師派遣コーディネーターについて、お書きください。

| コーディネーターの有無                                             | 有 ・ 無 |
|---------------------------------------------------------|-------|
| 有る場合は、現在抱えている課題をお書きください。無い場合は今後どのような実施体制が望まれるか、お書きください。 |       |

ご協力ありがとうございました。

なお、本票で得られた個人の情報は、本調査以外に使用しないことをお約束します。

## 平成 26 年度（2014 年度）「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業」

## ②－(1) 専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査

## A 票：高等教育機関調査票

【基本情報】 問 1 ※平成 26 年（2014 年）10 月 1 日現在でお答えください。

|                              |     |  |       |  |     |  |                     |  |
|------------------------------|-----|--|-------|--|-----|--|---------------------|--|
| 教育機関名称                       |     |  |       |  |     |  |                     |  |
| 手話教育・手話通訳者教育の開講学部・学科名（複数記入可） |     |  |       |  |     |  |                     |  |
| 所在地                          | 〒 ー |  |       |  |     |  |                     |  |
| 調査回答者の氏名・所属・職位・連絡先           | 氏名  |  | 所属・職位 |  | 連絡先 |  | 電話<br>FAX<br>e-mail |  |

※用語の定義 手話教育：「初級手話」、「中級手話」、「上級手話」等のレベルまたは、「手話奉仕員（厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムによる）」と同等またはそれ以上のレベルの手話教育  
手話通訳者教育：「手話通訳者（厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムによる）」同等、またはそれ以上のレベルの手話通訳者教育

【手話教育の現況 / 手話通訳者教育の現況】 問 2

該当する項目に○をつけてください。

1. 手話教育を ( ) 実施している ( ) 実施していない

※実施している場合、問 3 にお答えください。

2. 手話通訳者教育を ( ) 実施している ( ) 実施していない

※実施している場合、問 4 にお答えください。

問 3-1 以下の質問にお答えください。

◎ 2013 年度 以下の資格を取得した学生数を記入ください。

|            |             |           |
|------------|-------------|-----------|
| 手話検定       | 5 級 ( ) 人   | 4 級 ( ) 人 |
|            | 3 級 ( ) 人   | 2 級 ( ) 人 |
|            | 準 1 級 ( ) 人 | 1 級 ( ) 人 |
| 手話通訳者試験合格者 | ( ) 人       |           |
| 手話通訳士試験合格者 | ( ) 人       |           |
| その他        | ( )         |           |

問 3-2 「手話」の名称の入った科目について、以下の質問にお答えください。

\*その他の関連科目は問 3-3 でお答えください。

| 質問項目                                         | 回 答                                                                                                          |        |       | 担当教員の専任・非常勤の区分 |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|----------------|
| 1. 手話教育の科目名、実施学年、教育時間数                       | (例) 手話 I                                                                                                     | 2 年生前期 | 30 時間 | ③ 専 非          |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                              |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
| 2. 手話教育のカリキュラムの内容について<br>(該当するものに○をつけてください。) | 1. 厚生労働省の手話奉仕員養成カリキュラムに沿って行う。<br>(その理由 )<br>2. 独自のカリキュラムを作成している。<br>(その理由 )<br>3. 1 2 の両方である。<br>(その理由 )     |        |       | 備考             |
| 3. 手話教育のテキスト・教材について<br>(該当するものに○をつけてください。)   | 1. 全国手話研修センター発行のテキスト・教材を使用している。<br>(その理由 )<br>2. 独自のテキスト・教材を使用している<br>(その理由 )<br>3. 1 2 の両方を使っている<br>(その理由 ) |        |       | 使用するテキストの名称    |
| 4. 手話教育カリキュラム、テキスト、教材について改善点や要望があれば、記述ください。  |                                                                                                              |        |       | 備考             |
| 5. 副教材として使用しているものがあれば、記述ください。                |                                                                                                              |        |       |                |

## 問 3-3 手話教育に関連するその他の科目

| 質問項目                                                                           | 回 答          |        |       | 担当教員の専任・非常勤の区分 |
|--------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------|-------|----------------|
| 1. 手話教育に関連するその他の科目を記述ください。<br>(カリキュラム全ての科目を記入するのではなく、手話教育に重要な関連科目を選択して記入ください。) | (例) 聴覚障害者福祉論 | 3 年生後期 | 30 時間 | ③ 専 非          |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       | 専 非            |
|                                                                                |              |        |       |                |
|                                                                                |              |        |       |                |
|                                                                                |              |        |       |                |
|                                                                                |              |        |       |                |
| 2. 現在は開講していないが、手話教育に必要な関連科目について、上記 1. 以外にあれば、科目名を記入ください。                       |              |        |       | 備考             |

問 3-4 手話科目および手話関連科目を担当する教員（専任・非常勤）について、質問にお答えください。

| 質問項目                                                              | 回 答                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                      | 備考 |
|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. 手話科目・手話関連科目を担当する教員の実数数                                         | 専任教員数                                                                                                                                                                                                                                                                | 人<br>うち、聴覚障害教員<br>人                                                                                                                                                                                                                                                  |    |
| * 問 3 - 2 - 1、問 3 - 3 - 1 の科目を担当する教員の実数                           | 非常勤講師数                                                                                                                                                                                                                                                               | 人<br>うち、聴覚障害教員<br>人                                                                                                                                                                                                                                                  |    |
| 2. 教職員任用にあたっての基準・資格要件等があれば、該当するものに○を付けてください。特に重視するものには、◎を付けてください。 | 専任                                                                                                                                                                                                                                                                   | 非常勤                                                                                                                                                                                                                                                                  | 備考 |
|                                                                   | 1. 博士学位<br>2. 修士学位<br>3. 学士学位<br>4. 教育歴・経験<br>5. 研究業績<br>6. 手話通訳士<br>7. 社会福祉士<br>8. 精神保健福祉士<br>9. ろう団体推薦<br>10. 通訳者団体推薦<br>11. その他<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    ) | 1. 博士学位<br>2. 修士学位<br>3. 学士学位<br>4. 教育歴・経験<br>5. 研究業績<br>6. 手話通訳士<br>7. 社会福祉士<br>8. 精神保健福祉士<br>9. ろう団体推薦<br>10. 通訳者団体推薦<br>11. その他<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    ) |    |
| 3. 教員任用にあたって苦勞していること、課題等があれば記述ください。                               |                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                      |    |

◎ありがとうございました。本票に、手話教育を含む貴校のカリキュラム一覧を資料として添付ください。

◎前年度、「手話教育に関する科目」について、学生による授業評価結果を示す資料があれば添付してください。

※手話通訳者教育を実施している場合は、引き続き問 4 に回答ください。



## 【手話通訳者教育に関する質問】問4

問4-1 以下の質問にお答えください。

| 質問項目                                                                     | 回 答                                                                                                                                                                                                                        | 備考 |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. 手話通訳者教育開始<br>年月と、導入のきっかけ、<br>経緯<br>複数学科で開講している場<br>合は、最初の学科の年月を<br>記入 | 西暦      年      月      ～      導入<br>経緯                                                                                                                                                                                      |    |
| 2. 手話通訳者教育導入<br>の教育目的<br>複数学科で開講している場<br>合は、それぞれについて記<br>入               |                                                                                                                                                                                                                            |    |
| 3. 手話通訳者教育導入<br>の成果<br>複数学科で開講している場<br>合は、それぞれについて記<br>入                 | ◎ 2013 年度 以下の資格を取得した学生数を記入ください。<br>手話検定 5 級 (      ) 人      4 級 (      ) 人<br>3 級 (      ) 人      2 級 (      ) 人<br>準 1 級 (      ) 人      1 級 (      ) 人<br>手話通訳者試験合格者 (      ) 人<br>手話通訳士試験合格者 (      ) 人<br>その他 (      ) |    |
| 4. 手話通訳者教育上の<br>課題                                                       |                                                                                                                                                                                                                            |    |

問 4-2 「手話通訳」の名称の入った科目について、以下の質問にお答えください。

\*その他の関連科目は問 3-3 でお答えください。

| 質問項目                                            | 回 答                                                                                                          |        |       | 担当教員の専任・非常勤の区分 |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|----------------|
| 1. 手話通訳者教育の科目名、実施学年、教育時間数                       | (例) 手話通訳 I                                                                                                   | 2 年生前期 | 60 時間 | ④ 専 非          |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
|                                                 |                                                                                                              |        |       | 専 非            |
| 2. 手話通訳者教育のカリキュラムの内容について<br>(該当するものに○をつけてください。) | 1. 厚生労働省の手話通訳者養成カリキュラムに沿って行う。<br>(その理由 )<br>2. 独自のカリキュラムを作成している。<br>(その理由 )<br>3. 1 2 の両方である。<br>(その理由 )     |        |       | 備考             |
| 3. 手話通訳者教育のテキスト・教材について<br>(該当するものに○をつけてください。)   | 1. 全国手話研修センター発行のテキスト・教材を使用している。<br>(その理由 )<br>2. 独自のテキスト・教材を使用している<br>(その理由 )<br>3. 1 2 の両方を使っている<br>(その理由 ) |        |       | 使用するテキストの名称    |
| 4. 手話通訳者教育カリキュラム、テキスト、教材について改善点や要望があれば、記述ください。  |                                                                                                              |        |       | 備考             |
| 5. 副教材として使用しているものがあれば、記述ください。                   |                                                                                                              |        |       |                |

## 問 4-3 手話通訳者教育に関連するその他の科目

| 質問項目                                                                                 | 回 答     |        |       | 担当教員の専任・<br>非常勤の区分 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------|-------|--------------------|
|                                                                                      |         |        |       |                    |
| 1. 手話通訳者教育に関連するその他の科目を記述ください。<br>(カリキュラム全ての科目を記入するのではなく、手話通訳者教育に重要な関連科目を選択して記入ください。) | (例) 翻訳論 | 3 年生後期 | 30 時間 | ③ 専 非              |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       | 専 非                |
|                                                                                      |         |        |       |                    |
|                                                                                      |         |        |       |                    |
|                                                                                      |         |        |       |                    |
|                                                                                      |         |        |       |                    |
| 2. 現在は開講していないが、手話通訳者教育に必要な関連科目について、1 以外にあれば、科目名を記入ください。                              |         |        |       | 備考                 |
|                                                                                      |         |        |       |                    |

問 4-4 手話教育科目および手話教育関連科目担当する教員（専任・非常勤）について、質問にお答えください。

| 質問項目                                                              | 回 答                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 備考 |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. 手話教育科目・手話教育関連科目を担当する教員の実数数                                     | 専任教員数                                                                                                                                                                                                                                                             | 人<br>うち、聴覚障害教員<br>人                                                                                                                                                                                                                                               |    |
| * 問 4 - 2 - 1、問 4 - 3 - 1 の科目を担当する教員の実数                           | 非常勤講師数                                                                                                                                                                                                                                                            | 人<br>うち、聴覚障害教員<br>人                                                                                                                                                                                                                                               |    |
| 2. 教職員任用にあたっての基準・資格要件等があれば、該当するものに○を付けてください。特に重視するものには、◎を付けてください。 | 専任                                                                                                                                                                                                                                                                | 非常勤                                                                                                                                                                                                                                                               | 備考 |
|                                                                   | 1. 博士学位<br>2. 修士学位<br>3. 学士学位<br>4. 教育歴<br>5. 研究業績<br>6. 手話通訳士<br>7. 社会福祉士<br>8. 精神保健福祉士<br>9. ろう団体推薦<br>10. 通訳者団体推薦<br>11. その他<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    ) | 1. 博士学位<br>2. 修士学位<br>3. 学士学位<br>4. 教育歴<br>5. 研究業績<br>6. 手話通訳士<br>7. 社会福祉士<br>8. 精神保健福祉士<br>9. ろう団体推薦<br>10. 通訳者団体推薦<br>11. その他<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    )<br>(                    ) |    |
| 3. 教員任用にあたって苦勞していること、課題等があれば記述ください。                               |                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                   |    |

◎ありがとうございました。本票に、手話通訳者教育を含む貴校のカリキュラム一覧を資料として添付ください。

◎前年度、「手話通訳者教育に関する科目」について、学生による授業評価結果を示す資料があれば添付してください。

## 平成26年度(2014年度)「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業」

## ②-(2) 専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査

## B票：教員・講師等個票

※担当の方へのお願い：本票は、貴校で手話教育または手話通訳者教育を担当する専任教員及び非常勤講師に配布し、回収ください。前期だけを担当する非常勤の先生などは、FAX、メール等で連絡をとっていただき、回答をいただけるようお取り計らいください。

## 【基本情報】問1 (※平成26年度現在でお答えください)

※該当するところに○を付けてください。

|                          |                                                 |                   |           |  |  |  |  |
|--------------------------|-------------------------------------------------|-------------------|-----------|--|--|--|--|
| 所属高等教育機関名                |                                                 |                   |           |  |  |  |  |
| 性別                       | 男 女                                             | 障害の有無             | 有(障害名 ) 無 |  |  |  |  |
| 年齢                       | 20 歳代 30 歳代 40 歳代 50 歳代 60 歳代 70 歳代 80 歳代       |                   |           |  |  |  |  |
| 手話を使い始めた、または学び始めた年齢      |                                                 | ( ) 才から 現在 ( ) 年目 |           |  |  |  |  |
| 最終学歴                     | 高卒 専門学校卒 短大卒 大卒 大学院修了(学位 )                      |                   |           |  |  |  |  |
| 所有する資格                   | 教員免許 手話通訳士 手話通訳者 社会福祉士 精神保健福祉士<br>介護福祉士 その他 ( ) |                   |           |  |  |  |  |
| 担当科目の区分                  | ① 手話教育 ② 手話通訳者教育 ③ ①②の両方<br>④ その他 ( )           |                   |           |  |  |  |  |
| 雇用身分                     | 専任職員(職位：教授 准教授 講師 助教) 非常勤講師                     |                   |           |  |  |  |  |
| 他の高等教育機関での手話・手話通訳関係の講義担当 | なし<br>あり(担当科目名： )                               |                   |           |  |  |  |  |

※用語の定義 手話教育：「初級手話」、「中級手話」、「上級手話」等のレベルまたは、「手話奉仕員（厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムによる）」と同等またはそれ以上のレベルの手話教育

手話通訳者教育：「手話通訳者（厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムによる）」同等、またはそれ以上のレベルの手話通訳者教育

※手話通訳士・手話通訳者資格を有する方にお尋ねします。

①手話通訳を始めた年 西暦 ( ) 年 (頃) ~ 現在に至る。

②手話通訳者資格を取得した年 西暦 ( ) 年

③手話通訳士資格を取得した年 西暦 ( ) 年

【手話教育・手話通訳者教育についての質問】 問 2

| 質問項目                                                     | 回 答 欄    |        |       |              |      |
|----------------------------------------------------------|----------|--------|-------|--------------|------|
|                                                          | 科目名      | 開講期    | 時間数   | 単独で授業を行うか複数か | 受講者数 |
| 1-1 今年度、所属高等教育機関で担当する手話教育または手話通訳者教育に関する科目、学年、時間数を記述ください。 | (例) 手話 I | 1 年生前期 | 30 時間 | <u>単</u> 複   | 30 人 |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |
|                                                          |          |        |       | 単 複          |      |

1-2 上記の科目で、複数で授業を行う科目名とその理由を記入ください。

| 質問項目                                      | 回 答 欄                                                                                                                          | 使用テキスト名 |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 2-1 手話教育で使用するテキスト・教材等を記入ください。             | <p>1. 全国手話研修センター発行のテキスト・教材を使用している。<br/>(その理由 )</p> <p>2. 独自のテキスト・教材を使用している<br/>(その理由 )</p> <p>3. 1 2 の両方を使っている<br/>(その理由 )</p> |         |
| 2-2 手話通訳者教育で使用するテキスト・教材等を記入ください。          | <p>1. 全国手話研修センター発行のテキスト・教材を使用している。<br/>(その理由 )</p> <p>2. 独自のテキスト・教材を使用している<br/>(その理由 )</p> <p>3. 1 2 の両方を使っている<br/>(その理由 )</p> |         |
| 2-3-1 手話教育の授業で工夫していることがあれば記入ください。         | 例：地元のろう者をゲストに招き交流する                                                                                                            | 備考      |
| 2-3-2 手話通訳者教育の授業で工夫していることがあれば記入ください。      | 例：手話通訳者試験の模擬試験を実施                                                                                                              |         |
| 3-1 現在、手話教育を担当して、困難なこと、課題と思うことを記述ください。    |                                                                                                                                |         |
| 3-2 現在、手話通訳者教育を担当して、困難なこと、課題と思うことを記述ください。 |                                                                                                                                |         |



【手話教育・手話通訳者教育を担当する講師についての質問】 問3

| 質問項目                                                                                | 回 答 欄                                                                                                               | 備考 |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. あなたは、手話教育・手話通訳者教育に携わって何年になりますか。                                                  | ①手話教育<br>・地域等での養成に携わって ( ) 年<br>・高等教育機関での教育に携わって ( ) 年<br>②手話通訳者教育<br>・地域等での養成に携わって ( ) 年<br>・高等教育機関での教育に携わって ( ) 年 |    |
| 2. あなたが手話教育・手話通訳者教育に携わる契機は何でしたか。                                                    | ①手話教育<br>・地域養成の契機<br>( )<br>・高等教育機関での教育の契機<br>( )<br>②手話通訳者教育<br>・地域養成の契機<br>( )<br>・高等教育機関での教育の契機<br>( )           |    |
| 3. あなたは、手話教育・手話通訳者教育に携わるために、どんな学習（機会）や工夫を積み重ねましたか。あなたのどんな力が、教育に活かされていますか。自由に記述ください。 |                                                                                                                     |    |
| 4. 今後、手話教育・手話通訳者教育に携わる人たちには、どんな資質が求められているでしょうか。自由に記述ください。                           |                                                                                                                     |    |

## 【手話教育・手話通訳者教育を担当する講師についての質問】問4

本調査事業では、「意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定」を事業の柱としています。

手話教育および手話通訳者教育を担当する講師養成のためのカリキュラムを今年度策定していきます。あなたのご意見をお寄せ下さい。

1 カリキュラムを構成する講義科目・演習科目・実習科目等で必要な科目は何でしょうか。

2 カリキュラムを策定するにあたって、大切な視点は何でしょうか。

3 その他、ご要望、ご意見がありましたら、記入ください。

◎ありがとうございました。本票は、所属高等教育機関の担当者にお渡しください。  
なお、本票で得られた個人の情報は、本調査以外に使用しないことをお約束します。

## ①手話奉仕員及び手話通訳者養成の講師養成カリキュラム実態調査

### (1) 調査結果

#### 1. 基礎データ

|                                   |
|-----------------------------------|
| 施設及び団体名                           |
| 社会福祉法人全国手話研修センター                  |
| 社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会 東京手話通訳等派遣センター |
| 一般社団法人新潟県聴覚障害者協会                  |
| 札幌市                               |
| 青森県聴覚障害者情報センター                    |
| 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 千葉聴覚障害者センター      |
| 一般社団法人広島県ろうあ連盟                    |
| 社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会                |
| 公益社団法人静岡県聴覚障害者協会                  |
| とちぎ視聴覚障害者情報センター                   |

\*手話講師養成は「手話奉仕員養成講座」を担当する講師

\*手話通訳講師養成は「手話通訳者養成講座」を担当する講師

#### 2. 講師養成事業の実施

|        | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計  |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 手話講師   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| 手話通訳講師 | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ | 8  |

#### 3. 事業開始年

|                |          | 計 |
|----------------|----------|---|
| ～ 1990 年       | B        | 1 |
| 1991 年～ 1995 年 | I        | 1 |
| 1996 年～ 2000 年 | A、C、E、F、 | 4 |
| 2001 年～ 2005 年 | H        | 1 |
| 2006 年～ 2010 年 | G        | 1 |
| 2011 年～        | D、J      | 2 |
| 無回答            |          | 0 |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3-2. 開始理由 | <b>【奉仕員講師養成】</b><br>○ 2004（平成 16）年度ブロック分を全日本ろうあ連盟から全国研修センターへ移行<br>○ 2005（平成 17）年度より厚生労働省委託事業 事業名：手話通訳指導者養成研修事業（手話奉仕員養成講師講習会） ※短期<br>○ 2008（平成 20）年度より事業名変更→手話通訳向上等研修事業（手話奉仕員養成担当講師連続講座）<br><b>【通訳者講師養成】</b><br>○ 2002（平成 14）年度 手話通訳者養成担当講師連続講座<br>○ 2008（平成 20）年度より厚生労働省の委託事業 事業名：手話通訳向上等研修事業（手話通訳者養成担当講師連続講座） ※自主事業としても実施。<br><b>【手話通訳士講師養成】</b><br>○ 2005（平成 17）年度 手話通訳士養成を担当する講師養成研修会 2007（平成 19）年度実施 2010（平成 22）年度以降、毎年実施。 |
|           | 1970（昭和 45）年 10 月に開催された県内の聴覚障害者団体と B 知事による「対話集会」を機に同年 10 月に聴覚障害者団体及び関係者により構成される「手話講習会運営委員会」への運営委託により、手話通訳者養成を目的とし「手話講習会」がスタートした。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|           | 厚労省から全国統一の手話奉仕員・通訳者養成カリキュラムが通達され、講師団でカリキュラムの内容や指導方法の確認が必要になったから。講師講習会修了者による伝達講習会を実施した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|           | 手話通訳者養成講座を週 2 回 1 年で修了から、週 1 回 2 年で修了に変えたことで年間の回数が減った。次年度から 2 クラス並行開催となり講師の増員が必要である。回数減で浮いた予算の活用が認められた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|           | 情報提供施設開所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|           | 講師の指導力向上と、どの会場においても一定水準の技術・知識を担保するため                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|           | 講師登録制度を 2007 年 4 月にスタートした。理由は、どこで誰が奉仕員養成講座を担当しているかを明確にするため。2008 年度から、年 2 回の養成講師研修会を開催している                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|           | 過去、10 年前に、全国手話研修センターの職員を招いて、講師研修を実施したことがある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|           | 県聴協方針で、今年度より新テキスト使用で講師派遣を行うこととなり、新テキストに対応できる講師不足を補うため。総合支援法で手話奉仕員養成が市町村必須事業となり、これを支援する必要があったこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## 4. 講師養成カリキュラム及び実施要綱の有無

|        |        | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|--------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話講師   | カリキュラム | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   | ※ | ○ | ○ | 7 |
|        | 実施要綱   | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ※ | ○ | ○ |   | ○ | 7 |
| 手話通訳講師 | カリキュラム | ○ |   | ○ | ○ |   | ○ |   |   |   | ○ | 5 |
|        | 実施要綱   | ○ |   |   | ○ |   | ※ | ○ | ○ |   | ○ | 5 |

※ F の場合は手話奉仕員及び手話通訳者実技指導講師養成講座受講資格における規則

※ H の場合は手話指導者のカリキュラムは毎年が変わる。

## 5. 講師養成カリキュラム及び実施要綱策定の際、参考になるもの

|                       |             |   |
|-----------------------|-------------|---|
| 再構築検討事業               | A、H         | 2 |
| 手話奉仕員及び手話通訳者養成講座指導書   | A、B、D、E、F、H | 6 |
| 全国手話研修センターによる担当講師連続講座 | D、E、H、J     | 4 |
| その他                   |             | 0 |

## 6. 事業費

|    |      | A          | B         | C       | D       | E       |
|----|------|------------|-----------|---------|---------|---------|
| 収入 | 国    | 12,688,000 |           |         |         |         |
|    | 都道府県 | 5,074,180  | 347,000   |         | 199,570 |         |
|    | 助成金  |            |           |         |         |         |
|    | 参加費  | 4,056,000  |           |         |         |         |
|    | その他  |            |           |         | 550,000 |         |
|    | 計    | 16,744,000 | 5,074,180 | 347,000 | 550,000 | 199,570 |
| 支出 | 会場費  | 840,000    | 950,000   |         | 24,000  |         |
|    | 講師謝礼 | 1,500,000  |           | 49,000  | 360,000 | 75,750  |
|    | 交通費  | 3,000,000  | 180,000   | 140,000 | 99,020  |         |
|    | 教材費  | 1,260,000  |           | 29,000  |         |         |
|    | その他  | 10,144,000 |           | 89,000  | 50,000  | 800     |
|    | 計    | 16,744,000 | 950,000   | 347,000 | 550,000 | 199,570 |

|    |      | F          | G       | H       | I         | J         |
|----|------|------------|---------|---------|-----------|-----------|
| 収入 | 国    |            |         |         |           |           |
|    | 都道府県 | 11,110,000 |         | 932,000 | 1,998,760 |           |
|    | 助成金  | 2,341,940  |         |         |           |           |
|    | 参加費  |            |         | 450,000 |           |           |
|    | その他  |            | 112,000 |         |           |           |
|    | 計    | 13,451,940 | 112,000 | 0       | 1,382,000 | 1,998,760 |
| 支出 | 会場費  |            |         | 60,000  |           |           |
|    | 講師謝礼 | 352,000    | 30,000  |         | 200,000   | 1,280,000 |
|    | 交通費  | 36,720     | 30,880  |         | 96,000    | 687,360   |
|    | 教材費  |            |         | 230,000 |           |           |
|    | その他  | 535,105    | 17,222  |         | 794,000   | 26,400    |
|    | 計    | 923,825    | 78,102  | 0       | 1,380,000 | 1,993,760 |

※Fの収入は手話・要約筆記養成事業全般。

※Hの場合は、県が講師養成事業を認めていないので、法人の職員が講師となり、事業費0円で実施している。(職員の人件費は、生活訓練事業によって運用)

### 参加費及び講師謝礼

|      |       | A      | B      | C     | D     | E       |
|------|-------|--------|--------|-------|-------|---------|
| 参加費  | 1人あたり | 24,000 |        |       |       |         |
| 講師謝礼 | 1人あたり | 18,000 | 10,000 | 3,000 | 4,000 | 6,500   |
|      |       | F      | G      | H     | I     | J       |
| 参加費  | 1人あたり |        | 500    |       | 3,000 |         |
| 講師謝礼 | 1人あたり | 5,000  | 30,000 | 0     |       | 8,000/h |

講師謝礼／1時間あたり

|              |   |
|--------------|---|
| 30,000       | 1 |
| 18,000       | 1 |
| 10,000       | 1 |
| 5,000～10,000 | 3 |
| 5,000以下      | 3 |

## 7. 講習会形態

## 手話講師

|       | A      | B   | C  | D     | E   | F   | G  | H  | I     | J      |
|-------|--------|-----|----|-------|-----|-----|----|----|-------|--------|
| 講座回数  | 8      | 40  | 1  | 16    | 2   | 24  | 3  | 10 |       | 8      |
| 定員    | 30     | 30  |    | 80/30 | 125 | 20  |    |    |       | 30     |
| 延べ日数  | 16     | 40  | 2  | 17    | 2   | 8   | 3  |    |       | 16     |
| 延べ時間  |        | 80  | 10 | 36    | 9   | 48  | 15 |    |       |        |
| 時間／コマ | 140    | 120 |    | 120   |     | 120 |    |    |       | 140    |
| コマ数／回 | 4      |     |    |       |     | 3   |    |    |       | 4      |
| 受講料   | 24,000 | 無料  | 無料 | 無料    | 無料  | 無料  | 無料 |    | 3,000 | 12,000 |

※全国は1会場あたりの数値を表す。毎年2会場開催。

## 手話講師養成講座の実施形式

|       | 平均      | 最大      | 最小     |
|-------|---------|---------|--------|
| 講座回数  | 12回     | 40回     | 1回     |
| 定員    | 47人     | 125人    | 20人    |
| 延べ日数  | 13日     | 40日     | 20日    |
| 延べ時間  | 33時間    | 80時間    | 9時間    |
| 時間／コマ | 128分    | 140分    | 120分   |
| コマ数／回 | 1回4コマ   | 4コマ     | 3コマ    |
| 受講料   | 13,000円 | 24,000円 | 3,000円 |

\*無料6団体

|      |         |       |          |       |     |
|------|---------|-------|----------|-------|-----|
| 開催期間 | 4月～翌年3月 | 4月～9月 | 10月～翌年3月 | その他   | 無回答 |
|      | A、B     | D、J   | H、F      | C、E、G | I   |

| 講習時間    | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全日      |   |   | ○ |   | ○ |   | ○ | ○ |   |   | 4 |
| 午前      |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |
| 午後      |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   | 1 |
| 夜間      |   | ○ |   | ○ |   |   |   |   |   |   | 2 |
| 午後～翌日午後 | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | 2 |

|      |                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 受講条件 | 県内の区市町村の手話講習会・地域手話サークルの講師及びその予定者で、既に手話を習得している健聴者及び聴覚障害者                                               |
|      | 都道府県または市町村で実施する手話奉仕員養成の指導に携わっている人、またはこれから指導に携わる人                                                      |
|      | 団体会員で、講師経験者・候補者（支部の承認が必要）<br>団体登録通訳者で通訳士または統一合格者、または助手経験3年以上のもの                                       |
|      | 当センター講師登録者<br>今後講師登録を目指す者で、地域ろう協が推薦した者                                                                |
|      | ろう者：過去5年以内に当協会若しくは支部、市聴障協における役員活動が3年以上あり、ろう運動の歴史・福祉制度等の知識を有する者。又は当センター所長の推薦がある者。<br>健聴者：F県登録手話通訳者である者 |
|      | 登録者                                                                                                   |
|      | 開催案内のとおり                                                                                              |
|      | これから手話通訳指導を行う人                                                                                        |

|      |                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 修了条件 | 既定の出席日数（40 回の 3/4 以上）指導実習を履修した者、自主研修（1 回）レポート提出があること、上記基準に満たない場合は修了不可 |
|      | 全講座出席 同回答（1）                                                          |
|      | 各過程毎に全て出席した者に受講証明書を授与する                                               |
|      | 特になし 同回答（2）                                                           |
|      | 80 %以上の出席、且つ欠席の講座は補講を受けレポートを提出する                                      |

手話通訳講師養成講座の実施形式

|       | 平均       | 最大          | 最小    |
|-------|----------|-------------|-------|
| 講座回数  | 7 回      | 20 回        | 1 回   |
| 定員    | 24 人     | 30 人        | 14 人  |
| 延べ日数  | 9 日      | 21 日        | 1 日   |
| 延べ時間  | 31 時間    | 75.5 時間     | 5 時間  |
| 時間／コマ | 140 分    | 150 分       | 120 分 |
| コマ数／回 | 3 コマ     | 4 コマ        | 1 コマ  |
| 受講料   | 24,000 円 | * 1 団体のみの回答 |       |

\* 4 団体は無料と回答

|      |            |            |       |
|------|------------|------------|-------|
| 開催期間 | 4 月～翌年 3 月 | 9 月～翌年 3 月 | その他   |
|      | A          | D、J        | C、E、G |

| 講習時間    | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全日      |   |   | ○ |   | ○ |   | ○ |   |   |   | 3 |
| 午前      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 0 |
| 午後      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 0 |
| 夜間      |   |   |   | ○ |   |   |   |   |   |   | 1 |
| 午後～翌日午後 | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | 2 |

|      |                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------|
| 受講条件 | 都道府県または市町村で実施する手話通訳者養成の指導に携わっている人、またはこれから指導に携わる人                    |
|      | 通訳者養成講座、中級手話講習会の講師経験者、候補者（支部の承認が必要）、手話普及の講師、助手、市聴協登録通訳者で通訳士または統一合格者 |
|      | 当センター手話通訳士・手話通訳者・手話奉仕員基礎課程の講師担当者                                    |
|      | 登録者                                                                 |
|      | 手話指導者、手話指導者養成修了者これから手話通訳指導を行う人                                      |
| 修了条件 | 全講座出席 同回答（1）                                                        |
|      | 各課程毎に全て出席した者に受講証明書を授与する                                             |
|      | 特になし 同回答（1）                                                         |



## 8. 講師養成講座のプログラム、テキストについて

## 講義及び実技科目と時間

| 手話講師        |              | 科 目                           | 時間／コマ数        |
|-------------|--------------|-------------------------------|---------------|
| A<br>63.46h | 講義<br>14.14h | 改訂「手話奉仕員」テキストの概要とポイント・模擬担当の役割 | 2h/1 コマ       |
|             |              | 指導計画（指導案）の作成ポイント説明            | 1.5h/1 コマ     |
|             |              | 入門編 伝えあってみましょう・自己紹介をしましょう     | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 入門編 話してみよう I                  | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 入門編 話してみよう II                 | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 基礎編 話しあってみよう I                | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 基礎編 話しあってみよう II               | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 基礎編 話しあってみよう III              | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 総合演習                          | 1.33h/1 コマ    |
|             |              | 「聴覚障害者の生活」                    | 1.33h/1 コマ    |
|             | 実技<br>49.32h | 演習 指導計画（指導案）の作成               | 1h/1 コマ       |
|             |              | モデル講座・討議                      | 4.66/2 コマ     |
|             |              | 模擬講座・討議                       | 39.66/17 コマ   |
|             |              | 入門編 グループワーク                   | 2h/1 コマ       |
|             |              | 基礎編 グループワーク                   | 2h/1 コマ       |
| B<br>60h    | 講義<br>14h    | 手話奉仕員養成カリキュラム                 | 2h/1 コマ       |
|             |              | B県における手話講習会の現状                | 2h/1 コマ       |
|             |              | ろう運動の歴史をどう指導するか               | 2h/1 コマ       |
|             |              | 中途失聴者・難聴者（聞こえの障害とコミュニケーション）   | 2h/1 コマ       |
|             |              | 地域における手話講習会運営                 | 2h/1 コマ       |
|             |              | 聴覚障害者の心理                      | 2h/1 コマ       |
|             |              | 直接指導法                         | 2h/1 コマ       |
|             | 実技<br>46h    | 対象者に合わせた指導を考える～               | 2h/1 コマ       |
|             |              | 教材・テキストの使い方                   | 2h/1 コマ       |
|             |              | ショートスピーチ（理論学習の在り方について）        | 2h/1 コマ       |
|             |              | 対象者に合わせた指導を考える～7ポイントを中心に      | 4h/2 コマ       |
|             |              | 聴覚障害者講師、健聴者講師の役割              | 2h/1 コマ       |
|             |              | 対象者に合わせた指導を考える～教材を考える         | 2h/1 コマ       |
|             |              | 対象者に合わせた指導を考える～理論学習のあり方       | 4h/2 コマ       |
|             |              | 指導計画、カリキュラムの作り方               | 4h/2 コマ       |
|             |              | 対象者に合わせた指導を考える～実習に向けて         | 4h/2 コマ       |
|             |              | 模擬実習                          | 10h/5 コマ      |
|             |              | 指導実習                          | 10h/5 コマ      |
|             |              |                               |               |
| C<br>8.33h  | 講義<br>8.33h  | 意思疎通支援事業の概要                   | 1.83h/1 コマ    |
|             |              | 奉仕員養成テキスト・指導書の概要、活用の方法        | 4.5h/2 コマ     |
|             |              | 講座の構成と特徴                      | 2h/1 コマ       |
| D<br>36h    | 講義<br>7h     | 新カリキュラムのねらいと教材の使い方（入門）        | 2h/1 コマ       |
|             |              | 新カリキュラムのねらいと教材の使い方（基礎）        | 1h/1 コマ       |
|             |              | ことばの仕組み（手話）                   | 4h/1 コマ       |
|             | 実技<br>29h    | 入門 モデル講習と質疑応答                 | 4h/2 コマ       |
|             |              | ◇ 模擬講習と意見交換                   | 6h/3 コマ       |
|             |              | 基礎 モデル講習と質疑応答                 | 5h/0.5*5 コマ   |
|             |              | ◇ 模擬講習と意見交換                   | 14h/0.5*14 コマ |

|             |              |                               |             |
|-------------|--------------|-------------------------------|-------------|
| E<br>15h    | 講義 1h        | 手話奉仕員養成担当講師のあり方               | 1h/1 コマ     |
|             | 実技 14h       | 実技指導のポイント                     | 14h/3 コマ    |
| F<br>48h    | 講義<br>6h     | 養成講座とカリキュラムについて               | 1h/1 コマ     |
|             |              | 講師の心構え                        | 1h/1 コマ     |
|             |              | F県聴覚障害者協会事業と運動                | 2h/1 コマ     |
|             |              | 奉仕員養成講座について                   | 2h/1 コマ     |
|             | 実技<br>42h    | 実習 指導案について                    | 1h/1 コマ     |
|             |              | モデル講座 入門編                     | 1h/1 コマ     |
|             |              | モデル講座 基礎編                     | 2h/1 コマ     |
|             |              | 模擬講座・討議 (1.5h+0.5h)           | 38h/19 コマ   |
| G<br>4.16h  | 講義<br>1.66h  | 講師は知っておこう養成システム               | 0.83h       |
|             |              | 新カリキュラム意見交換                   | 0.83h       |
|             | 実技<br>2.5h   | 模擬授業 新奉仕員テキスト 17 講座           | 1.5h        |
|             |              | グループ討議                        | 1h          |
|             |              | 全体報告会                         |             |
| H<br>30h    | 講義<br>30h    | 手話講師に必要な知識                    | 3h/1 コマ     |
|             |              | テキストのポイント                     | 3h/1 コマ     |
|             |              | 改訂テキストのポイント・ねらい               | 3h/1 コマ     |
|             |              | 基本文法①②                        | 6h/2 コマ     |
|             |              | 指導方法①②／改訂：指導方法①②③             | 15h/5 コマ    |
| I<br>31.45h | 講義<br>13.45h | 講師講習会のねらいとテキストの概要・指導ポイント      | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 伝えあってみましょう                | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 自己紹介をしましょう                | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 話してみましよう I                | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 話してみましよう II               | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 基礎編 話しあってみましよう I              | 1.5h/1 コマ   |
|             |              | 基礎編 話しあってみましよう II             | 1.5h/1 コマ   |
|             |              | 基礎編 話しあってみましよう III            | 1.5h/1 コマ   |
|             |              | 総合演習                          | 1.5h/1 コマ   |
|             |              | まとめ                           | 0.8h/1 コマ   |
|             | 実技 18h       | 模擬講座・討議 (1.5h+0.75h)          | 18h/8 コマ    |
| J<br>62.3h  | 講義<br>13.47h | 改訂「手話奉仕員」テキストの概要とポイント・模擬担当の役割 | 2h/1 コマ     |
|             |              | 指導計画(指導案)の作成ポイント説明            | 0.83h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 伝えあってみましよう・自己紹介をしましょう     | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 話してみましよう I                | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 入門編 話してみましよう II               | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 基礎編 話しあってみましよう I              | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 基礎編 話しあってみましよう II             | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 基礎編 話しあってみましよう III            | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 総合演習                          | 1.33h/1 コマ  |
|             |              | 「聴覚障害者の生活」                    | 1.33h/1 コマ  |
|             | 実技<br>49.15h | 演習 指導計画(指導案)の作成               | 0.83h/1 コマ  |
|             |              | モデル講習・討議 (1.5h+0.83h)         | 4.66/2 コマ   |
|             |              | 模擬講習・討議 (1.5h+0.83h)          | 39.66/17 コマ |
|             |              | 入門編 グループワーク                   | 2h/1 コマ     |
|             |              | 基礎編 グループワーク                   | 2h/1 コマ     |

手話講師養成カリキュラム時間数

|      | 平均   | 最大   | 最小 |
|------|------|------|----|
| 講義   | 10.9 | 14.1 | 1  |
| 実技   | 25   | 49.3 | 0  |
| 講座合計 | 35.9 | 63.4 | 16 |

| 手話通訳講師               |              | 科 目                           | 時間／コマ数       |
|----------------------|--------------|-------------------------------|--------------|
| A<br>手話通訳Ⅰ<br>75.5h  | 講義<br>18h    | 改訂「手話通訳養成Ⅰ」テキストの概要とポイント       | 1h/1 コマ      |
|                      |              | 基本文法の復習／通訳学習に入る前に、身近な場面通訳     | 3h/1 コマ      |
|                      |              | 指導計画（指導案）の作成ポイント              | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 要約／指導計画の作成                    | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 読み取り通訳                        | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 手話を見て要約                       | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 聞き取り通訳                        | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 場面通訳                          | 2h/1 コマ      |
|                      |              | まとめ                           | 2h/1 コマ      |
|                      | 実技<br>57.5h  | モデル講座・討議（1.5h+1h）             | 12.5h/5 コマ   |
|                      |              | 模擬講座・討議（1.5h+1h）              | 45h/18 コマ    |
| A<br>手話通訳Ⅱ<br>74.32h | 講義<br>14.32h | 改訂「手話通訳養成Ⅰ」テキストの概要とポイント       | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 話のポイントをつかもうⅠ／Ⅱ                | 1.5h/1 コマ    |
|                      |              | 指導計画（指導案）の作成ポイントと指導案の作成       | 2.5h/1 コマ    |
|                      |              | やってみよう・手話通訳Ⅰ／Ⅱ                | 1.66h/1 コマ   |
|                      | 実技<br>60h    | やってみよう・手話通訳Ⅲ                  | 1.66h/1 コマ   |
|                      |              | お互いを理解するためにⅠ・Ⅱ／ロールプレイを理解するために | 2h/1 コマ      |
|                      |              | ことばのしくみ（手話）                   | 1h/1 コマ      |
|                      |              | まとめ                           | 2h/1 コマ      |
|                      |              | モデル講座・討議（1.5h+1h）             | 7.5h/3 コマ    |
|                      |              | 模擬講座・討議（1.5h+1h）              | 52.5h/21 コマ  |
| C<br>9.82h           | 講義<br>9.82h  | 意思疎通支援事業の概要                   | 0.66h/1 コマ   |
|                      |              | 手話通訳養成Ⅰテキスト・指導書の概要と使用の仕方      | 1.16h/1 コマ   |
|                      |              | 講座の構成と特徴                      | 6h/2 コマ      |
|                      |              | 手話通訳士養成担当講師研修会に参加して           | 2h/1 コマ      |
| D<br>42h             | 講義<br>4.5h   | 養成カリキュラムの構成とねらい               | 0.5h/0.25 コマ |
|                      |              | 手話通訳の理念と仕事                    | 4h/1 コマ      |
|                      | 実技<br>37.5h  | 通訳Ⅰ モデル講習と質疑応答                | 9.5h/4.75 コマ |
|                      |              | 〃 模擬講習と意見交換                   | 8h/2 コマ      |
|                      |              | 通訳Ⅱ モデル講習と質疑応答                | 10h/5 コマ     |
|                      |              | 〃 模擬講習と意見交換                   | 6h/3 コマ      |
|                      |              | 通訳Ⅲ モデル講習と質疑応答                | 2h/1 コマ      |
|                      |              | 〃 模擬講習と意見交換                   | 2h/1 コマ      |
| E<br>10h             | 講義<br>10h    | 実技指導のポイント 手話通訳Ⅰ               | 5h/2 コマ      |
|                      |              | 実技指導のポイント 手話通訳Ⅱ               | 5h/2 コマ      |
| G<br>4.16h           | 講義<br>1.66h  | 講師は知っておこう養成システム               | 0.83h        |
|                      |              | 新カリキュラム意見交換                   | 0.83h        |

|            |             |                           |            |
|------------|-------------|---------------------------|------------|
|            | 実技<br>2.5h  | 模擬授業 新通訳者テキスト 29 講座       | 1.5h       |
|            |             | グループ討議                    | 1h         |
|            |             | 全体報告会                     |            |
| J<br>75.5h | 講義<br>18h   | 改訂「手話通訳養成 I」テキストの概要とポイント  | 1h/1 コマ    |
|            |             | 基本文法の復習／通訳学習に入る前に、身近な場面通訳 | 3h/1 コマ    |
|            |             | 指導計画（指導案）の作成ポイント          | 2h/1 コマ    |
|            |             | 要約                        | 2h/1 コマ    |
|            |             | 読み取り通訳                    | 2h/1 コマ    |
|            |             | 手話を見て要約                   | 2h/1 コマ    |
|            |             | 聞き取り通訳                    | 2h/1 コマ    |
|            |             | 場面通訳                      | 2h/1 コマ    |
|            |             | まとめ                       | 2h/1 コマ    |
|            | 実技<br>57.5h | モデル講座・討議（1.5h+1h）         | 12.5h/5 コマ |
|            |             | 模擬講座・討議（1.5h+1h）          | 45h/18 コマ  |

手話通訳講師養成カリキュラム時間数

|      | 平均   | 最大    | 最小  |
|------|------|-------|-----|
| 講義   | 10.9 | 14.32 | 4.5 |
| 実技   | 35.8 | 57.5  | 0   |
| 講座合計 | 41.6 | 75.5  | 10  |

## 使用テキスト

| 手話講師        | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話奉仕員養成・指導書 | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ | 8 |
| 独自のテキスト     |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |
| 無回答         |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   | 1 |

| 手話通訳講師      | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話通訳 I・指導書  | ○ |   | ○ | ○ | ○ |   | ○ | ○ |   | ○ | 7 |
| 手話通訳 II・指導書 | ○ |   | ○ | ○ | ○ |   |   |   |   |   | 4 |
| 無回答         |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 0 |

## 9. 過去 5 年間の実績（修了者のみ）

| 手話講師                           |         | A   | B  | C  | D    | E   | F  | G   | H | I     | J | 計   |
|--------------------------------|---------|-----|----|----|------|-----|----|-----|---|-------|---|-----|
|                                | 2010 年度 | 84  | 53 | 18 |      | 119 | 9  | 160 |   | 60    |   | 503 |
|                                | 2011 年度 | 216 | 43 | 28 |      | 115 | 4  | 138 |   | 25    |   | 569 |
|                                | 2012 年度 | 98  | 38 | 42 |      | 76  | 5  | 152 | 3 | 34    |   | 448 |
|                                | 2013 年度 | 115 | 41 | 34 |      | 125 | 14 | 241 | 1 |       |   | 571 |
|                                | 2014 年度 |     |    |    | 23/4 | 73  |    |     | 5 | 48/94 |   | 78  |
| ※ D・I の数値は「入門／基礎」 ※ E は延べ人数とする |         |     |    |    |      |     |    |     |   |       |   |     |

| 手話通訳<br>講師 |         | A  | B | C  | D  | E  | F | G | H | I | J | 計   |
|------------|---------|----|---|----|----|----|---|---|---|---|---|-----|
|            | 2010 年度 | 77 |   | 24 |    | 7  |   |   |   |   |   | 108 |
|            | 2011 年度 | 87 |   | 37 |    |    |   |   |   |   |   | 124 |
|            | 2012 年度 | 33 |   | 21 |    | 15 |   |   |   |   |   | 69  |
|            | 2013 年度 | 54 |   | 46 |    | 14 |   |   |   |   |   | 114 |
|            | 2014 年度 |    |   | 19 | 28 |    |   |   |   |   |   | 47  |

## 10. 担当講師の内訳及び人数

|             | A  | B | C | D | E | F | G  | H   | I | J | 計  |
|-------------|----|---|---|---|---|---|----|-----|---|---|----|
| 全国手話研修センター  | 6  |   |   | 1 | 1 |   |    |     |   |   | 8  |
| 連続講座修了者（県外） |    |   |   |   |   |   |    |     |   |   | 0  |
| 連続講座修了者（県内） |    |   | 5 | 5 | 4 |   | 11 | ※ 1 |   |   | 25 |
| 外部招聘        | 1  | 2 | 6 | 1 |   |   | 1  |     |   |   | 11 |
| その他         | 15 |   |   | 3 |   | 4 |    | ※ 1 |   |   | 22 |

※法人の職員が担当講師

## 11. モニター受講者

手話講師 回答 6

|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 資格及び条件 | A : テキストによる未受講を募集／受講中及び修了者等の募集     |
|        | B : 手話を学習していない初心者で健聴者              |
|        | F : 手話奉仕員養成講座基礎課程修了者あるいは同講座受講中の者   |
|        | H : 基礎課程受講中の受講生 ※ 10 人程度を募集        |
|        | G : 地域の奉仕員養成講座受講者                  |
| 募集方法   | A : 開催会場へ募集周知の依頼                   |
|        | B : 当センターホームページに掲載。区市社会福祉協議会に配布    |
|        | F : 開催中の養成講座で呼びかけホームページ掲載当協会機関誌に掲載 |
|        | H : 各市の講座開講中に募集している                |
|        | G : 会場近くの地域で奉仕員養成講座を受講している方々を集める   |
|        | I : 地元機関紙                          |

手話通訳講師 回答 3

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 資格及び条件 | A : テキストによる未受講を募集／受講中及び修了者等の募集   |
|        | D : 団体登録手話通訳者で統一試験未合格の者          |
|        | G : 地域の奉仕員養成講座受講者                |
| 募集方法   | A : 開催会場へ募集周知の依頼                 |
|        | D : 個別に FAX で依頼                  |
|        | G : 会場近くの地域で奉仕員養成講座を受講している方々を集める |

## 12. 現在抱えている課題

|        |      |                                                                        |
|--------|------|------------------------------------------------------------------------|
| 手話講師   | 回答 9 | 指導方法等の研修を受けずに指導している。                                                   |
|        |      | 聞こえない＝指導できると考える聴覚障害者がいて、講師役割の知識が不足。                                    |
|        |      | 退職後、時間があるので指導する。小遣い稼ぎと考えている人がある。                                       |
|        |      | 講師の高齢化 同回答（1）                                                          |
|        |      | 講師・人材不足（聴覚障害講師の資格問題も絡む） 同回答（4）                                         |
|        |      | 講師の考えを受講者に押し付ける。                                                       |
|        |      | 聞こえない講師、聞こえる講師が平等との認識が薄い。                                              |
|        |      | 財政不足のため、全講座の実施が困難。また今年度限りの開催である。 同回答（2）                                |
|        |      | ろう講師と健聴講師の役割について地域の課題に提示できるものがない                                       |
|        |      | 参加受講者のバラツキ。受講対象が広く、指導経験のない人から経験豊富な人まで一堂に受講しているため、研修内容のポイントが絞れない 同回答（1） |
|        |      | 地域の参加支援体制が脆弱                                                           |
|        |      | 地理的条件で集まりが悪い                                                           |
|        |      | 手話指導に対する関心が薄い                                                          |
|        |      | 研修会の日程の調整が大変。 同回答（1）                                                   |
|        |      | 全国手話研修センターの連続講座に受講したくても旅費がかかる。派遣できたとしても2人が限度。 同回答（1）                   |
|        |      | 修了条件が原則全日程参加であるため、受講者は日程調整に苦労している                                      |
|        |      | 講師は地域で固まりすぎている。地域からの申込みがバラツキがある。 同回答（1）                                |
|        |      | 受講者の資質の差                                                               |
| 手話通訳講師 | 回答 8 | 財政不足のため、全講座の実施が困難。また今年度限りの開催である。 同回答（1）                                |
|        |      | 聴覚障害講師と健聴講師の役割について地域の課題に提示できるものがない                                     |
|        |      | 参加受講者のバラツキ。受講対象が広く、指導経験のない人から経験豊富な人まで一堂に受講しているため、研修内容のポイントが絞れない。       |
|        |      | 地域の参加支援体制が脆弱                                                           |
|        |      | 地理的条件で集まりが悪い                                                           |
|        |      | 手話指導に対する関心が薄い                                                          |
|        |      | 講師の高齢化 同回答（2）                                                          |
|        |      | 聴覚障害講師の不足、特に手話通訳Ⅱが深刻 同回答（1）                                            |
|        |      | 講師は地域で固まりすぎている。地域からの申込みがバラツキがある。同回答（1）                                 |
|        |      | 全国手話研修センターの連続講座への受講が地理的にも物理的にも困難。                                      |
|        |      | モニター生を集めるのが大変。                                                         |
|        |      | 文法など理論的な学習がないため、基礎部分を理解していない方がいる。その方へのフォローが大変。                         |

## 13. 要望・意見

|        |      |                                                                                      |
|--------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 手話講師   | 回答 8 | 模擬講座の実施 同回答（2）                                                                       |
|        |      | 都道府県の代表者（及び講師職員の配置）の講師の育成（モラルなど含む）                                                   |
|        |      | 全講座の実施（長期的なカリキュラム）                                                                   |
|        |      | 意思疎通支援に係る教材作成                                                                        |
|        |      | 実務体制（講師と実務の兼務等）                                                                      |
|        |      | 指導書の充実化 等                                                                            |
|        |      | 指導ができる講師養成カリキュラムが必要。（厚生労働省のテキスト）                                                     |
|        |      | カリキュラム（講義理解・指導ノウハウ・指導演習・受講生の気持ちを推測する力・手話の分析力・理論を説明する力を養うなど）                          |
|        |      | 聴覚障害者団体及び関係団体とで聴覚障害者・健聴者ともに学習の場（地区ブロック）が必要。（講師養成）                                    |
|        |      | 指導方法・健聴講師との連携・助手の役割等々もカリキュラムに加えて欲しい。                                                 |
|        |      | 区市で講習会の回数・テキストがまちまちの状況、情報交換及び共有化が大切                                                  |
|        |      | 日本手話教授法（ナチュラルアプローチ教授法） →聴覚障害講師が自信を持って教えられるようにしたい。                                    |
|        |      | 指導案作成の演習                                                                             |
|        |      | 講師のレベルに合わせた研修があるとよい。（初心者向け、経験３年以上向け等）                                                |
|        |      | 地域で研修会を開催するための講師斡旋をする機関があるとよい。                                                       |
|        |      | 東日本・西日本各地へ派遣できる講師を紹介してほしい。                                                           |
|        |      | 実技に加えて手話奉仕員養成及び手話通訳者養成の講義に関する知識も講座に盛り込むことで、理論面の強化を図ることが望ましい。                         |
|        |      | 手話通訳者養成と同様に、講師養成においても「心構え、モラル、理念」等を講義科目に盛り込み、講師活動においての講師のモチベーションを高めたい。               |
|        |      | 指導案の作り方、書き方                                                                          |
| 手話通訳講師 | 回答 6 | 聴覚障害講師、健聴講師の役割分担の在り方                                                                 |
|        |      | 市町から参加しやすい日数・時間カリキュラム内講師条件に、「講師養成講座修了者」を明記。（現状では聴覚障害者であればだれでも可能と受け取れる内容）             |
|        |      | 県内で受講対象となる人がまだ少ないため、ブロックごとに講師養成事業を開催してはどうか。                                          |
|        |      | 指導案の作り方、書き方                                                                          |
|        |      | 聴覚障害講師、健聴講師の役割分担の在り方                                                                 |
|        |      | 実習（←模擬講座）                                                                            |
|        |      | 全国手話研修センターによる講師リーダー研修だけでは、十分ではない。（時間巢が少ない）                                           |
|        |      | 改訂テキストの構成やねらいについて、解釈しにくい面がいくつかあり、困惑している。<br>※現在の研修センターの研修では不十分。日本語教育者の養成なみの時間、内容が必要。 |
|        |      | 講師養成のための学校があればよい。                                                                    |
|        |      | 幅広い方々が講師を担えるように、講座運営以外に、文法や要約についての基礎部分を取り入れてほしい。                                     |



## 14. 講師登録

### 登録制の有無

|        | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話講師   | ○ |   |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 6 |
| 手話通訳講師 |   |   | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 6 |

### 認定方法・登録要件

|             |                                            |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-------------|--------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 手話講師 回答 4   | E：地域ろうあ協会会長推薦→指導者研修会受講→手話関係事業担当委員会で推薦→講師登録 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | F：選考試験                                     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | H：手話指導者養成全回修了者登録後、講師活動できる者                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | I：講習会修了                                    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 手話通訳講師 回答 4 | E：地域ろうあ協会会長推薦→指導者研修会受講→手話関係事業担当委員会で推薦→講師登録 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | F：選考試験                                     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | H：手話通訳者養成講師養成全回修了者登録後、講師活動できる者             |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | I：講習会修了                                    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

### 登録更新の有無

|        | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話講師   |   |   |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   | 4 |
| 手話通訳講師 |   |   | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   | 5 |

### 更新方法・要件

|             |                                                                              |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 手話講師 回答 4   | E：講師登録期間中、指導者研修会受講者は、講師登録申請書（更新）を提出することにより更新する。指導者研修会未受講者は、担当委員会で更新について協議する。 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | F：面接                                                                         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | G：年度毎に更新する                                                                   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | H：2年更新                                                                       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 手話通訳講師 回答 4 | E：講師登録期間中、指導者研修会受講者は、講師登録申請書（更新）を提出することにより更新する。指導者研修会未受講者は、担当委員会で更新について協議する  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | F：面接                                                                         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | G：年度毎に更新する                                                                   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|             | H：2年更新                                                                       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

## 15. 講師団

| 講師団の有無 | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話講師   |   |   |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 5 |
| 手話通訳講師 |   |   | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 6 |

| 講師団会議の回数 | A | B | C | D | E | F | G   | H   | I | J |  |
|----------|---|---|---|---|---|---|-----|-----|---|---|--|
| 手話講師     |   |   |   |   | 6 | 3 | 1～3 |     |   |   |  |
| 手話通訳講師   |   |   | 1 |   | 8 |   |     | 4～5 |   |   |  |



|            |                                                                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------|
| 手話講師 回答5   | E：手話奉仕員養成各課程ごとに、開始前の打合せ、中間打合せ、反省会を実施                               |
|            | F：・成講座の実施状況について報告<br>・手話検定、統一試験、リーダー研修などの情報共有<br>・講師活動上の課題について話し合い |
|            | G：日程の確認担当の分担打合せ                                                    |
|            | H：各市の手話奉仕員養成は、法人に委託。講師会議は数回開催                                      |
|            | I：市町によるが、月に1回。指導案の共有、次回講師への引き継ぎ、問題提起、受講生の体調などの情報交換                 |
| 手話通訳講師 回答6 | C：今年度の反省／来年度の計画／指導方法についての意見交換                                      |
|            | E：手話通訳者養成各課程及び士養成で、開始前の打合せ、中間打合せ、反省会を実施。                           |
|            | F：※手話指導者と手話通訳指導者は一体化している                                           |
|            | G：日程の確認担当の分担打合せ                                                    |
|            | H：講座の運営指導方法・教材観察実習、通訳実習など協議・確認                                     |
|            | I：市町によるが、月に1回。指導案の共有、次回講師への引き継ぎ、問題提起、受講生の体調などの情報交換                 |

## 16. 修了後の講師研修

| 講師研修の有無 | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手話講師    |   |   |   | ○ |   | ○ |   | ○ | ○ |   | 4 |
| 手話通訳講師  |   |   | ○ | ○ |   | ○ |   | ○ | ○ |   | 5 |

| 講師研修の回数 | A | B | C | D | E | F  | G | H | I | J |  |
|---------|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|--|
| 手話講師    |   |   |   | 3 |   | 12 |   |   | 1 |   |  |
| 手話通訳講師  |   |   | 1 | 2 |   | 随時 |   |   | 1 |   |  |

|            |                                                               |
|------------|---------------------------------------------------------------|
| 研修内容 回答4   | D：中級手話講習会2回／講義「奉仕員養成課程のねらい」／実技「指導技術（入門2回、基礎1回） ※各講習会の中で実施している |
|            | F：手話奉仕員養成講座模擬講座／講師活動に関するアンケート回答に基づいて研修                        |
|            | H：講師現任研修 3～4回／年専門的知識による講義、教材の使い方、教授法、模擬指導、情報交換など              |
|            | I：模擬講座                                                        |
| 手話通訳講師 回答2 | D：講義「講師の心構え」実技「講師技術」                                          |
|            | I：統一試験合格率意見交換模擬講座                                             |

17. 講師派遣コーディネート

|                | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | 計 |
|----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講師派遣コーディネートの有無 | ○ | ○ |   |   |   |   |   | ○ |   |   | 3 |

|                |                                                                                                                                                |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題・要望      回答5 | A：改訂テキストに伴い、講師派遣不足している                                                                                                                         |
|                | B：人材不足・力量が様々・専門学校・企業等からの依頼の場合、手話講座の回数が様々。回数に応じたテキスト作成が必要。<br>講師対象の研修が開催できていない。                                                                 |
|                | C：専任講師が望ましい。                                                                                                                                   |
|                | H：単発講座、連続講座とも、依頼数が増えています。依頼を受け法人登録手話講師を派遣します。コーディネートは、法人職員3人で相談しながら、行っている。<br>派遣に際して、講師に対して丁寧な対応が求められる。法人担当職員が、講師に対してヒアリングを行ったり、講師からの相談にのっている。 |
|                | I：派遣していない<br>＊市町村の奉仕員成事業では、各地域で講師を専任している。県聴協としては、講師基準を設定しているが、地域の講師専任のコーディネートはしていない。<br>＊大学、専門学校から依頼があれば、県聴協としてコーディネートするが、個人の講師契約となる。(幹旋・紹介のみ) |

## ②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査

## (1) 高等教育機関調査結果

## 1. 調査対象・回収数・率

専門学校／短大／大学…送付数・調査対象数

| 全数 |     | 対象 | 回収 | 回収率    |
|----|-----|----|----|--------|
|    | 合 計 | 46 | 34 | 73.90% |

| 内訳 | 専門学校 | 15 | 9  | 60.00% |
|----|------|----|----|--------|
|    | 短大   | 15 | 10 | 66.70% |
|    | 大学   | 16 | 16 | 100.0% |

\* 大学は大学院 1 含む

全日本ろうあ連盟加盟団体（47 都道府県）への調査を 7 月に行ったところ、各団体の会員を派遣し手話教育を行っている教育機関は以下のとおりだった。

|      |      |                                  |
|------|------|----------------------------------|
| 専門学校 | 97 校 | * 団体の把握していない学校が<br>他に存在すると考えられる。 |
| 短大   | 21 校 |                                  |
| 大学   | 44 校 |                                  |
| 警察学校 | 4 校  |                                  |
| 消防学校 | 2 校  |                                  |

\* 参考：全国の高等教育機関の数

|      |        |                                                        |
|------|--------|--------------------------------------------------------|
| 専門学校 | 2811 校 | 以上平成 25 年学校基本調査より<br>各都道府県 1 校・A・B に分校あり。<br>各都道府県 1 校 |
| 短大   | 359 校  |                                                        |
| 大学   | 782 校  |                                                        |
| 警察学校 | 53 校   |                                                        |
| 消防学校 | 47 校   |                                                        |

## 2. 手話・手話通訳者養成学科名称

1) 専門学校 学科に含まれる名称で分類（1 専門学校で複数学科で開講）

|            |   |                    |
|------------|---|--------------------|
| 手話通訳       | 3 |                    |
| 介護         | 2 |                    |
| 社会福祉       | 1 |                    |
| 医療         | 1 |                    |
| その他・サービス関係 | 4 | エアライン、観光総合、ホテル、公務員 |

\*参考：全日本ろうあ連盟加盟団体調査（7月）の97の専門学校の名称（学校の名称で判別できないものは学科名称含む：重複あり）は、以下のようなものであった。

|            |    |
|------------|----|
| 医療を名称に含む   | 59 |
| 福祉を名称に含む   | 32 |
| 看護を名称に含む   | 11 |
| 保育を名称に含む   | 8  |
| ビジネスを名称に含む | 7  |
| 観光を名称に含む   | 7  |
| 介護を名称に含む   | 6  |

その他、ヘアメイク、ホテル、ブライダル、アナウンス、デザイン、パティシエ等。

## 2) 短大 学科に含まれる名称で分類（1短大で複数学科開講あり）

|        |   |
|--------|---|
| 医療関係   | 4 |
| 社会福祉関係 | 3 |
| 介護関係   | 2 |
| 生活関係   | 2 |
| 教育関係   | 1 |

## 3) 大学・大学院 学科に含まれる名称で分類（一大学で複数学科で開講）

|           |    |
|-----------|----|
| 医学・医療     | 12 |
| 社会福祉      | 9  |
| 産業        | 3  |
| サービス      | 3  |
| 生活        | 2  |
| 健康        | 2  |
| 総合教育・普通教育 | 2  |

その他 介護、教育、心理、情報

## 3. 手話教育・手話通訳者教育の実施

|         | 専門学校 | 7 | 短大 | 10 | 大学 | 15 |
|---------|------|---|----|----|----|----|
| 手話教育の実施 |      | 4 |    | 8  |    | 11 |
| 未実施     |      | 1 |    | 1  |    | 1  |
| 無回答     |      | 2 |    | 1  |    | 3  |

|            |   |   |     |
|------------|---|---|-----|
| 手話通訳者教育の実施 | 3 | 0 | * 2 |
| 未実施        | 6 | 8 | 11  |
| 無回答        | 0 | 2 | 3   |

（\*内1は大学院）

## 4. 手話教育・手話通訳者教育開始時期

|               | 専門学校 | 7 | 短大 | 10 | 大学 | 15 |
|---------------|------|---|----|----|----|----|
| 手話教育・1990 年以前 |      | 1 |    | 1  |    | 0  |
| 1990 年～1995 年 |      | 1 |    | 2  |    | 0  |
| 1995 年～2000 年 |      | 1 |    | 2  |    | 3  |
| 2000 年～2005 年 |      | 1 |    | 3  |    | 3  |
| 2005 年～2010 年 |      | 2 |    | 1  |    | 5  |
| 2010 年～       |      | 0 |    | 1  |    | 2  |
| 無回答           |      | 1 |    | 0  |    | 3  |

|                  | 専門学校 | 7 | 短大 | 10 | 大学  | 15       |
|------------------|------|---|----|----|-----|----------|
| 手話通訳者教育・1990 年以前 |      |   |    |    |     |          |
| 1990 年～1995 年    |      | 1 |    |    |     |          |
| 1995 年～2000 年    |      |   |    |    |     |          |
| 2000 年～2005 年    |      | 2 |    |    |     | 1        |
| 2005 年～2010 年    |      |   |    |    |     |          |
| 2010 年～          |      |   |    |    | * 1 | ( * 大学院) |
| 無回答              |      | 4 |    | 10 |     | 2        |

## 5. 手話教育・手話通訳者教育導入のきっかけ・教育目標

## 1) 手話教育導入のきっかけ \* 文末の数字は同内容の記述数

|      |                                           |
|------|-------------------------------------------|
| 専門学校 | ・介護福祉士養成カリキュラムの中に位置づけられているため (3)          |
|      | ・学生からの要望で開講                               |
|      | ・支援対象者の中にもろう者の存在も意識できるように                 |
| 短大   | ・介護福祉士養成カリキュラムの中に位置づけられているため (3)          |
|      | ・専門職に必要なスキルとして (2)                        |
|      | ・カリキュラム充実のため (2)                          |
|      | ・その他 (2)                                  |
| 大学   | ・カリキュラム充実のため (8)                          |
|      | ・全国障害者スポーツ大会を契機に開始                        |
|      | ・文学部で手話(半期)開始。その後、福祉士養成の学科が設置され、2学科で教育開始。 |
|      | ・社会福祉士としての教養として点字とともに手話を導入。               |
|      | ・手話を言語の1つとして考えており、教養教育科目に位置付けた。           |

## 2) 手話通訳者教育導入のきっかけ

|        |                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校   | ・社会福祉の基礎知識を身に付けた手話通訳者養成を目指すため。                                              |
|        | ・手話通訳士制度スタートに伴うモデル養成校として設置。                                                 |
|        | ・手話通訳学科を開設したことから。                                                           |
| 短大     | (回答なし)                                                                      |
| 大学・大学院 | ・大学院技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻の開設に伴い、現役手話通訳者のスキルアップと指導力アップに寄与する授業が必要と考えられたため。(大学院) |

## 3) 手話教育の目標 \*文末の数字は同内容の記述数

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 専門学校 | ・聴覚障害のある人への理解・対人援助の力を高める (2) |
|      | ・コミュニケーション力を高める (2)          |
|      | ・ボランティア精神を学ぶ                 |
| 短大   | ・聴覚障害のある人への理解・対人援助の力を高める (8) |
|      | ・コミュニケーション力を高める (2)          |
|      | ・ボランティア精神を学ぶ                 |
|      | ・福祉の理解を深める (2)               |
|      | ・仕事に役立つ技術を身につける              |
| 大学   | ・手話力の向上                      |
|      | ・聴覚障害のある人への理解・対人援助の力を高める (2) |
|      | ・コミュニケーション力を高める              |
|      | ・語学教育の一つとして                  |
|      | ・社会福祉士の教養の一つとして              |
|      | ・手話通訳教育者を育てる (大学院)           |
|      | ・教養教育の言語として手話を習得してもらう。       |

## 4) 手話通訳者教育の目標 \*文末の数字は同内容の記述数

|        |                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校   | ・手話通訳者士育成 (2)                                                                                               |
|        | ・手話通訳者の養成 (2)                                                                                               |
|        | ・手話通訳ができる福祉従事者を目指すため。                                                                                       |
| 短大     | (回答なし)                                                                                                      |
| 大学・大学院 | ・ろう、難聴、中途失聴の障害特性に即した支援の必要性を理解し、教育社会の現場における聴覚障害者の支援を担う専門家を育成する。手話通訳理論に関する理解を深める。手話通訳技術の評価に関わるスキルアップを図る。(大学院) |
|        | ・手話通訳者の養成、手話通訳者試験合格、手話検定(1～2級)合格。                                                                           |

## 6. 手話教育・手話通訳者教育の成果

## 1) 手話教育成果 \* 文末の数字は同内容の記述数

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 専門学校 | ・全国手話検定の合格 (2)                   |
|      | ・コミュニケーション力がついた                  |
|      | ・仕事の場で手話を使っている。                  |
|      | ・ろう者・聴覚障害者への理解が深まった。             |
|      | ・実習先にろう者施設希望者が増えた。               |
| 短大   | ・ろう者・聴覚障害者への理解が深まった。 (5)         |
|      | ・職場で手話をつかったコミュニケーションがとれる (2)     |
|      | ・コミュニケーション力がついた                  |
|      | ・全国手話検定の合格                       |
| 大学   | ・ろう者・聴覚障害者への理解が深まった。 (3)         |
|      | ・全国手話検定の合格 (3)                   |
|      | ・ろう者とコミュニケーションがとれるようになった。 (2)    |
|      | ・手話を学ぶ意欲が高まった。 (2)               |
|      | ・コミュニケーション力がついた (2)              |
|      | ・手話の習得がされた。                      |
|      | ・職場で手話をつかったコミュニケーションがとれる         |
|      | ・ボランティアサークルができた                  |
|      | ・手話を使う職場へ就職する者がある                |
|      | ・聴覚障害の学生が多いが、円滑にコミュニケーションがとれている。 |

## 2) 手話通訳者教育の成果 \* 文末の数字は同内容の記述数

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 専門学校   | ・福祉現場でスタッフや入所者に手話を教えることの企画、実践に繋がっている。 |
|        | ・手話検定 合格                              |
|        | ・手話通訳士試験合格                            |
|        | ・手話通訳士、手話通訳者の輩出                       |
|        | ・手話通訳が出来るレベルの技能・知識を身につけた人材の輩出         |
|        | ・障害者福祉分野への「支援者」の供給                    |
|        | ・最近 10 年間の手話通訳士合格率は 60%               |
|        | ・関連職種に就職を希望する学生のほぼ全員が関連職種に就職。         |
| 短大     | (回答なし)                                |
| 大学・大学院 | ・開設したばかりで成果はまだ見られない。(大学院)             |
|        | ・全国手話検定の合格、手話通訳者試験の合格。                |
|        | ・手話を使う職場へ就職する者の輩出                     |

## 7. 手話教育・手話通訳者教育の課題

### 1) 手話教育課題

|      |                                                   |
|------|---------------------------------------------------|
| 専門学校 | ・開講時間数が少ないが増やせない                                  |
|      | ・聴覚障害者本人の話を聞きたいが1～2回程度にとどまる                       |
|      | ・継続学習                                             |
| 短大   | ・介護福祉士養成課程の単位数増加により「手話」の時間がとれなくなった。(2)            |
|      | ・各教員担当の講師の手話にややばらつきがある。                           |
|      | ・授業内容は充実しており、課題は特にない。                             |
| 大学   | ・担当できる講師が限られており、負担が集中する点。                         |
|      | ・課外学習のフォロー                                        |
|      | ・100人以上の講義では、講師の手元が見えない。(カメラに撮って大スクリーンに映している)     |
|      | ・入学してくる学生間で手話力のばらつきが非常に大きい。(大学院)                  |
|      | ・継続学習                                             |
|      | ・受講生が多い時は、細かい指導ができない。                             |
|      | ・学んだ手話・手話通訳を活かせる場所がない                             |
|      | ・受講希望者が減少している。                                    |
|      | ・教員は言語としての教育と考えるが、福祉的な講義として学びたいという学生が多く、学びのずれがある。 |
|      |                                                   |

### 2) 手話通訳者教育課題

|        |                                                                                              |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校   | ・手話通訳教育を受けてきたことを認め、仲間として迎える姿勢が各地域にほしい。                                                       |
|        | ・入学生の減少にともない、手話言語導入時点(1年次初期)の担当教員(および講師)の数を制限せざるを得なくなってきたため、多様な手話ネイティブモデルを提示することが難しくなっていること。 |
|        | ・入学者(特に通訳者としての適性のある入学者)の確保が困難である                                                             |
|        | ・通訳実習の現場確保が困難である                                                                             |
|        | ・卒業後、資格取得後の就業保障がない                                                                           |
|        | ・志願者減少による定員割れが続いており、定員不足が課題。                                                                 |
| 短大     | (回答なし)                                                                                       |
| 大学・大学院 | (回答なし)                                                                                       |



## 8. 科目名・実施学年・時間数・専任または非常勤

## 1) 手話教育

| 専門学校 | 科目名            | 実施学年                       | 教育時間                    | 専任・非常勤      |                   |
|------|----------------|----------------------------|-------------------------|-------------|-------------------|
|      | 基本コミュニケーション    | 1 年生前期・後期                  | 60 時間                   | 非           |                   |
|      | 形態別コミュニケーション技術 | 2 年生前期                     | 15 時間                   | 非           |                   |
|      | 手話Ⅰ            | ショップ・ブライダル 1 年 通年          | ブライダル 1 年<br>35 時間      | 専           |                   |
|      | 手話Ⅰ            | 公務員 1 年 通年                 | 他は各 50 時間               | 専           |                   |
|      | 手話Ⅱ            | ショップ・ブライダル 2 年 通年          |                         | 専           |                   |
|      | 手話Ⅱ            | 公務員 2 年 通年                 |                         | 専           |                   |
|      | 手話演習<br>〃<br>〃 | 3 年生通年<br>4 年生前期<br>2 年生前期 | 60 時間<br>30 時間<br>30 時間 | 専<br>専<br>専 |                   |
|      | 表現法（手話）        | 1 年生前期                     | 15 時間                   | 非           |                   |
|      | ユニバーサルサービス     | 2 年通年                      | 49.5 時間                 | 非           | 専任 7 人<br>非常勤 4 人 |

| 短大 | 科目名               | 実施学年                                 | 教育時間                 | 専任・非常勤           |                    |
|----|-------------------|--------------------------------------|----------------------|------------------|--------------------|
|    | コミュニケーション技術Ⅱ      | 1 年次後期                               | 15 時間                | 非                |                    |
|    | 手話                | 2 年生後期                               | 回答無し                 | 非                |                    |
|    | 手話                | 2 年生後期                               | 30 時間                | 非                |                    |
|    | 手話<br>〃<br>〃<br>〃 | 1 年生前期<br>1 年生後期<br>2 年生前期<br>2 年生後期 | 30 時間<br>〃<br>〃<br>〃 | 非<br>〃<br>〃<br>〃 |                    |
|    | 手話 1<br>手話 2      | 1 年生（10/16 現在）<br>2 年生（10/17 現在）     | 50 時間<br>〃           | 非<br>非           |                    |
|    | 手話Ⅰ<br>手話Ⅱ        | 1 年生通年<br>2 年生前期                     | 60 時間<br>30 時間       | 非<br>非           |                    |
|    | 手話講座              | 1 年生前期                               | 30 時間                | 非                | 専任 0 人<br>非常勤 12 人 |

| 大学 | 科目名           | 実施学年        | 教育時間  | 専任・非常勤 |
|----|---------------|-------------|-------|--------|
|    | 学部            |             |       |        |
|    | 手話コミュニケーション技術 | 1 年次 1 学期   | 30 時間 | 専      |
|    | アメリカ手話        | 2 年次 1、2 学期 | 60 時間 | 専・非    |
|    | 手話学           | 2、3 年次 2 学期 | 30 時間 | 専      |
|    | 大学院           |             |       |        |
|    | 手話言語学特論       | 1、2 年次 1 学期 | 30 時間 | 専      |
|    | 手話言語学演習       | 1、2 年次 1 学期 | 30 時間 | 専      |
|    | 手話教育特論        | 1、2 年次 1 学期 | 30 時間 | 専      |

| 科目名                        | 実施学年                    | 教育時間            | 専任・非常勤      |                     |
|----------------------------|-------------------------|-----------------|-------------|---------------------|
| 基礎手話                       | 1 年生前期                  | 30 時間           | 非<br>(一部・専) |                     |
| 医療手話                       | 1 ～ 3 年生対象後期            | 30 時間           | 非<br>(一部・専) |                     |
| 形態別コミュニケーション論 (手話)         | 3 年生後期                  | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話                         | 2 年生後期                  | 60 時間           | 非           |                     |
| 手話                         | 2 年生後期                  | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話 (1)                     | 2 年生前期                  | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話 (2)                     | 2 年生後期                  | 〃               | 非           |                     |
| 手話学                        | 2 年生後期                  | 〃               | 非           |                     |
| 手話 (3)                     | 3 年生前期                  | 〃               | 専           |                     |
| 手話 (4)                     | 3 年生後期                  | 〃               | 専           |                     |
| 手話Ⅰ                        | 1 年次春学期                 | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話Ⅱ                        | 1 年次秋学期                 | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話Ⅲ                        | 2 年次春学期                 | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話Ⅳ                        | 2 年次秋学期                 | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話研究Ⅰ                      | 1 年生以上対象前期              | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話研究Ⅱ                      | 1 年生以上対象前期              | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話入門                       | 全学年前期                   | 30 時間           | 非           |                     |
| 〃                          | 〃                       | 〃               | 〃           |                     |
| 〃                          | 全学年後期                   | 〃               | 〃           |                     |
| 〃                          | 〃                       | 〃               | 〃           |                     |
| 手話を学ぼう                     | (一般・教育科目)<br>1 年生～ 4 年生 | (15 回)<br>30 時間 | 非           |                     |
| 初級日本手話                     | 1 年生前期・後期               | 30 時間           | 非           |                     |
| 中級〃                        | 1 年生後期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 上級〃                        | 1 年生前期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 初級アメリカ手話                   | 〃                       | 〃               | 〃           |                     |
| 中級〃                        | 1 年生後期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 上級〃                        | 1 年生前期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 人間の知性と感性の認識Ⅰ<br>(手話から言語学へ) | 1 年生通年                  | 60 時間           | 専           |                     |
| 人間の知性と感性の認識Ⅲ<br>(手話学)      | 1 年生後期                  | 30 時間           | 非           |                     |
| 日本手話Ⅰ (6 クラス)              | 1 年生前期                  | 30 時間           | 非           |                     |
| 日本手話Ⅱ (〃)                  | 1 年生後期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 日本手話Ⅲ (〃)                  | 2 年生前期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 日本手話Ⅳ (〃)                  | 2 年生後期                  | 〃               | 〃           |                     |
| ヒューマン・ケア                   | 全学年                     | 30 時間           | 非           |                     |
| 手話Ⅰ (1)                    | 1 年生前期                  | 60 時間           | 非           |                     |
| 手話Ⅰ (2)                    | 〃                       | 〃               | 〃           |                     |
| 手話Ⅱ (1)                    | 1 年生後期                  | 〃               | 〃           |                     |
| 手話Ⅱ (2)                    | 〃                       | 〃               | 〃           |                     |
| 手話Ⅳ                        | 2 年生前期                  | 〃               | 〃           |                     |
| ASL (アメリカ手話) 入門            | 1 年生前期                  | 30 時間           | 〃           | 専任 11 人<br>非常勤 39 人 |

## 2)-1 手話通訳者教育

| 専門学校 3校                 | 科目名             | 実施学年  | 時間数   | 専任・非常勤 |
|-------------------------|-----------------|-------|-------|--------|
| A校<br>*特に手話通訳に関連する科目を抽出 | 日本語             | 1年生後期 | 30時間  | 非      |
|                         | 聴覚障害者の教育        | 1年生後期 | 30時間  | 非      |
|                         | 社会福祉演習          | 1年生通年 | 60時間  | 専      |
|                         | 手話実技Ⅰ           | 1年生前期 | 60時間  | 非      |
|                         | 手話実技Ⅱ           | 1年生前期 | 60時間  | 専      |
|                         | 手話基礎会話Ⅰ         | 1年生後期 | 30時間  | 非      |
|                         | 聴覚障害者の社会生活      | 2年生前期 | 30時間  | 非      |
|                         | 社会福祉演習Ⅱ         | 2年生後期 | 30時間  | 専      |
|                         | 手話基礎会話Ⅱ         | 2年生通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 手話実習指導          | 2年生前期 | 30時間  | 専      |
| B校<br>*特に手話通訳に関連する科目を抽出 | 手話表現論           | 2年生通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 手話通訳論           | 1年生前期 | 30時間  | 専      |
|                         | 手話通訳総合講座Ⅰ       | 2年生前期 | 30時間  | 専      |
|                         | 通訳基礎            | 1年生後期 | 30時間  | 専      |
|                         | 日本手話Ⅰ ①②③④⑤     | 1年生前期 | 150時間 | 専・非    |
|                         | 日本手話Ⅱ ①②        | 1年生後期 | 60時間  | 専・非    |
|                         | 日本手話Ⅲ ①②③       | 1年生後期 | 90時間  | 専・非    |
|                         | 日本手話Ⅳ（思考力）      | 2年生通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 日本手話Ⅴ（総合）       | 2年生通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 日本手話Ⅵ（表現指導）     | 2年生通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 日本手話応用Ⅰ         | 専攻科通年 | 60時間  | 専      |
|                         | 日本手話応用Ⅱ         | 専攻科通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 手話通訳基礎Ⅰ（聞き取り表現） | 1年後期  | 60時間  | 専      |
|                         | 手話通訳基礎Ⅱ（読み取り）   | 1年後期  | 90時間  | 専      |
|                         | 手話通訳技術Ⅰ（聞き取り表現） | 2年生通年 | 60時間  | 専・非    |
|                         | 手話通訳技術Ⅱ（読み取り口頭） | 2年生通年 | 60時間  | 専・非    |
|                         | 場面別手話通訳技術       | 2年生通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 手話通訳総合講座Ⅱ       | 2年生後期 | 30時間  | 専      |
|                         | 表現通訳検証Ⅰ         | 2年生通年 | 60時間  | 専・非    |
|                         | 表現通訳検証Ⅱ         | 専攻科通年 | 60時間  | 非      |
|                         | 手話通訳演習Ⅰ（聞き取り表現） | 専攻科通年 | 60時間  | 専・非    |
|                         | 手話通訳演習Ⅱ（読み取り口頭） | 専攻科通年 | 60時間  | 専・非    |

|                              |              |                      |              |       |                                       |
|------------------------------|--------------|----------------------|--------------|-------|---------------------------------------|
|                              | 手話通訳演習Ⅲ（場面別） | 専攻科通年                | 60 時間        | 非     |                                       |
|                              | 手話翻訳技術       | 専攻科通年                | 60 時間        | 非     |                                       |
|                              | 施設見学         | 1 年生通年               | 30 時間        | 専     |                                       |
|                              | 手話通訳関連特別講座   | 1 年・<br>2 年・<br>専攻後期 | 30 時間<br>× 3 | 専     |                                       |
|                              | 施設実習         | 2 年生後期               | 180 時間       | 専     |                                       |
|                              | 施設実習成果レポート   | 2 年生後期               | 30 時間        | 専 3 人 |                                       |
|                              | 通訳実習         | 専攻科通年                | 350 時間       | 専     |                                       |
| C 校<br>*特に手話通訳に関連する<br>科目を抽出 | 手話実技         | 1 年・2 年              | 560 時間       | 専・非   | 専任 26 人<br>非常勤 23 人<br>* C 校は<br>詳細不明 |
|                              | 手話通訳実技       | 1 年・2 年              | 830 時間       | 専・非   |                                       |

|         | 科目名                    | 実施学年           | 時間数   | 専任・<br>非常勤 |         |
|---------|------------------------|----------------|-------|------------|---------|
| 大学院 1 校 | 手話通訳特論<br>手話通訳演習       | 1、2 年次<br>2 学期 | 30 時間 | 専          | 専任 2 人  |
|         |                        | 1、2 年次<br>2 学期 | 30 時間 | 専          | 非常勤 0 人 |
| 大学 1 校  | 手話通訳論 (1)<br>手話通訳論 (2) | 4 年生前期         | 30 時間 | 非          | 専任 0 人  |
|         |                        | 4 年生後期         | 30 時間 | 非          | 非常勤 2 人 |

## 2)-1 手話教育における関連科目

|      |                                           |
|------|-------------------------------------------|
| 専門学校 | 回答なし                                      |
| 短期大学 | コミュニケーション技術Ⅱ 生活支援技術 E<br>社会福祉概論 障害者の理解Ⅰ   |
| 大学   | パソコン要約筆記 ろう文化研究<br>デフコミュニティと社会参加 聴覚障害教育研究 |

## 2)-2 手話通訳者教育の関連科目

| 専門学校 | A 校                                                                                                  | B 校                                          | C 校                                                                                           |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 日本語<br>聴覚障害者の教育<br>社会福祉演習<br>手話実技Ⅰ<br>手話実技Ⅱ<br>手話基礎会話Ⅰ<br>聴覚障害者の社会生活<br>社会福祉演習Ⅱ<br>手話基礎会話Ⅱ<br>手話実習指導 | 国語Ⅰ<br>国語Ⅱ<br>社会福祉概論<br>身体障害者福祉論<br>聴覚障害者福祉論 | 手話言語学<br>聴覚障害者の社会<br>通訳理論<br>手話通訳論<br>聴覚障害者の教育<br>聴覚障害者のリハビリテーション<br>聴覚障害者の福祉<br>聴覚障害者のケースワーク |

| 大学・大学院 | 大学                                                               | 大学院                              |
|--------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
|        | パソコン要約筆記<br>社会福祉特論 C<br>聴覚障害教育<br>聴覚障害児の心理（ことばと脳）<br>聴覚障害児の生理・病理 | 聴覚障害学特論<br>ろう者学教育コンテンツ特論<br>日本語学 |

## 9. 使用テキスト

### 1) 手話教育で使用するテキスト

|      |                                                                                                   |                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | ・人間の理解（新・介護福祉養成講座）<br>・聴覚・言語障害者とコミュニケーション<br>・独自テキスト（4）                                           | ・新・手話教室入門<br>・DVDで学ぶ手話の本（各級）                                |
| 短大   | ・新・手話教室入門（3）<br>・手話を学ぼう 手話で話そう（2）<br>・手話教室 基礎課程・手話基礎ビデオ<br>・たっちゃんと学ぼう<br>・ろう者との対話のために             | ・おぼえようみんなの手話（2）<br>・医療の手話シリーズ①<br>・ようこそ手話の世界へ<br>・独自テキスト（2） |
| 大学   | ・手話で学ぼう手話で話そう（2）<br>・医療の手話シリーズ①手話で必見！<br>・聞こえない人とのコミュニケーション<br>・初級手話講座 手話でつなごう心と心<br>・全国手話検定試験各年版 | ・新・手話教室入門（4）<br>・医療のすべて（外来編）<br>・独自テキスト（7）                  |

### 2) 手話通訳者教育で使用するテキスト

|      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 専門学校 | 手話通訳Ⅰ・Ⅱ（1校）<br>手話通訳Ⅰ・Ⅱの使用はないと回答（2校） |
| 大学   | 手話通訳者養成実践課程、手話通訳Ⅰ・Ⅱ                 |
| 大学院  | 論文が中心                               |

## 10. 教員の実数

### 1) 手話教育

|      |       |           |        |           |            |
|------|-------|-----------|--------|-----------|------------|
| 専門学校 | 専任教員数 | うち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | うち、聴覚障害教員 | 回答校6校      |
|      | 1     | 0         | 5      | 2         | 健聴者講師が多数   |
| 短大   | 専任教員数 | うち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | うち、聴覚障害教員 | 回答校8校      |
|      | 3     | 0         | 14     | 1         | 健聴者講師が多数   |
| 大学   | 専任教員数 | うち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | うち、聴覚障害教員 | 回答校11校     |
|      | 10    | 3         | 36     | 16        | 健聴者講師がやや多い |

## 2) 手話通訳者教育

| 専門学校 | 専任教員数 | うち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | うち、聴覚障害教員 | 回答校3校          |
|------|-------|-----------|--------|-----------|----------------|
|      | 8     | 3         | 42     | 30        | 非常勤では聴覚障害講師が多数 |

| 大学 | 専任教員数 | うち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | うち、聴覚障害教員 | 回答校2校     |
|----|-------|-----------|--------|-----------|-----------|
|    | 1     | 0         | 6      | 4         | 聴障講師がやや多い |

| 大学院 | 専任教員数 | うち、聴覚障害教員 | 非常勤講師数 | うち、聴覚障害教員 | 回答校1校    |
|-----|-------|-----------|--------|-----------|----------|
|     | 10    | 3         | 1      | 0         | 健聴者講師が多数 |

## 11. 教員・講師の資格要件

### 1) 手話教育での資格要件 複数回答

| 専門学校 | 教育歴・経験 | 研究実績 | 手話通訳士 | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | * 資格、教育歴、団体推薦が中心 |
|------|--------|------|-------|--------|---------|------------------|
|      | 3      | 1    | 5     | 2      | 2       |                  |

| 短大 | 博士学位  | 修士学位   | 学士学位    | 教育歴・経験 | 研究実績 | * 学位よりは資格・団体推薦が多い |
|----|-------|--------|---------|--------|------|-------------------|
|    | 1     | 1      | 2       | 3      | 1    |                   |
|    | 社会福祉士 | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | 手話通訳士  |      |                   |
|    | 1     | 4      | 2       | 4      |      |                   |

|    |         |        |         |           |                 |       |
|----|---------|--------|---------|-----------|-----------------|-------|
| 大学 | 博士学位    | 修士学位   | 学士学位    | 教育歴・経験    | 研究実績            | 手話通訳士 |
|    | 3       | 3      | 1       | 9         | 6               | 3     |
|    | 精神保健福祉士 | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | その他       | *教育歴、研究実績、学位が中心 |       |
|    | 0       | 2      | 0       | 1         |                 |       |
|    |         |        |         | その他は、所属学会 |                 |       |

| 大学院 | 博士学位    | 修士学位   | 学士学位    | 教育歴・経験 | 研究実績                | 手話通訳士 |
|-----|---------|--------|---------|--------|---------------------|-------|
|     | 1       | 1      | 1       | 1      | 1                   | 0     |
|     | 精神保健福祉士 | ろう団体推薦 | 通訳者団体推薦 | その他    | * 教育歴、研究実績、学位が考慮される |       |
|     | 0       | 0      | 0       | 0      |                     |       |

## 2) 手話通訳者教育

| 専門学校    | 修士学位            | 学士学位 | 教育歴・経験 | 研究業績 | 手話通訳士 | ろう団体推薦 |
|---------|-----------------|------|--------|------|-------|--------|
| 3校回答    | 1               | 1    | 6      | 2    | 5     | 1      |
| 通訳者団体推薦 | *主に教育歴・資格が考慮される |      |        |      |       |        |
|         | 2               |      |        |      |       |        |

|             | 博士学位 | 修士学位 | 学士学位 | 教育歴・経験 | 研究実績 | 手話通訳士 |
|-------------|------|------|------|--------|------|-------|
| 大学<br>2校回答  | 1    | 0    | 1    | 1      | 0    | 1     |
| 大学院<br>1校回答 | 0    | 1    |      | 1      | 1    | 0     |

\* 主に学位、研究業績、教育歴が考慮される。団体推薦はない

## 12. 手話教育・手話通訳者教育課題

## 1) 手話教育の課題

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦勞していること、課題は特にありません。特筆として、県手話通訳者の第一人者として、信頼して授業をお願いしている。今後も講師として継続を希望している。</li> <li>・通訳養成にかかわる諸授業の（半年15回の講義が構成出来る程度の）専門家に限られていること。2年次には手話話者（ろう者）による専門的な分野の講義を何科目か導入している（習得した手話で専門的な授業を受けることによる手話言語理解力・運営力の向上を目途としている）が、お願いできる人材が少ないこと、など。</li> </ul> |
| 短大   | ・2人ともたいへん教え方が上手で、親切な対応であるため、問題はない。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 大学   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当できる有資格者が少ないため、確保が難しい。</li> <li>・ろう者で大学講師の要件を満たし、手話教育のトレーニングを受けた方が皆忙しく、なかなか確保できない。（数が少ないこともあると思われる）</li> </ul>                                                                                                                                      |

## 2) 手話通訳者教育の課題

|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 専門学校   | ・地域との関わり、ろう運動を社会の枠組みに照らして語れる人材の確保。 |
| 大学・大学院 | ・担当資格のある教員の確保が難しい。                 |

## ②専門学校・大学等高等教育機関における手話教育・手話通訳者教育実態調査

## (2) 高等教育教員・講師等調査結果

## 1. 回答者の属性

| 数値は回答数      |      |           |            |    |                    |
|-------------|------|-----------|------------|----|--------------------|
|             | 専門学校 | 短期大学      | 大学・大学院     | 合計 |                    |
| 回答者数全体      | 11   | 10        | 23         | 44 |                    |
| 性別          |      |           |            |    | 女性が 60%            |
| 男性          | 4    | 0         | 9          | 13 |                    |
| 女性          | 7    | 8         | 10         | 25 |                    |
| 回答無し        | 0    | 2         | 4          | 6  |                    |
| 聴覚障害        |      |           |            |    | 健健聴者講師が 60%        |
| 有り          | 3    | 2         | 10         | 15 |                    |
| 無し          | 7    | 8         | 11         | 26 |                    |
| 回答無し        | 0    | 0         | 2          | 2  |                    |
| 年齢          |      |           |            |    | 50 歳代・60 歳代が中心     |
| 20 歳代       | 0    | 0         | 0          | 0  |                    |
| 30 歳代       | 2    | 1         | 5          | 8  |                    |
| 40 歳代       | 2    | 0         | 2          | 4  |                    |
| 50 歳代       | 3    | 2         | 9          | 14 |                    |
| 60 歳代       | 4    | 7         | 4          | 15 |                    |
| 70 歳代       | 0    | 0         | 0          | 0  |                    |
| 回答無し        | 0    | 0         | 3          | 3  |                    |
| 手話学習・使用開始年齢 |      |           |            |    | 成人以降の手話学習者が 45.0%  |
| 幼少期～        | 2    | 0         | 2          | 4  |                    |
| 10 歳代       | 2    | 1         | 8          | 11 |                    |
| 成人以降        | 6    | 8         | 6          | 20 |                    |
| 回答無し        | 1    | 1         | 7          | 9  |                    |
| 手話使用年       |      |           |            |    | 20 年以上の手話使用が 60.0% |
| 15 ～ 20 年   | 3    | * 9 年 1 人 | 13 年 1 人 1 | 3  |                    |
| 20 ～ 40 年   | 6    | 6         | 8          | 20 |                    |
| 40 年以上      | 1    | 2         | 4          | 7  |                    |
| 回答なし        | 1    | 1         | 9          | 11 |                    |



|              |                    |                |           |    |                              |
|--------------|--------------------|----------------|-----------|----|------------------------------|
| 最終学歴         |                    |                |           |    | 高卒及び大卒者が多い                   |
| 高卒           | 5                  | 1              | 6         | 12 | 大学・大学院では、大卒者または修士・博士学位が求められる |
| 専門卒          | 1                  | 2              | 1         | 4  |                              |
| 短大卒          | 2                  | 2              | 0         | 4  |                              |
| 大卒           | 2                  | 4              | 7         | 13 |                              |
| 大学院修了(学位)    | 0                  | 0              | 5(博士2)    | 5  |                              |
| 無回答          | 0                  | 0              | 4         | 4  |                              |
| 所有資格         |                    |                |           |    | 手話通訳士有資格者が45.5%              |
| 教員免許         | 0                  | 3              | 3         | 6  | 手話教育が54.5%、手話通訳者教育が27.3%     |
| 手話通訳士        | 7                  | 5              | 8         | 20 |                              |
| 手話通訳者        | 5                  | 8              | 2         | 15 |                              |
| 社会福祉士        | 1                  | 0              | 2         | 3  |                              |
| 精神保健福祉士      | 0                  | 0              | 0         | 0  |                              |
| 介護福祉士        | 0                  | 0              | 0         | 0  |                              |
| その他          | 保育士、幼稚園教諭2級、ヘルパー2級 | ホームヘルパー、社会福祉主事 | 保育士、労務管理士 |    |                              |
| 担当科目         |                    |                |           |    | 手話教育が54.5%、手話通訳者教育が27.3%     |
| 手話教育         | 8                  | 1              | 15        | 24 |                              |
| 手話通訳者教育      | 2                  | 9              | 1         | 12 |                              |
| 両方           | 1                  | 0              | 2         | 3  | 非常勤が77.3%                    |
| 雇用身分         |                    |                |           |    |                              |
| 専任           | 1                  | 0              | 6         | 7  |                              |
| 非常勤          | 8                  | 10             | 16        | 34 |                              |
| 回答無し         | 2                  | 0              | 1         | 3  | 41.7%が他の学校でも従業を担当            |
| 他の学校での手話教育担当 |                    |                |           |    |                              |
| 有り           | 3                  | 8              | 9         | 20 |                              |
| 無し           | 10                 | 1              | 4         | 15 |                              |
| 回答無し         | 1                  | 1              | 11        | 13 | 手話通訳者資格・資格取得10年以上が多数         |
| 通訳者資格取得後の年数  |                    |                |           |    |                              |
| 10年未満        | 0                  | 2              | 0         | 2  |                              |
| 10～20年       | 5                  | 2              | 3         | 10 |                              |
| 20～30年       | 1                  | 2              | 4         | 7  |                              |
| 30年以上        | 2                  | 2              | 1         | 5  |                              |
| 通訳士資格取得後の年数  |                    |                |           |    |                              |
| 10年未満        | 2                  | 3              | 1         | 6  |                              |
| 10～20年       | 3                  | 2              | 5         | 10 |                              |
| 20～30年       | 2                  | 1              | 3         | 6  |                              |

## 2. 担当科目について 2-1 担当科目名

### 1) 専門学校

数値は回答数

|                   |   |                                  |
|-------------------|---|----------------------------------|
| 「コミュニケーション」を含む科目名 | 4 | 基本コミュニケーション、形態別コミュニケーション技術（聴覚）など |
| 「手話」を含む科目名        | 6 | 手話Ⅰ、表現法（手話）など                    |
| 「手話基礎」を含む科目名      | 3 | 手話基礎会話Ⅰなど                        |
| 「手話実技」を含む科目名      | 2 | 手話実技Ⅰなど                          |
| 「手話通訳」を含む科目名      | 5 | 手話通訳実技Ⅰ、手話通訳論、手話通訳基礎演習など         |
| その他               | 1 | 事例検討                             |

### 2) 短大

数値は回答数

|                   |    |                    |
|-------------------|----|--------------------|
| 「コミュニケーション」を含む科目名 | 1  | コミュニケーション技術Ⅱ       |
| 「手話」を含む科目名        | 12 | 手話、手話教育、手話入門など     |
| 「手話基礎」を含む科目名      | 1  | 手話基礎               |
| 「手話実技」を含む科目名      | 1  | 手話（技術）             |
| 「手話通訳」を含む科目名      | 1  | 手話通訳Ⅲ              |
| その他               | 3  | 医療の手話、基礎講座、手話言語の実践 |

### 3) 大学・大学院

数値は回答数

|                   |    |                                              |
|-------------------|----|----------------------------------------------|
| 「コミュニケーション」を含む科目名 | 3  | 手話とコミュニケーション、手話コミュニケーション技術、手話コミュニケーション技術（上級） |
| 「手話」を含む科目名        | 29 | 手話、手話Ⅰ、ヒューマンケア手話、手話入門など                      |
| 「手話基礎」を含む科目名      | 1  | 基礎手話                                         |
| 「手話実技」を含む科目名      | 0  |                                              |
| 「手話通訳」を含む科目名      | 2  | 手話通訳特論、手話通訳演習                                |
| その他               | 6  | 手話学、医療手話、人間の知性と感性の認識Ⅰ（手話から言語学へ）ことばと脳、ろう文化    |

### 4) 大学院の科目名

手話言語学特論  
手話教育特論  
手話通訳演習  
手話言語学演習

手話言語学演習  
手話通訳特論  
聴覚障害児言語指導論

## 2. 担当科目について 2-2 開講期

## 1) 専門学校

数値は回答数

| 開講学年・学期 | 開講数 |
|---------|-----|
| 1 年前期   | 3   |
| 1 年後期   | 3   |
| 1 年生    | 2   |
| 2 年前期   | 5   |
| 2 年後期   | 3   |
| 2 年生    | 3   |
| 不明      | 1   |

2 年生前期が若干多いが、ほぼ均等にちらばっている。

## 2) 短期大学

数値は回答数

| 開講学年・学期 | 開講数 |
|---------|-----|
| 1 年前期   | 2   |
| 1 年後期   | 1   |
| 1 年生    | 4   |
| 2 年前期   | 0   |
| 2 年後期   | 3   |
| 2 年生    | 3   |
| その他     | 2   |

1 年生・2 年生、ほぼ同数となっている。

## 3) 大学

数値は回答数

| 開講学年・学期 | 開講数 |
|---------|-----|
| 1 年前期   | 6   |
| 1 年後期   | 4   |
| 1 年生    | 1   |
| 2 年前期   | 2   |
| 2 年後期   | 7   |
| 2 年生で開設 | 1   |
| 1～2 年前期 | 2   |
| 1～2 年後期 | 7   |
| 3 年生前期  | 1   |
| 3 年生後期  |     |
| 3 年生    | 1   |
| 1 年～3 年 | 1   |
| 全学年     | 9   |

1 年生、2 年生科目としているところが多い

## 4) 大学院

数値は回答数

| 開講学年・学期 | 開講数 |
|---------|-----|
| 1、2 年後期 | 2   |

## 3. 担当科目について 2 - 3 開講時間

## 1) 専門学校

「手話」等を科目名とする科目 数値は回答数

|              |   |
|--------------|---|
| 10 時間～ 15 時間 | 7 |
| 16 時間～ 30 時間 | 3 |
| 31 時間～ 45 時間 | 1 |
| 46 時間～ 60 時間 | 5 |

15 時間以下が多い。次いで 60 時間（4 コマ開講）となっている

「手話通訳」を科目名とする科目

|           |        |
|-----------|--------|
| 手話通訳基礎演習  | 22 時間半 |
| 手話通訳論     | 30 時間  |
| 手話通訳論     | 9 時間   |
| 手話通訳実技 I  | 30 時間  |
| 手話通訳実技 II | 30 時間  |

1 科目 30 時間が標準となっている。

その他

|             |       |
|-------------|-------|
| 事例検討        | 15 時間 |
| 福祉教育ボランティア論 | 30 時間 |

## 2) 短期大学

「手話」を科目名とする科目 数値は回答数

|              |   |
|--------------|---|
| 10 時間～ 15 時間 | 5 |
| 16 時間～ 30 時間 | 4 |
| 31 時間～ 45 時間 | 1 |
| 46 時間～ 60 時間 | 3 |
| 61 時間以上      | 1 |

15 時間、30 時間とするところが多い

## 3) 大学・大学院

「手話」等を科目名とする科目 数値は回答数

|              |    |
|--------------|----|
| 10 時間～ 15 時間 | 0  |
| 16 時間～ 30 時間 | 32 |
| 31 時間～ 45 時間 | 0  |
| 46 時間～ 60 時間 | 2  |

1 科目 30 時間が標準となっている。

その他

|                        |       |
|------------------------|-------|
| 手話言語学特論                | 30 時間 |
| 手話言語学演習                | 30 時間 |
| 手話教育特論                 | 30 時間 |
| 人間の知性と感性の認識 I 手話から言語学へ | 60 時間 |
| ことばと脳                  | 30 時間 |
| ろう文化                   | 30 時間 |
| 聴覚障害児言語指導論             | 30 時間 |
| 手話学                    | 30 時間 |

1 科目 30 時間が標準となっている。

## 4. 講義担当者は単数か複数か

数値は回答数

|        | 単数で担当 | 複数で担当 | 複数の割合 |
|--------|-------|-------|-------|
| 専門学校   | 12    | 7     | 36.8% |
| 短大     | 12    | 4     | 25.0% |
| 大学・大学院 | 30    | 14    | 31.8% |

\* 複数担当制は、3割程度にとどまる

## \* 複数で事業を担当する理由

## 1) 専門学校

- ・聴覚障害者と意思疎通手段を身につけることが主な目的であり、聴覚障害者当事者と通訳者が一緒に授業を行っている。
- ・手話関係の指導は、ろう講師と健聴講師で1つの講座を行うことを基本にしているため。
- ・手話実技Ⅰ
- ・メイン講師は聴障者、通訳・助手的な役割。

## 2) 短期大学

- ・学校のカリキュラムにより。
- ・交流会（2時間）時に聴覚障害者講師数名を交流する。
- ・授業の時はひとりですが、同じクラスを3名で交代して教えています。

## 3) 大学・大学院

- ・少人数教育を行うために、ⅠとⅡそれぞれ2クラス開講している。
- ・教育効果を考慮して、全くの初心者にはⅠを履修させて、Ⅰを履修した者にⅡを履修させる。
- ・学部：手話コミュニケーション技術
- ・入門クラスと上級クラスで編成するため。
- ・大学院：シラバスに対応して教員それぞれの専門知識を活かすため。
- ・看護学部 ヒューマンケア 手話
- ・大学側の意向で、開講当初からろう者講師と通訳者講師が2名で講師を行うことになっていた。
- ・形態別コミュニケーション論（手話）15回のうち、前半の7回を健聴講師、2回をろう講師と2人で指導、残りの6回をろう講師で担当する。
- ・理由は、手話はろう者から学んでほしい、障害への認識もより深く実感的に理解できるため。
- ・使用テキスト、全国手話研修センター発行、手話奉仕員養成テキストの内容と県聴覚障害者協会、手話事業委員会の規定により複数で指導しています。
- ・聴覚障害者が受けた教育や生活上の障壁について理解を深めるため、ゲストティーチャーとして3名の聴障者にそれぞれ2時間来校いただき、お話を伺い交流した。（3回のみ）
- ・非常勤講師（ろう者）と補助員数名（ろう者）とともに開講している。講義の主体はろう者。
- ・ろう教員による指導が不可欠なため。

数値は解答数

| *複数で授業を担当する理由        | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | 合計 |
|----------------------|------|----|--------|----|
| ろう者・健聴者一組を基本としているため  | 2    | 1  | 4      | 7  |
| 聴覚障害者と意思疎通手段を身につけるため | 1    |    | 2      | 3  |
| 交流会時は複数講師としている       |      | 1  | 1      | 2  |
| 教育効果を考慮              |      |    | 2      | 2  |
| 少人数教育を行うため           |      |    | 1      | 1  |
| 県内団体の方針による           |      |    | 1      | 1  |
| その他                  |      | 1  |        | 1  |

\*学校として、複数担当を基本とするところが多い

## 5. 受講者数

### 1) 専門学校

| 「手話」等を科目名とする科目 | 数値は回答数 |
|----------------|--------|
| 10人未満          | 2      |
| 10～20人未満       | 5      |
| 20～30人未満       | 2      |
| 30～40人未満       | 2      |
| 40人以上          | 3      |

| 「手話通訳」を科目名とする科目 | 数値は回答数 |
|-----------------|--------|
| 手話通訳基礎演習        | 5      |
| 手話通訳論           | 5      |
| 手話通訳論           | 5      |
| 手話通訳実技Ⅰ         | 5      |
| 手話通訳実技Ⅱ         | 5      |

### 2) 短期大学

| 「手話」等を科目名とする科目 | 数値は回答数 |
|----------------|--------|
| 10人未満          | 2      |
| 10～20人未満       | 3      |
| 20～30人未満       | 7      |
| 30～40人未満       | 3      |
| 40人以上          | 1      |

### 3) 大学・大学院

| 「手話」等を科目名とする科目 | 数値は回答数            |
|----------------|-------------------|
| 10人未満          | 3                 |
| 10～20人未満       | 13                |
| 20～30人未満       | 4                 |
| 30～40人未満       | 1                 |
| 40～60人         | 8                 |
| その他            | 100～110人 3 245人 1 |

手話通訳を科目名に持つ科目 数値は回答数

|        |    |
|--------|----|
| 手話通訳特論 | 15 |
| 手話通訳演習 | 15 |

大学院の科目 数値は回答数

|          |   |
|----------|---|
| 手話言語学 特論 | 1 |
| 手話言語学 演習 | 1 |
| 手話教育特論   | 1 |
| 手話通訳特論   | 0 |
| 手話通訳演習   | 0 |
| 手話言語学 演習 | 1 |
| 手話教育特論   | 1 |

## 6. 使用教材

### 1) 専門学校での使用教材

| 研修センター作成教材   | 独自作成教材                                                         | 両方                                       | テキスト名称                               |
|--------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|
|              | 前任者が準備した教材                                                     |                                          | DVD だからよくわかる基本の手話                    |
|              | ろう者、難聴者の理解、コミュニケーション方法の学習、聴覚障害者の体験談等を入れ組み立てています。               |                                          |                                      |
| 今後の学習に繋がるよう。 |                                                                |                                          |                                      |
|              | 指導回数に限られているので、テキストを参考に独自に資料を作成して指導しているため。聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版 |                                          | 聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版                |
|              | 指導回数に限られているので、テキストを参考に独自に資料を作成して指導しているため。聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版 |                                          | 聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版                |
|              | 聴障センターより派遣のため。                                                 |                                          |                                      |
|              |                                                                | 検定試験対策のため、奉仕員カリキュラムに準じるため実践会話習得のため。      | ・わたしたちの手話辞典<br>・参考資料（奉仕員テキスト、検定テキスト） |
|              |                                                                | 研修センターのテキストでポイントを押さえた上での、独自テキストは練習問題として。 | 手話を学ぼう、手話で話そう                        |
|              |                                                                |                                          | 手話奉仕員                                |
| 1            | 5                                                              | 2                                        |                                      |

1) 専門学校での使用教材 数値は回答数

|            |   |             |
|------------|---|-------------|
| 研修センター作成教材 | 1 | 独自作成教材使用が多い |
| 独自作成教材     | 5 |             |
| 両方         | 2 |             |

|                   |                                                   |
|-------------------|---------------------------------------------------|
| 研修センター作成テキスト使用の理由 | ・ 今後の学習につながる                                      |
| 独自作成教材使用の理由       | ・ 指導回数が限られている<br>・ コミュニケーション方法の学習<br>・ 交流を取り入れている |
| 両方使用の理由           | ・ 検定試験対策のため<br>・ 研修センターテキストでポイント学習、独自教材で練習する      |

使用テキスト名 \*研修センター作成 「手話で学ぼう 手話で話そう」除く

- ・ わたしたちの手話辞典
- ・ DVD だからよくわかる基本の手話
- ・ 手話を学ぼう、手話で話そう
- ・ 手話奉仕員テキスト
- ・ 全国手話検定試験テキスト
- ・ 聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版

2) 短期大学での使用教材

| 研修センター作成教材                 | 独自作成教材                                                  | 両方                                                                          | テキスト名称        |
|----------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------|
| ろうあ運動をきちんと理解してほしいということから。  |                                                         |                                                                             | 新・初級手話教室      |
|                            |                                                         |                                                                             | たっちゃんと学ぼう     |
|                            |                                                         | 県の地名や手話なども知ってほしい。                                                           | 入門「手話教室」      |
|                            |                                                         | 効果的な指導を行うため                                                                 | ろう者との対話のために   |
|                            |                                                         |                                                                             | 手話奉仕員養成テキスト   |
|                            |                                                         |                                                                             | 独自の教材         |
| 初心者に最適な内容である               |                                                         |                                                                             | 新・手話教室入門      |
| 使用                         |                                                         |                                                                             | 新・手話教室入門      |
|                            | 前任講師より「大学側より『奉仕員養成』テキストは授業科目にそぐわないとの意向がある」との申し送りがあったため。 |                                                                             | プリント作成        |
|                            | ・ ようこそ手話の世界へ (昨年までは奉仕員養成入門テキスト)                         |                                                                             |               |
|                            |                                                         | ほぼテキストに沿って進めていますが、専門学校では将来、病院事務や薬局受付の仕事に就く生徒がほとんどなので、そのために患者接遇の手話について勉強します。 | おぼえようみんなの手話   |
|                            |                                                         |                                                                             | 手話を学ぼう、手話で話そう |
|                            |                                                         |                                                                             | 医療の手話シリーズ①    |
|                            |                                                         |                                                                             | 患者接遇の資料       |
| 専門学校との話し合いで、授業時間がとれるかの問題で。 |                                                         |                                                                             | 手話で学ぼう、手話で話そう |
|                            |                                                         |                                                                             | みんなの手話        |
| 4                          | 2                                                       | 3                                                                           |               |



## 1) 短期大学での使用教材 数値は回答数

|            |   |
|------------|---|
| 研修センター作成教材 | 4 |
| 独自作成教材     | 2 |
| 両方         | 3 |

両方使用を含め研修センター作成教材の使用が多い

|                   |                              |                  |
|-------------------|------------------------------|------------------|
| 研修センター作成テキスト使用の理由 | ・ろうあ運動理解のため<br>・授業時間が確保できるため | ・初心者に適切          |
| 独自作成教材使用の理由       | ・前任者の申し送りによる                 | ・地域で作成されたテキストを使用 |
| 両方使用の理由           | ・県内の手話を学ぶ<br>・専門領域の手話を学ぶため   | ・効果的な指導のため       |

使用テキスト名 \*研修センター作成 「手話で学ぼう、手話で話そう」除く

- |              |              |           |     |
|--------------|--------------|-----------|-----|
| ・新・初級手話教室    | ・たっちゃんと学ぼう   | ・入門「手話教室」 | (3) |
| ・ろう者との対話のために | ・手話奉仕員養成テキスト |           |     |
| ・おぼえようみんなの手話 | ・医療の手話シリーズ①  | ・みんなの手話   |     |

3) 大学・大学院での使用教材

| 研修センター作成教材                        | 独自作成教材                    | 両方                                                         | テキスト名称                                 |
|-----------------------------------|---------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
|                                   |                           | 授業修了後、地域の養成やサークルにつなげやすい。                                   | 新・手話教室入門                               |
|                                   |                           | DVD で読み取り練習しやすい。                                           | A 市の手話                                 |
|                                   |                           | ろう団体が発行しているもの。                                             |                                        |
|                                   |                           | 初心者が覚えておきたい配慮やろうあ者が多く使う表現を学べる。                             |                                        |
| 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム対応              |                           |                                                            | 手話を学ぼう手話で話そう（入門・基礎）                    |
| 受講生に適応しているの                       |                           |                                                            | 手話で学ぼう手話で話そう                           |
|                                   | 手話検定試験 5 級相当の内容に対応しているため。 |                                                            | 友だちをつくる手話（改訂版）<br>聴覚障害者センター発行          |
| 学校の授業終了後、地域での学び（講習会）への移行がスムーズなので。 |                           |                                                            | 奉仕員養成テキスト「手話で学ぼう手話で話そう」                |
|                                   |                           | 実技講習に適したテキストを利用したいため、および講義をより充実した内容にするため関連書籍や DVD を活用している。 | 新・手話教室入門                               |
| 使いやすい。内容が授業に適している。                |                           |                                                            | 新・手話教室入門<br>医療手話シリーズ①手話で必見！医療のすべて（外来編） |
|                                   |                           | ろう者との接し方など、障害を理解するための補足資料。                                 | 新・手話教室入門<br>聞こえない人とのコミュニケーション          |
| 他に良いテキストがないため                     |                           |                                                            | 新・手話教室入門                               |
|                                   |                           | テキストの補足部分として                                               |                                        |
|                                   | 研修センター発行テキストは、健聴者向けであるため。 |                                                            |                                        |
|                                   |                           |                                                            | 初級手話講座 手話でつながろう心と心                     |

|                                       |                                              |   |            |
|---------------------------------------|----------------------------------------------|---|------------|
|                                       |                                              |   | 大学院        |
|                                       |                                              |   | 論文を中心に使用   |
|                                       | カリキュラムの内容に沿っているため。                           |   |            |
|                                       | 聴覚障害学生本人を対象とした授業であるため。                       |   |            |
|                                       | 独自テキスト使用                                     |   |            |
|                                       | 手話を言語として分析することを主眼とする。また多角的学際教育・教養教育の視点を重視する。 |   | 視覚言語の世界    |
|                                       |                                              |   | 少数言語としての手話 |
|                                       | 学生の様々なニーズに対応するため。                            |   |            |
| 覚えてもらいたい単語があるので、会話は独自で作ったテキストを使っています。 |                                              |   |            |
| 5                                     | 7                                            | 4 |            |

## 1) 大学・大学院での使用教材 数値は回答数

|            |   |
|------------|---|
| 研修センター作成教材 | 5 |
| 独自作成教材     | 7 |
| 両方         | 4 |

両方使用を含め研修センター作成教材の使用が多い

|                   |  |
|-------------------|--|
| 研修センター作成テキスト使用の理由 |  |
| 独自作成教材使用の理由       |  |
| 両方使用の理由           |  |

使用テキスト名 \*研修センター作成 「手話で学ぼう、手話で話そう」除く

- |              |              |           |     |
|--------------|--------------|-----------|-----|
| ・新・初級手話教室    | ・たっちゃんと学ぼう   | ・入門「手話教室」 | (3) |
| ・ろう者との対話のために | ・手話奉仕員養成テキスト |           |     |
| ・おぼえようみんなの手話 | ・医療の手話シリーズ①  | ・みんなの手話   |     |

## 7. 手話教育の工夫・課題

### 1)-1 専門学校－手話教育

| 手話教育の授業での工夫                                                                  | 手話教育担当としての困難、課題                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聴覚障害者への理解を深めることを重要と考え、身近な場面での困っていることなどエピソードを話したり、どのように対処すれば良いか問題提起をして考えてもらう。 | 受講する生徒が多く、また階段教室でさらに広いため、生徒一人一人に目配りをすることが難しい。どのように注意したら良いのか困っている。                                                                |
| 市ろう者協会、市中途失聴・難健聴者協会の協力を得て、体験談、ディスカッションを取り入れています。                             |                                                                                                                                  |
| 地元のろう者をゲストに招き交流。コミュニケーションの大切さを体感するためのグループワークなど。                              | 介護福祉士養成の一環として取り入れられているため、手話の向上にはならない。初歩の段階で終わってしまいます。そのため、今後も手話に興味を持ち続けてもらうための工夫が難しい。                                            |
| テキストを参考に介護福祉士を目指す生徒に合わせて指導内容を決め、独自に資料を作成し（レジュメ、パワーポイント）、指導している。              | 聴覚障害者についての興味を持ってもらうことが難しいと考えている。また、手話技術を仕事に活かしてもらうには指導の時間が短く感じている。年度により生徒の状況が違い、それに対応すること、また非常勤講師としての指導であるため、態度の悪い生徒に対しての対応が難しい。 |
| 聴障者が通訳をつけずに一人で指導。当事者と意思疎通を工夫している。音声を使わず、見ることを重視。                             | 手話を日本語に換えることの難しさ。                                                                                                                |
| 地元聴障協会の協力を受け、ゲスト講師を招き、体験学習。                                                  | 検定試験合格を目指し、奉仕員テキスト同等の内容を指導するだけでなく、現場で活用できる手話表現の学習も必要であるため、各科に適したテキスト作成に苦慮している。                                                   |
| 聴障者の生活や抱えている問題等についての理解を深める。                                                  |                                                                                                                                  |
| 日常的にろう者が使用する手話を紹介する。                                                         | 人数が少ないため、グループ討議がしにくい。                                                                                                            |
| ろう運動の話をする。                                                                   |                                                                                                                                  |
| ろう者をゲストに招き、交流する。                                                             |                                                                                                                                  |
| 全国手話検定試験のため、手話を教えています。                                                       |                                                                                                                                  |

## 1)-1 専門学校—手話教育

## 手話教育の工夫

数値は回答数

|                     |   |
|---------------------|---|
| 聴覚障害者理解のためのエピソードを話す | 2 |
| ゲストに招いた聴覚障害者との交流    | 2 |
| 聴覚障害者の話を聞く          | 1 |
| 聴覚障害者とディスカッションする    | 1 |
| 独自資料の作成             | 1 |
| 全国手話検定試験対策          | 1 |
| ろうあ運動について話す         | 1 |

## 手話教育の課題

数値は回答数

|                    |   |
|--------------------|---|
| 態度不良の学生に注意することが難しい | 2 |
| 授業時間が短い            | 2 |
| 興味をどう引き出すか         | 1 |
| 教材づくり              | 1 |
| 受講生が多い             | 1 |

## 1)-2 専門学校—手話通訳者教育

## 手話通訳者教育の授業での工夫

## 手話通訳者教育担当としての困難、課題

|                                                              |                                                       |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 過去の試験問題を行う。通訳現場の話を紹介する。ろう運動の話をする。                            | 少人数のため、他者から学ぶ視点に乏しい。若い学生には社会人経験がなく、多様な場面でのイメージが作りにくい。 |
|                                                              | ろう運動などは、詳しくその時の社会状況も含めて話さないとその苦労や理解が深まらない。            |
|                                                              | 現場経験のない学生に対して、現場で求められる価値、知識、技術を指導すること。                |
| 通訳者として必要な心構え、様々な聴覚障害者がいること、マニュアル通りにはいかないこと、対人労働であること等を話している。 | 居住地でのサークル活動、または地元ろう協との関わりをもたずにいる。                     |

## 1)-1 専門学校—手話通訳者教育

### 手話通訳教育の工夫

数値は回答数

|                |   |
|----------------|---|
| ろうあ運動について話す    | 2 |
| 過去の試験問題を使用する   | 2 |
| 通訳現場の話をする      | 1 |
| 手話通訳のエピソードをはなす | 1 |
| 手話通訳者の態度について話す | 1 |

### 手話通訳教育の課題

数値は回答数

|                        |   |
|------------------------|---|
| 少人数教育で、他者からの刺激が少ない     | 1 |
| 学生が多様な場面についてイメージが持ちにくい | 2 |
| ろう運動についての理解が深まらない      | 1 |
| 居住地域での手話サークルへの参加       | 1 |
| 居住地域でのろう団体との関係作り       | 1 |

## 2) 短大—手話教育

### 手話教育の授業での工夫

### 手話教育担当としての困難、課題

|                                                     |                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聴覚障害やその生活、運動など理解してもらえるよう5つの講義がある。                   | 特に感じませんが、現在の講師が辞めた後の後任がどうなるのかということが課題。                                                                              |
| 「世界に一つだけの花」を最後に手話で歌う時間がある。                          |                                                                                                                     |
| ろう者の生活などを知ってもらうために、「ろうを生きる難聴を生きる」などの番組を録画したDVDをみせる。 | 入門のテキストを使用して、自分の自己紹介ができるようにしているが、時間との関係で幅広い会話までできない。                                                                |
| 伝言ゲーム、口形ゲームなど楽しくできるようにしている。                         | 手話検定（5級）を受けてほしいが、後期授業のためできない。                                                                                       |
| 地元の聴覚障害者数名を招き、交流実践を行っている。                           | 地域の入門講座とは異なり、学生のモチベーションを高めるために工夫が必要である。                                                                             |
| ゲスト講師を招き、ミニ講演20分＋全員と1対1の会話で通じない経験をしてもらう。            | 担当時間（コマ数）があまりに短い。通年、入学から卒業まで学んでほしい。できれば必修としてほしい。                                                                    |
| 講義＝手話に関すること、聴障および聴障者に関すること等の講義と技術を並行して行う。           | ゲスト講師を招く回数を増やしたい。                                                                                                   |
| ろう者を特別講義の講師に招き、交流、講演                                | 授業時間数が少ない。                                                                                                          |
| ろう者の生活や聴覚障害理解につながる内容のDVDを授業で活用している。                 | 健聴講師のみで講座を担当しているため、学生が実際にろう者と接する機会がない。                                                                              |
| ろう者の講演                                              | 授業を担当して10年以上ですが、試行錯誤の毎日。自分の授業がマンネリになっていないか、学生が将来現場で役立つように知識、技術をと日々悩んでいる。そろそろ交代したいのでろう協と相談しているが、地元での人材不足。これが最大の課題です。 |

|                                                                                |                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 地元ろうあ者との交流<br>DVD の使用（入門、手話検定）<br>※回数が多い学校では盲ろう者の<br>講演、コミュニケーション体験も<br>入れている。 |                                                                 |
| ろう者の生活面についての DVD 等<br>をみてもらう。                                                  | 聞こえない人々についての困っていること、現在の<br>様子等の話し合いをする時、どのようにどのくらい<br>話したらよいのか。 |

## 1)- 2 短期大学—手話教育

## 手話教育の工夫

数値は回答数

|                     |   |
|---------------------|---|
| 聴覚障害者理解のためのエピソードを話す | 1 |
| ゲストに招いた聴覚障害者との交流    | 3 |
| 聴覚障害者の話を聞く          | 2 |
| 手話で歌う時間をとる          | 1 |
| 映像資料の活用             | 4 |
| 伝言ゲームなどを取り入れる       | 1 |
| 実技だけでなく知識の学習をする     | 1 |

## 手話教育の課題

数値は回答数

|                      |   |
|----------------------|---|
| 興味をどう引き出すか           | 1 |
| 講師の確保                | 2 |
| 授業時間が短い              | 2 |
| 後期授業なので手話検定試験が受けられない | 1 |
| ゲスト講師の回数を増やしたい       | 1 |
| 学生がろう者と接する機会がない      | 1 |

### 3)-1 大学—手話教育

#### 手話教育の授業での工夫

#### 手話教育担当としての困難、課題

|                                                                                                                            |                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題レポートとして、受講生から聴障者に提供できる音声情報をまとめさせる。(例：公共の場所や店のアナウンス等)                                                                     | 聴障者の生活上の障壁をわかりやすく見せられるDVD教材があれば良いと思う。家庭で、職場で、外で…等、場面別に困っていることや工夫していることが見られると良い。         |
| いろいろな物の絵カードや文字カードを用意し、表現している。                                                                                              | 聴障者数や特別支援教育（聴覚）に関するデータを毎年更新して見られるサイトがあると良い。(最新データを得るのに苦労した)                             |
| ろう者との手話による会話。                                                                                                              | 特にないが、情報保障（意思疎通支援のこと）が十分でないと感じています。                                                     |
| テキストのほかに、教材の作製や関連資料の配布をしている。                                                                                               | 看護学部を受講生に合った医療用語や受付時の対応など入ったテキストがあると良い。                                                 |
| 手話検定試験5級に出題される「自己紹介」を学び、模擬試験を行うことによって手話検定試験に挑む意欲を高めるようにした。                                                                 | 各講義の後、アンケートに質問が多く寄せられているが、時間の都合上、すべて答えることができなかった。講義の回数を増やすなどの工夫が必要かと思われる。               |
| 聴覚障害者を理解しながら、コミュニケーション方法等を指導する。                                                                                            |                                                                                         |
| ろう者をとりまく社会現状を伝えるようにしている。                                                                                                   | 健聴講師1人で教えていること。ろう者とペアで教えたい。                                                             |
| 地元ろう者との交流の時間を設ける。                                                                                                          | テキスト（DVD含む）に掲載されている手話単語が少なく自身での復習が困難。<br>手話の動きが地域の手話や一般的に普及している（わたしたちの手話に掲載されている）手話と違う。 |
| 学生数が多いので、視覚的に学ぶことができるようPPTを多用、手話を教える時にはろう者・通訳者ともに音声を切って見て覚えるよう工夫する、ほぼ毎回講義を30分行う、授業が飽きないように学生を前に出して手話を表現するよう指導、ゲームなども取り入れる。 | 学生が多すぎて、教える内容が深められない。学生ひとりひとりに丁寧な指導ができない。<br>階段教室の固定椅子ではグループでの話し合いなどができない。              |
| 講師と補助員数名はろう者であり、本格的な手話を教育している。                                                                                             | 一度学んだ手話を講義終了後も維持することが難しい。                                                               |
| ろう講師だけで指導が可能になるように、前半7回で、手話単語指導や手話以外のコミュニケーションの取り方等促成指導。2人指導の2回は直接コミュニケーションができるように再指導する。                                   | 回数が少ない。1コマは90分。講義30分実技1時間で授業に工夫が要る。学生数が10人程度なら応用学習もできるが、20人となると時間が足りない。                 |
| 手話だけでなく、聴覚障害者の問題等を含めて授業を行っている。                                                                                             |                                                                                         |
| ビデオとかDVD等を使用している（映画、ニュース等）。                                                                                                | 受講者が多い時は、なかなか細かい指導ができない面がある。                                                            |
| 人数が多い時はグループを作って学修をしている。                                                                                                    |                                                                                         |
| DVDを視・聴覚障害の現状を理解してもらっている。                                                                                                  | 講義の際は人数に問題はないが、手話指導となると目が行き届かないため、講師の指導の質が問われてくる。<br>ろう者成人コミュニティとのつながりにさらなる工夫が求められる。    |
| 受講学生にもなるべく発言、手話表現させるようにしている。                                                                                               | 現在受講している学生は、大学院で学ぶまで手話教育、手話言語に関する専門知識を有していない状態なので、基礎から指導するのに時間がかかる。                     |



|                                                                                |                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 日本手話の映像教材を多数利用し、日本手話、ろう文化に触れさせる。                                               | ろう講師と1つの授業を分担して教えているが、本来はチームティーチングやろう講師が中心で教える体制が必要。              |
| 地元のろう者をゲストに招き交流する。                                                             | 時間や場所が限られてしまう。                                                    |
| いろいろな場所に学生を連れていく。                                                              |                                                                   |
| 特別支援教職科目の必修および教養科目と位置付ける。また1科目は講師がろう当事者。                                       | 特にない。大変意義ある科目であると考えている。                                           |
| 手話表現を覚えるだけでなく、手話という言葉について理解を深めるために（聴覚障害および聴覚障害者についての理解を深めることも含めて）様々な工夫を行っています。 | 担当者として困難なこと、課題と思うことは随時解決しているので、特に記述することはありませんが、国としての課題は多々あると思います。 |
| 今の受講生が就職した時に、聴覚障害者との簡単な会話ができるように独自で作った会話テキストを使っている。                            | 手話講座修了時に修了証を与えた方がいいのではないかと思います。                                   |

## 1)-3 大学ー手話教育

## 手話教育の工夫

数値は回答数

|                     |   |
|---------------------|---|
| 聴覚障害者理解のためのエピソードを話す | 2 |
| ゲストに招いた聴覚障害者との交流    | 2 |
| 映像資料の活用             | 4 |
| 伝言ゲームなどを取り入れる       | 1 |
| 音声情報についてのレポートを書かせる  | 1 |
| 絵カード・文字カードの使用       | 1 |
| 独自教材の作成             | 2 |
| 手話検定試験対策            | 1 |
| ろう者が主となって指導する       | 3 |
| グループ学習              | 1 |
| 受講生に発言を求める          | 1 |
| いろいろな場所に学生を連れて行く    | 1 |

## 手話教育の課題

数値は回答数

|                    |   |
|--------------------|---|
| 学生がろう者と接する機会がない    | 1 |
| 適切な映像教材            | 1 |
| 適切なテキスト            | 2 |
| 最新データの活用           | 1 |
| 講師への情報保障           | 1 |
| 看護学生に対応するテキスト      | 1 |
| 講義回数が少ない・足りない      | 4 |
| ろう者講師とペアで担当したい     | 1 |
| ろう講師が主となって指導する     | 1 |
| 受講生が多い             | 3 |
| 固定机・イスでグループ学習がしにくい | 1 |
| 事後学習（復習）が十分でない     | 1 |

### 3)-2 大学—手話通訳者教育

手話通訳者教育の授業での工夫

手話通訳者教育担当としての困難、課題

|                    |                                                            |
|--------------------|------------------------------------------------------------|
| 手話通訳を分析的に見る視点を育てる。 | 学術手話通訳レベル対応カリキュラムの開発。                                      |
|                    | 現時点では未開講だが、通訳研究に関わる文献はほとんどが英語なので、学生にとっては理解が難しいのでは？と心配している。 |
| 全国手話検定試験（過去問題）を活用。 | 受講希望者が少ないこと。                                               |

### 3)-2 大学—手話通訳者教育

手話教育の工夫

数値は回答数

|                    |   |
|--------------------|---|
| 手話通訳を分析的に見る視点を育てる  | 1 |
| 全国手話検定試験等過去問題）を活用。 | 1 |

手話教育の課題

数値は回答数

|                      |   |
|----------------------|---|
| 学術手話通訳レベル対応カリキュラムの開発 | 1 |
| 日本語の通訳研究の文献が少ない      | 1 |
| 受講希望者が少ないこと          | 1 |

## 8. 手話教育・手話通訳者教育に携わった経験

### 1) 専門学校

|         | ①手話教育<br>地域での養成 | ①手話教育<br>高等教育機関での教育 | ②手話通訳者教育<br>地域での養成 | ②手話通訳者教育<br>高等教育機関での教育 |
|---------|-----------------|---------------------|--------------------|------------------------|
| 5 年以下   | 2               | 4                   | 1                  | 1                      |
| 6-10 年  | 1               | 1                   | 1                  | 3                      |
| 11-15 年 | 3               | 0                   | 1                  | 0                      |
| 16-20 年 | 0               | 0                   | 0                  | 0                      |
| 21 年以上  | 3               | 1                   | 2                  | 0                      |
| 平均年数    | 15.5 年          | 7.9 年               | 16.2 年             | 9.25 年                 |
|         | 最高 30 年         | 最高 30 年             | 最高 30 年            | 最高 10 年                |

### 2) 短大

|         | ①手話教育<br>地域での養成 | ①手話教育<br>高等教育機関での教育 | ②手話通訳者教育<br>地域での養成 | ②手話通訳者教育<br>高等教育機関での教育 |
|---------|-----------------|---------------------|--------------------|------------------------|
| 5 年以下   | 0               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 6-10 年  | 2               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 11-15 年 | 1               | 2                   | 1                  | 0                      |
| 16-20 年 | 2               | 3                   | 0                  | 0                      |
| 21 年以上  | 4               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 平均年数    | 24 年            | 16 年                | 22.5 年             | 回答なし                   |
|         | 最高 38 年         | 最高 20 年             | 最高 38 年            |                        |

## 2) 大学

|         | ①手話教育<br>地域での養成 | ①手話教育<br>高等教育機関での教育 | ②手話通訳者教育<br>地域での養成 | ②手話通訳者教育<br>高等教育機関での教育 |
|---------|-----------------|---------------------|--------------------|------------------------|
| 5 年以下   | 1               | 3                   | 2                  | 2                      |
| 6-10 年  | 3               | 9                   | 0                  | 0                      |
| 11-15 年 | 3               | 3                   | 1                  | 1                      |
| 16-20 年 | 3               | 1                   | 1                  | 0                      |
| 21 年以上  | 4               | 2                   | 1                  | 0                      |
| 平均年数    | 18.8            | 10.6                | 12.8               | 7.5                    |
|         | 最高 40 年         | 最高 30 年             | 最高 25 年            | 最高 14 年                |

## 8. 手話教育・手話通訳者教育についての意見

## ①必要な科目

## 1) 専門学校

- ・手話言語としてのそのしくみ（歴史）
- ・意思疎通とは何か？
- ・聴覚障害者の歴史                      ・聴覚障害者の生活と理解                      ・聴覚障害者のコミュニケーション
- ・聴覚障害者の特性の理解              ・コミュニケーション技術                      ・聴覚障害者が利用する制度について
- ・聴覚障害の基礎知識、聴覚障害者の生活、手話の基礎知識                      ・ろう教育
- ・現行以外に教える側、教わる側の心理的なこと。
- ・現在の制度とろう運動の関わりが教えられる科目。
- ・講義
- ・手話言語について、聴障者の暮らし、制度、ろうあ運動の歩み等に加えて、コミュニケーション力、指導方法等も学んでほしい。
- ・演習
- ・シラバス、指導案の作成等
- ・実習
- ・模擬授業
- ・講義・演習科目については奉仕員・通訳者養成テキストに収載されている内容を科目立てし、自身の経験を含めて講義できれば良いと考えます。
- ・実習科目は、地域講習会での観察実習および初心者への実践。

## 2) 短大

- ・手話教育においては、手話を第一言語もしくは手話で生活している聴覚障害者が指導することが望ましい（講師がロールモデル）。
- ・コミュニケーションすることの大事さ（特に携帯やメールが主になりつつあることに警鐘をならす）に気づかせる。
- ・初めから各講座ごとに到着目標を講師も学生も理解していること。
- ・講義で聴覚障害のこと、コミュニケーション方法、手話の基礎知識、ろう者のくらしを中心にろう教育や高齢ろう者のこと、制度のことを話しています（20～30分各）。そのこともカリキュラムに入れてほしい。
- ・全て大切だと思う。
- ・手話の基礎知識（成り立ち・歴史等）、聴覚障害者の基礎知識（聴覚障害・言語障害・聴障の原因・コミ法等）、障害者福祉の歴史および制度、ろう者に関する制度および歴史、聴障者に関する知識および権利（教育・労働・言語の獲得・家庭（生育環境）・参政権・盲ろう者・情報保障・視覚文化等）、ろう運動（歴史・展望）、手話サークル（歴史・役割）、手話通訳（歴史・役割・課題等）、福祉支援技術、日常会話、地域、年代層による違い、文法
- ・講義科目、演習科目、実習科目
- ・聴覚障害の基礎知識、聴覚障害（ろうあ）運動と手話、コミュニケーション理論・対人援助技術、グループワーク・事例検討の進め方、障害福祉の基礎知識、授業実践法（教材の研究、評価など）
- ・ろう者と交流する時間や講演を聞く時間があると良いと思います。
- ・講義、演習、実習は必要だと思いますが、実習については難しい面もあります。

## 3) 大学

- ・日本のろう教育史、ろう教育の状況
- ・日本の意思疎通支援事業の経緯
- ・手話の成り立ち
- ・新しい手話
- ・講義科目：手話通訳者の健康管理
- ・演習科目：日本語の要約、インストラリングトレーニングを含む日本語の学習
- ・実習科目：現場の実習よりも、通訳依頼が来てから現場に行くまでの事前準備についての学習
- ・高等教育機関の教育方針に沿って、カリキュラムを構成している。
- （※カリキュラム作成は、講師派遣元の聴覚障害者センターが行っています。）
- ・ろう者、聴覚障害者を理解するための講義。
- ・手話技能を身につけるための講義。
- ・身に付けた手話でろう者とコミュニケーションをとる実習中心の授業。
- ・講義科目
- ・「聴覚障害の基礎知識」「聴覚障害者福祉制度と課題」「言語としての手話」「聴覚障害者とのコミュニケーション方法と留意点」「ろう者の生活実態とその心理」「聴覚障害者運動」「聴覚障害者と社会環境」「手話通訳論」「手話概論（手話通訳制度等）」など、直接指導する講義の内容の学習。
- ・「教育指導法」「教師の役割と責任」「到達目標の理解」「指導方法のポイント」など、講師としてどのように教えるかの学習。
- ・演習科目
- ・ロールプレイとして模擬授業の生徒役をする。シラバス・指導案の作成。筆記試験問題の作成等評価の仕方。
- ・実習科目
- ・単元別の模擬授業（1人での指導の場合・ろう者と健聴者2人での指導の場合）
- ・高等教育専門の短期間コース
- ・15回前期、15回後期のテキストがあると望ましい。
- ・手話人文学（言語学、社会学、ろう者学などを統合したもの）
- ・通訳理論（基本的なもの）

- ・言語教授法（言語獲得、言語指導、言語評価）
- ・手話言語学特論／演習 手話教育特論 ろう者の社会 ろう者の生活 ろう者と健聴者のちがい
- ・通訳理論に関する知識。特に通訳プロセス、モデル。
- ・評価法についての実技、演習。
- ・手話学についての知識。
- ・ダイレクトアプローチによる指導技術。
- ・講義科目
- ・手話、手話学、手話通訳論、聴覚障害者福祉論、聴覚障害学
- ・演習科目
- ・手話研究演習、手話通訳研究演習
- ・実習科目
- ・手話通訳実習（2～4週間）
- ・どれも必要だと思います。
- ・言語学とろう文化、および手話そのものを語学として教えるクラス。
- ・手話を客観的に分析し、言語体系、文法その他、理論的に捉える科目。
- ・生活や行動パターンなどに密接に結びついたコミュニケーションツールとしての理解を深める科目。
- ・教えるということに特化した科目（教育論、指導論等）。
- ・教育心理学などをふまえてより良い教育を行うための科目。
- ・会話テキストがあればいいなと思っています。

## ①必要な科目

## 1) 専門学校

|       |             |       |          |      |
|-------|-------------|-------|----------|------|
| 手話学   | コミュニケーション論  | 聴覚障害学 | 聴覚障害者福祉論 | ろう教育 |
| ろうあ運動 | コミュニケーション技術 |       |          |      |

## 2) 短大

|        |       |          |       |            |
|--------|-------|----------|-------|------------|
| 手話学    | 聴覚障害学 | 聴覚障害者福祉論 | ろうあ運動 | コミュニケーション論 |
| 対人援助技術 | 障害者福祉 | 手話通訳論    |       |            |

## 2) 大学

|       |          |            |        |      |       |
|-------|----------|------------|--------|------|-------|
| ろう教育  | 意思疎通支援事業 | 手話学        | 手話通訳論  | 通訳理論 | 手話人文学 |
| 聴覚障害学 | 聴覚障害者福祉論 | 聴覚障害運動     | ろう文化   |      |       |
| 言語教授法 | 日本語演習    | 手話言語学特論／演習 | 手話教育特論 |      |       |
| 教育論   | 指導論      | 教育心理学      |        |      |       |

②カリキュラム策定にあたって大切な視点

1) 専門学校

- ・聴覚障害者とコミュニケーションをとることの大切さ、聴覚障害者に対する理解を深めること。
- ・聴覚障害者の障害ゆえの状況について理解を深める。
- ・社会の中で手話が当たり前のように広がってほしいという気持ちを醸成すること。
- ・伝えあうことの大切さ。
- ・手話技術指導だけではなく、手話の学習を通じて何を学んでもらうかが大切。社会を変えていく人材の養成であってほしい。
- ・運動からの学びと変化を敏感に受け止める力。

2) 短大

- ・楽しく授業に参加する、参加できる環境を講師が作れること（ゲームや遊びの要素）。
- ・実技に偏らない。講義や体験談を通して聴覚障害者の生活、運動などを理解し、きこえるサイドからのサポートが自発的にできるようにする。
- ・つめこみ過ぎ、教えっぱなし、カリキュラム通り…というようなことのないように、教える側も学ぶ側にも余裕を持たせられるようにする。
- ・手話言語法が制定されれば、講師不足という問題が出てくる。その対策を今から立てること。
- ・実技については自己紹介や簡単な日常会話くらいはできるようにしてほしい。
- ・ろう者の特徴を理解し、ろう者の言語である手話を指導できるようにする。
- ・ろう者の願う通訳者の役割、手話の広まりとは何かを念頭におき、「ろう者の社会的自由の確保」を目指す人材の育成。
- ・聴覚障害についての理解を通して、聴覚障害者のコミュニケーション環境について学ぶ。
- ・手話を教えるにとどまらず、手話を使って生活する聴覚障害者やその暮らしに学生が目をつけることのできる指導力を身につけられる講師養成カリキュラム。
- ・授業を受けている学生に将来どんな人になってほしいか、どんな介護福祉士になってほしいか、常にこのことを考えながら授業することが大事だと思う。（聴覚障害者のことを考えられ、工夫できる人になってほしい）
- ・教える力をつけることが大切ですので、ベテラン教師の授業を見学したり、コツ等を教えてもらえることがあると良いかと思います。
- ・講義の教え方、演習、実習についてはどこにポイントをおいて教えたらよいのか。
- ・学習のねらい、に重点をおいて教えています。

## 3) 大学・大学院

- ・通訳者養成では、テキスト奉仕員～通訳者Ⅱ（Ⅲ）までの一貫した教育が必要と思います。それとは別に手話教育では、地域に合った別テキストが望ましいと思います。
- ・ろう者の生活を見る、という視点。
- ・短期間で手話技能を身につけた後、能力を維持していくしくみを作ること。
- ・共に歩むという姿勢・聴覚障害に対する理解・人権意識
- ・ひとつに、より多くの高等教育機関が手話教育ないし手話通訳養成に取り組むにあたって、参考とできるカリキュラム（モデル）を策定すること。
- ・他分野を含む学術的知見から学ぶこと。
- ・総合的、連続的なカリキュラム作り
- ・目標の明確化。
- ・障害を文化と見る視点。語学としてろう者に学ぶことにより、障害者を尊敬するようになることがまず第一歩である。
- ・手話は、聴覚障害者にとって大切なコミュニケーションツールです。
- ・コミュニケーションとは何なのか。コミュニケーションに大切な要素は何なのか。という視点も忘れてはならないと思います。
- ・手話でコミュニケーションがとれる。

②カリキュラム策定にあたって大切な視点

| 1) 専門学校                | 専門学校 | 短期大学 | 大学・大学院 | 合計 |
|------------------------|------|------|--------|----|
| 聴覚障害者理解                | 2    | 2    | 2      | 6  |
| 聴覚障害者とのコミュニケーションが手話できる | 1    | 1    | 1      | 3  |
| 社会を変えていく人材養成           | 1    | 1    |        | 2  |
| 運動から学ぶ・理解する            | 1    | 1    |        | 2  |
| モデルカリキュラムの作成           |      |      | 2      | 2  |
| 手話を普及しようとする気持ち         | 1    |      |        | 1  |
| 伝え合う大切さ                | 1    |      |        | 1  |
| 楽しい授業                  |      | 1    |        | 1  |
| 教える側も学ぶ側にも余裕を持たせられる    |      | 1    |        | 1  |
| 講師不足についての対策            |      | 1    |        | 1  |
| 手話通訳の理解                |      | 1    |        | 1  |
| コミュニケーション環境の理解         |      | 1    |        | 1  |
| 聴覚障害者を支える人材育成          |      | 1    |        | 1  |
| 講義の教え方、演習、実習のポイント      |      | 1    |        | 1  |
| 一貫した手話通訳教育             |      |      | 1      | 1  |
| 地域に即した手話テキスト           |      |      | 1      | 1  |
| 学習後の学習維持機会の確保          |      |      | 1      | 1  |
| 「共に歩む」という姿勢            |      |      | 1      | 1  |
| 学術的な知見の涵養              |      |      | 1      | 1  |
| 障害を文化と見る視点             |      |      | 1      | 1  |
| 手話の理解                  |      |      | 1      | 1  |
| コミュニケーションの理解           |      |      | 1      | 1  |

③手話教育・手話通訳者教育に関する要望・意見

1) 専門学校

- ・今後「手話言語法」が制定された場合、今にもまして指導の場面が増加すると予想されます。しかし、指導担当できる人材が不足している状況となっており、不安に思っています。
- ・昨年まで全通研討論集会有り、「専門学校等における手話講座」の分科会有り、各地で学校を担当している講師が集い、情報交換や指導目的や内容等について学びあうことができた。2月に開催されていたので、1年のふりかえりと同時に、次年度のシラバス作成の参考になった。これにかわる学習の場をぜひ作っていただきたい。
- ・きこえない人は、きこえない＝手話指導ができる、と考えている人が多いように思う。
- ・自分の手話だけが正しいと考え、テキストやDVDの表現を認めないきこえない人がいると、テキスト使用が難しくなる。



## 2) 短大

- ・手話教育と言っても、時間数や対象者が違います。私が担当している高等教育機関でも、8コマ（90分）15コマ（90分）22～24コマ（50分）とバラバラです。調査をまとめて、そのあたりを考慮して一律でないカリキュラムを作してほしい。
- ・「通年の必修科目とする。ろう者と接する機会を増やす」を願います。講義の初めに「到着目標＝手話を好きになる。ろう者と話したくなる自分づくり」と言います。少ない時間では自由にコミュニケーションできるようになるのは不可能です。地域のろう者と接する機会の案内をします。力不足を痛感しておりますが、よりよい講師人材の育成を願っています。今は通訳を目指す人もろう者ではなくテキストを見る時代を憂えています。
- ・通訳者養成講義テキストの「ことばの仕組み【手話】」の内容をさらに深めた内容が手話教育や手話通訳者教育を担当する講師養成カリキュラムに必要なだと思います。非手指標識やCL構文など。
- ・学校ではカリキュラムの関係上難しいですが、ろう者と健聴者が一緒に担当することが大切だと思います。ろう者とともに学べる機会が増えることが望ましいと思います。
- ・講師養成の講座等、地方でもやってほしいです。
- ・遠方でも日帰りできる日程でしたら参加できると思います。

## 2) 大学

- ・全国手話研修センター発行テキストは教材としてすばらしい物と思っておりますが、1講座90分のカリキュラムは無理があります。120分にしていきたいです。
- ・健聴講師1人でも教えられる方法を知りたい（地域のろう者にきいてみよう、といった項目の対応方法がわからない）。
- ・「意思疎通支援」の手話奉仕員、手話通訳者養成のカリキュラムとは別に、大学の授業では15回が1つの単位となっているので、それに合ったテキストがあるとありがたい。
- ・手話教室のテキストはB4サイズで大きすぎて不便を伴うので、A4かB5サイズのテキストを希望する。
- ・社会福祉専門の大学は、手話カリキュラムに沿って大学の中で手話を科目としての地位を与えるべきと考える。
- ・手話通訳士の試験に直接結び付くような育成課程を設けたらと思う。
- ・若い人たちが希望をもって目標に向かい、手話通訳士の試験に直接結び付くような育成課程を設けに結びべき取り組みを、国に要望してほしい。意思疎通支援制度の在り方と絡み合わせ、高等機関での養成も将来の日本には必要と思われる。
- ・検討委員会との意見交換の場を持ちたい。
- ・高等教育機関（大学、大学院）での養成（専門職養成）が求められている。
- ・専門職として働く場の確保・拡充。
- ・手話は、日本手話、日本語対応手話、地域手話等に分類している方は多数見かけられますが、写像的表現と言語的表現という観点できちんと指導している方はほとんどいません。とても大切な部分だと思うのですが。
- ・できれば、聴覚障害者をゲストに呼んで交流会をしたいと思っています。

③手話教育・手話通訳者教育に関する要望・意見（上記自由記述の分類・数値化）

|                                | 専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | 合計 |
|--------------------------------|------|----|--------|----|
| 手話教育ができる講師人材の育成・確保             | 1    | 1  | 1      | 3  |
| 手話教育の時間数の標準化と確保                |      | 1  | 1      | 2  |
| 手話教育は通年科目・必修とする                |      | 1  | 1      | 2  |
| 手話通訳士を目指せる一貫した手話通訳者養成カリキュラムの実施 |      |    | 2      | 2  |
| 手話教育担当講師の研修機会                  | 1    |    |        | 1  |
| 教育力を有する講師の確保                   | 1    |    |        | 1  |
| テキスト・教材の活用                     | 1    |    |        | 1  |
| 「ことばの仕組み【手話】」を深めた講義科目の開設       |      | 1  |        | 1  |
| ろう者と健聴者が一緒に担当することが大切           |      | 1  |        | 1  |
| 講師養成講座の都道府県開催                  |      | 1  |        | 1  |
| 講師の教育技能の向上                     |      |    | 1      | 1  |
| 大学講義にあったテキストの開発                |      |    | 1      | 1  |
| 高等教育機関（大学、大学院）での専門職養成          |      |    | 1      | 1  |
| 専門職として働く場の確保・拡充                |      |    | 1      | 1  |
| その他                            |      |    | 3      | 3  |
| 地域に即した手話テキスト                   |      |    | 1      | 1  |
| 学習後の学習維持機会の確保                  |      |    | 1      | 1  |
| 「共に歩む」という姿勢                    |      |    | 1      | 1  |
| 学術的な知見の涵養                      |      |    | 1      | 1  |
| 障害を文化と見る視点                     |      |    | 1      | 1  |
| 手話の理解                          |      |    | 1      | 1  |
| コミュニケーションの理解                   |      |    | 1      | 1  |

---

発行日：2015 年 3 月 31 日

編集：意思疎通支援講師養成カリキュラム等策定事業委員会

発行：一般財団法人全日本ろうあ連盟

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SK ビル 8F

TEL. 03-3268-8847 FAX. 03-3267-3445

ホームページ <http://www.jfd.or.jp/>

Eメール [info@jfd.or.jp](mailto:info@jfd.or.jp)

印刷：日本印刷株式会社

---

